

鳥栖市転入及び転出アンケート調査 報告書

2026年1月

目次

1.はじめに.....	1
1-1 調査の目的	1
1-2 調査対象	1
1-3 実施方法	1
1-4 回答数.....	1
1-5 年齢.....	1
1-6 世帯構成.....	2
2.転入	3
2-1 年齢構成	3
2-2 世帯構成.....	3
2-3 転入元	5
2-4 転入元(市町村)	8
2-5 住居状況.....	9
2-6 通勤・通学先	14
2-7 転入理由.....	16
2-8 鳥栖市の選定理由	22
3.転出	32
3-1 年齢構成	32
3-2 世帯構成.....	32
3-3 転出先	34
3-4 転出先(市町村)	37
3-5 住居状況.....	38
3-6 通勤・通学先	43
3-7 転出理由.....	43
3-8 転出先の選定理由	48
3-9 鳥栖市の改善点.....	57

1. はじめに

1-1 調査の目的

本アンケート調査は、“鳥栖発”創生総合戦略に掲げる「これからも、選ばれ続ける鳥栖シティ！」の実現に向けて、本市への転入者及び転出者の背景等を把握するために実施したものである。

1-2 調査対象

令和6年11月から令和7年5月までの間に本市へ転入したもの、または本市から転出したものを対象としている。

1-3 実施方法

転入又は転出の手続きをした方にQRコードを配布し、WEB調査(鳥栖市オンライン申請サービス)にて実施した。

1-4 回答数

アンケートの回答数は308件、転入転出の別の内、「転入」と答えたものが162件(52.6%)、「転出」と答えたものが146件(47.4%)であった。

表1-1 全体集計結果

回答数	308
内転入	162
内転出	146

1-5 年齢

年齢は「20～29歳」が最も多く46%、次いで「30～39歳」が21%、「50～59歳」が12%であった。

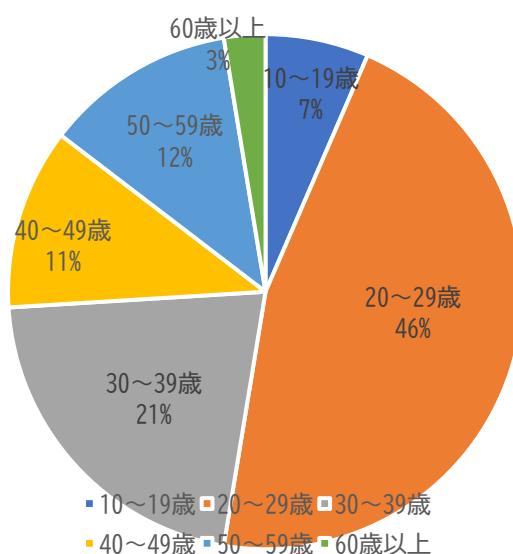


図1-1 年齢

1-6 世帯構成

回答者の世帯構成は、55%が単身、45%が世帯であった。

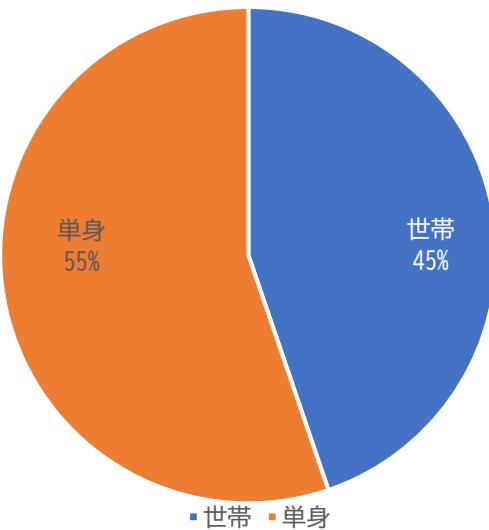


図1-2 世帯構成

2. 転入

転入と回答した 162 件の内、市内転居を除いた 108 件について集計を行った。

2-1 年齢構成

転入者の年齢構成については「20~29 歳」が最も多く 45%、次いで「30~39 歳」が 24%、「40~49 歳」が 13% であった。

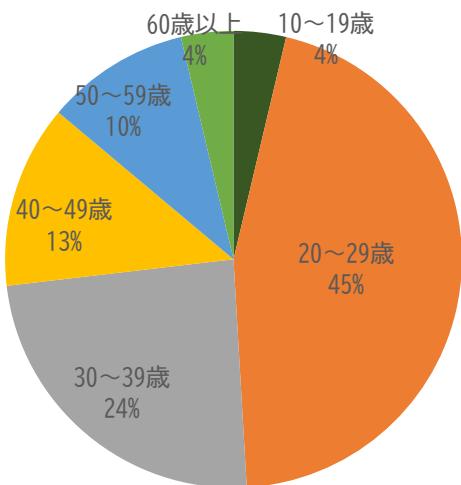


図 2-1 年齢構成（転入）

2-2 世帯構成

転入時点の世帯構成としては、世帯が 48%、単身が 52% であった。

世帯のうち、夫婦のみの転入は 59%、未就学の子どもを帶同しての転入は 18%、就学済みの子どもを帶同しての転入は 23% であった。

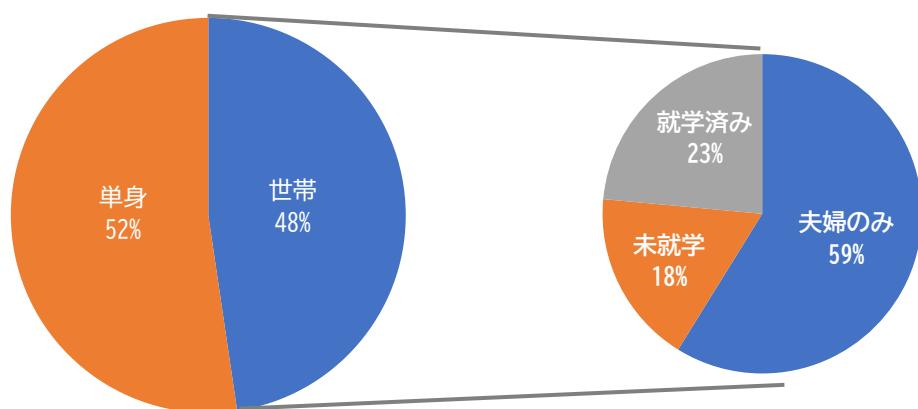


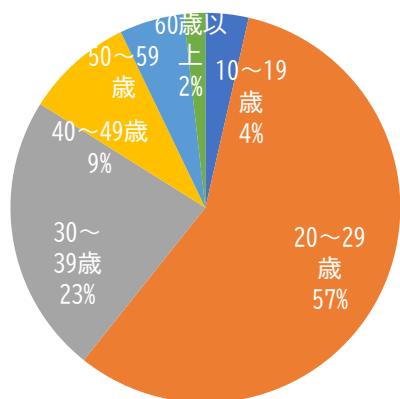
図 2-2 世帯構成（転入）

単身と回答したものの年齢構成としては「20～29 歳」が最も多く 57%、次いで「30～39 歳」が 23%、「40～49 歳」が 9% であった。

また、世帯と回答したものの年齢構成としては「20～29 歳」が最も多く 33%、次いで「30～39 歳」が 25%、「40～49 歳」及び「50～59 歳」が 16% であった。

さらに、世帯の詳細をみると、夫婦のみでの転入は「20～29 歳」が最も多く 31%、次いで「30～39 歳」が 12% であり、子どもを帯同しての転入は「30～39 歳」が最も多く 14%、次いで「40～49 歳」及び「50～59 歳」が 10% であった。

(単身)



(世帯)

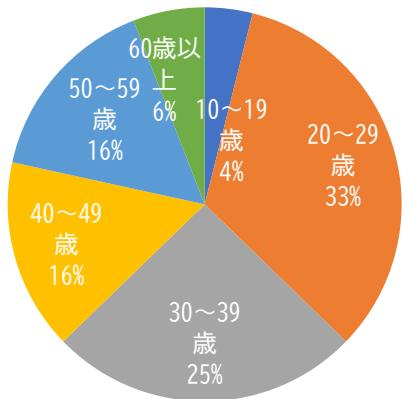


図2－2－ア 世帯構成・年齢構成①

(世帯詳細)

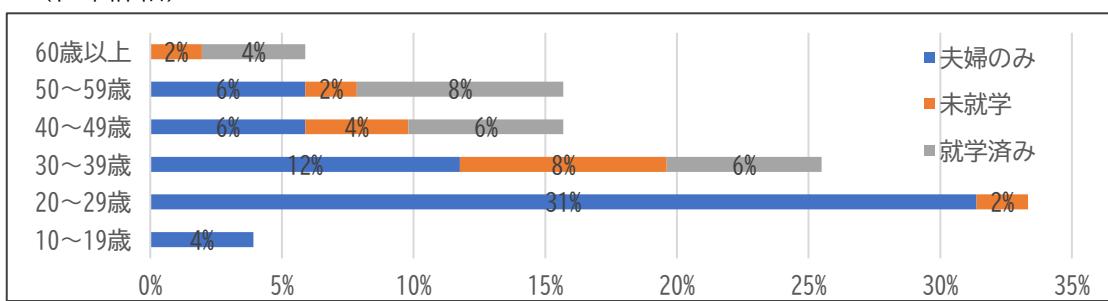


図2－2－イ 世帯構成・年齢構成②

2-3 転入元

転入元としては、福岡県が最も多く41%であり、次点は佐賀県が19%、熊本県が11%であった。さらに、年齢別にみると、福岡県から転入した「20～29歳」が全体の20%と最も多く、次点で福岡県から転入した「30～39歳」が10%、佐賀県から転入した「20～29歳」が9%であった。

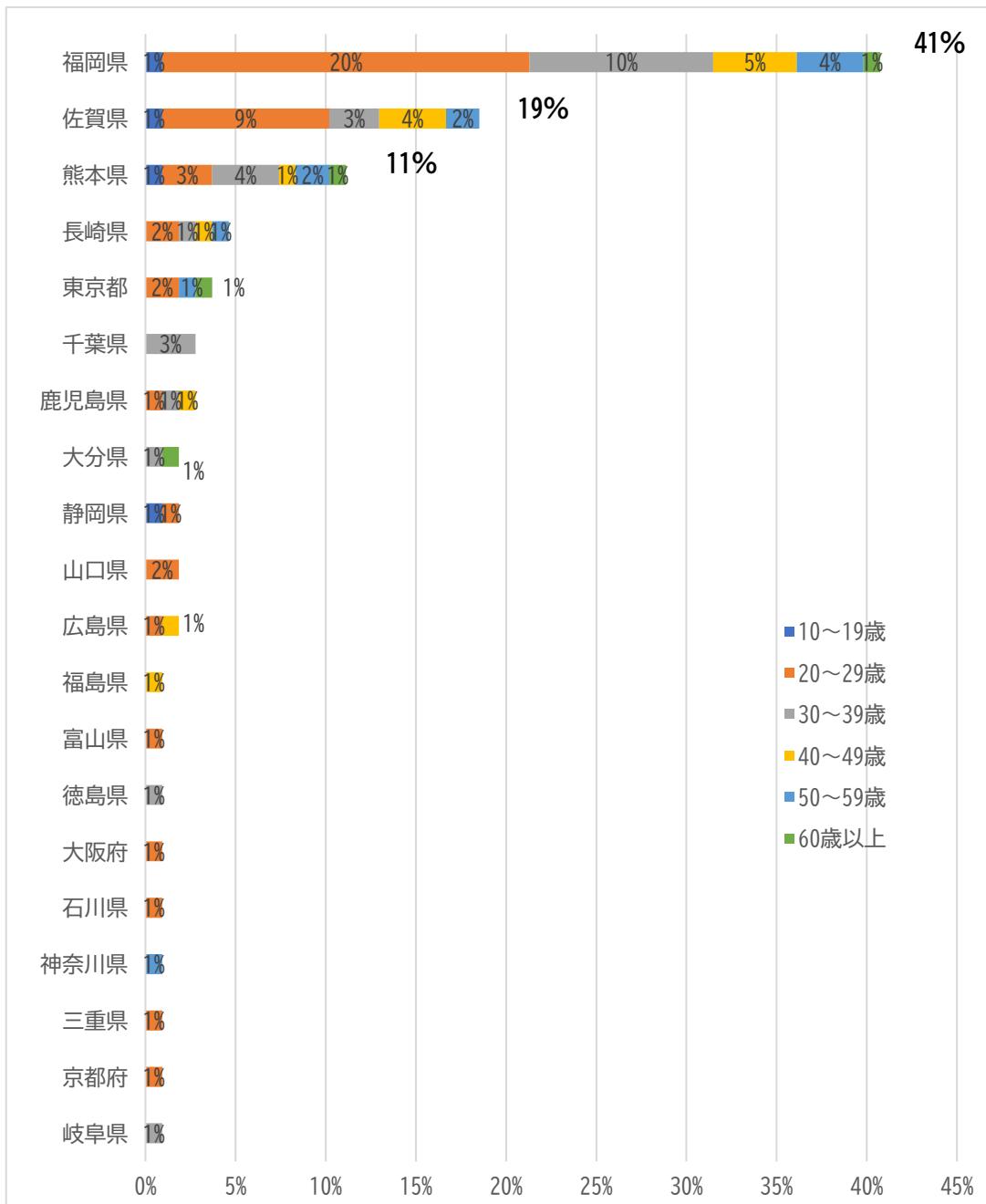


図2-3 転入元・年齢構成

世帯構成をみると、単身と回答したものの転入元は福岡県が最も多く46%、次いで佐賀県が14%、熊本県が11%であり、これを年代別にみると、福岡県から転入した「20～29歳」が全体の30%を占めていた。次点では福岡県から転入した「30～39歳」が9%、佐賀県、熊本県から転入した「20～29歳」及び千葉県から転入した「30～39歳」が5%であった。

転入時点で世帯だったものの転入元としては福岡県が最も多く33%、次いで佐賀県が24%、熊本県が12%であった。

年代別にみると、佐賀県から転入した「20～29歳」が最も多く全体の14%を占めており、次いで福岡県から転入した「30～39歳」が12%、福岡県から転入した「20～29歳」が10%となっている。

(単身)



(世帯)

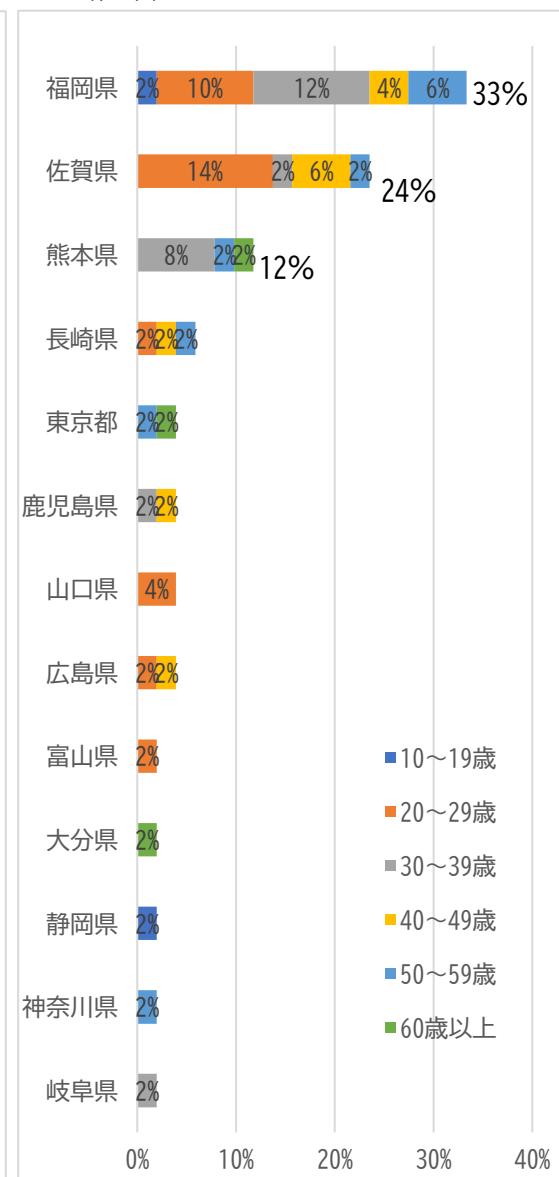


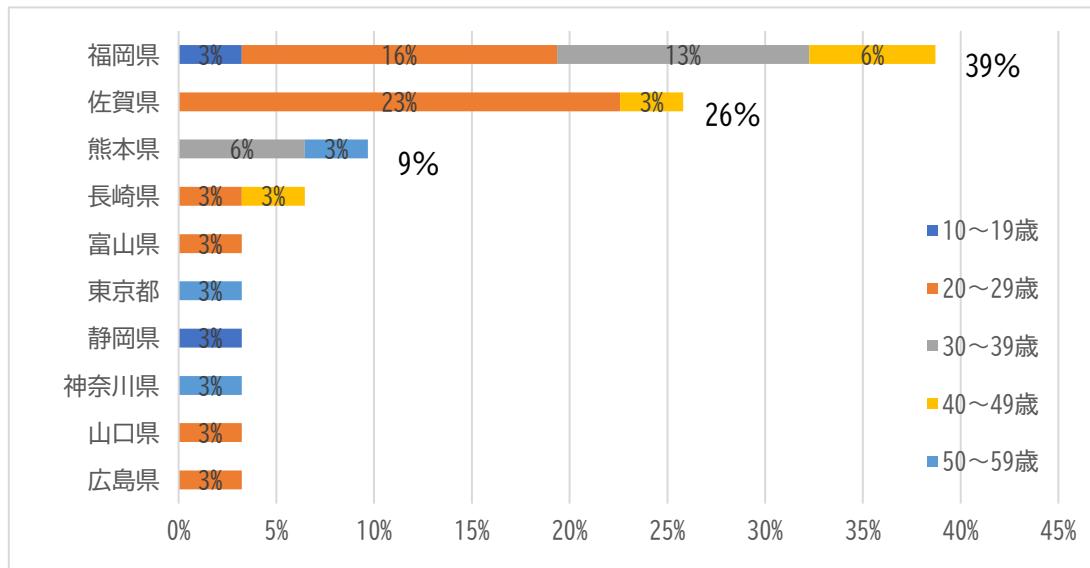
図2－3－ア 転入元・年齢構成・世帯構成①

世帯について詳細をみると、夫婦のみの世帯では福岡県からの転入が最も多く39%、次点が佐賀県で26%、熊本県で9%であった。年齢別にみると佐賀県から転入した「20～29歳」が最も多く23%、次いで福岡県から転入した「20～29歳」が16%、同県の「30～39歳」が13%であった。

また、子どもを帶同しての転入では、福岡県からが最も多く29%、次点で佐賀県が19%、熊本県が14%であった。

年代別にみると、福岡県から転入した「50～59歳」が最も多く14%となっており、次点で福岡県、熊本県から転入した「30～39歳」及び佐賀県から転入した40代が10%であった。

(夫婦のみ)



(子どもあり)

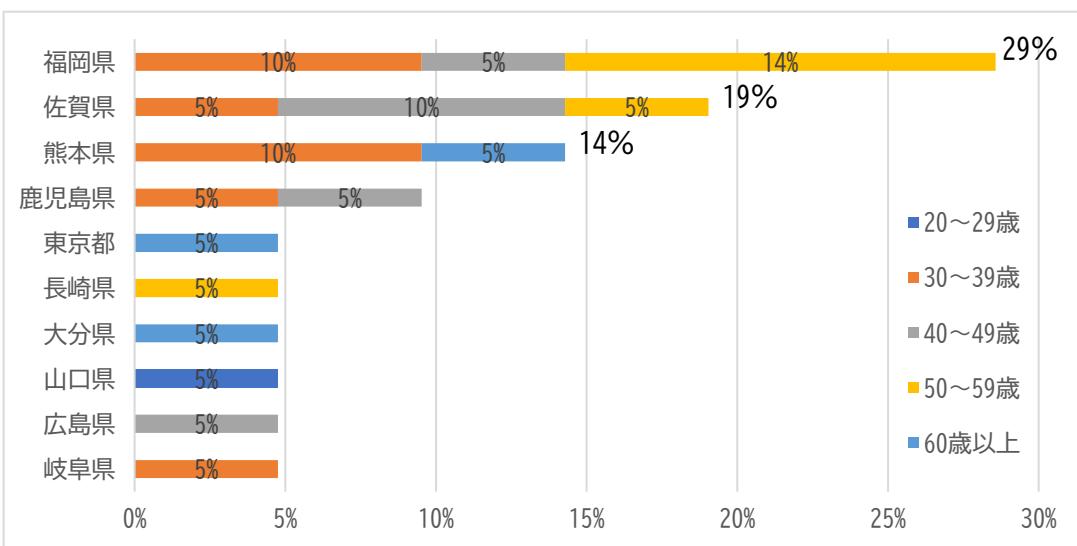


図2-3-イ 転入元・年齢構成・世帯構成②

2-4 転入元(市町村)

転入元(市町村・上位5位)としては福岡市が最も多く全体の 15%を占めており、次点は佐賀市で 8%、熊本市で 7%であった。また、年代別では福岡市から転入した「20～29 歳」が最も多く 10%となっていた。

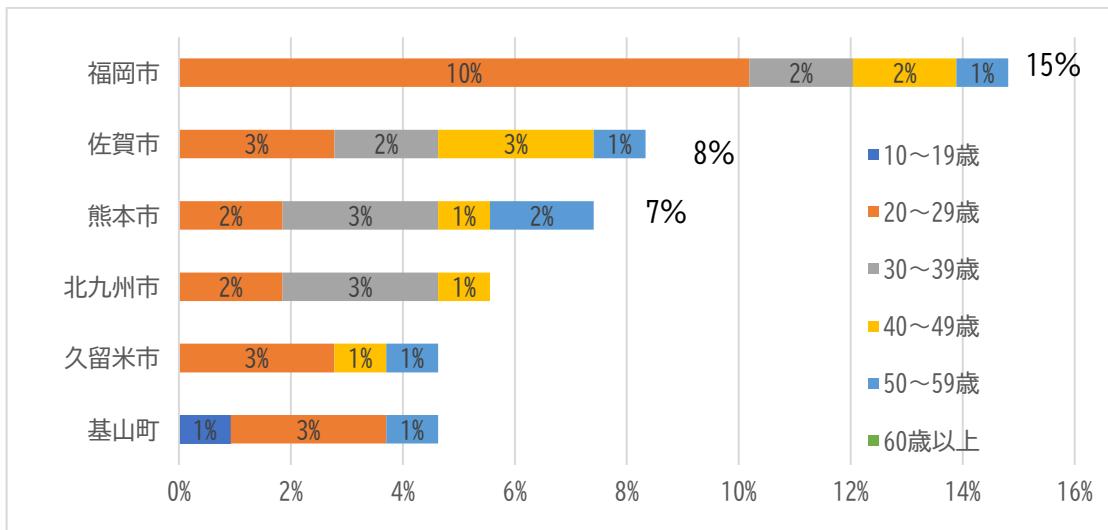


図2-4 転入元(市町村)・年齢構成

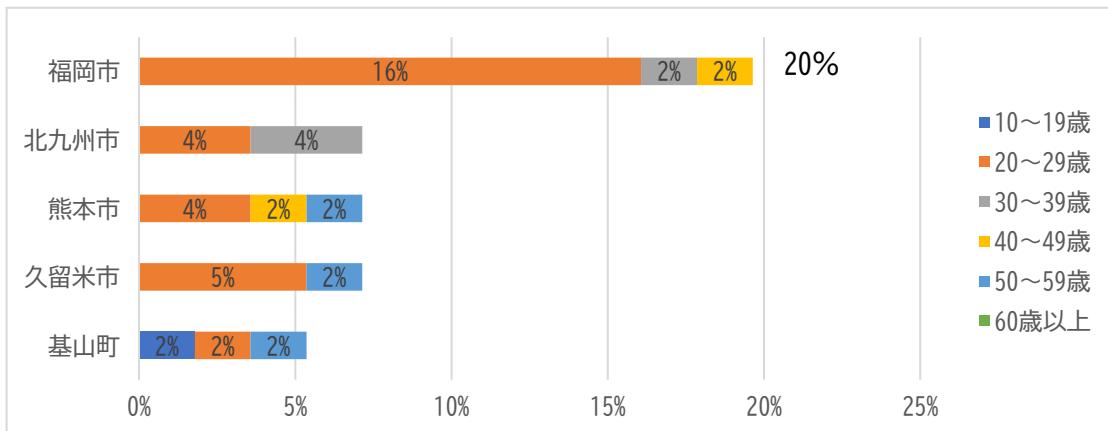
世帯構成をみると、単身と回答したものの転入元(市町村)としては福岡市が最も多く全体の 20%を占めており、次点で北九州市、熊本市、久留米市が 8%、基山町が 6%であった。

年代別では、福岡市から転入した「20～29 歳」が最も多く 16%、久留米市から転入した「20～29 歳」が 5%となっている。

また、世帯と回答したものの転入元(市町村)としては、佐賀市が最も多く 14%で、次点で福岡市、熊本市が 8%、小郡市が 6%であった。

年齢別にみると、佐賀市の「20～29 歳」、熊本市の「30～39 歳」が最も多く 6%、次点で佐賀市の40代、福岡市、小郡市、基山町の「20～29 歳」が 4%となっている。

(単身)



(世帯)

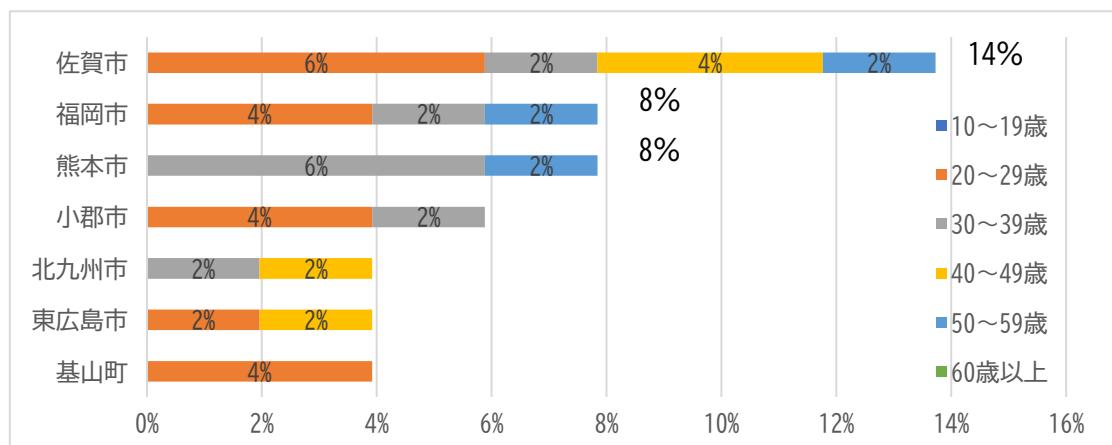


図2－4－ア 転入元（市町村）・年齢構成・世帯構成

2-5 住居状況

転入前及び転入後の住居状況としては、賃貸住宅から賃貸住宅への転居が最も多く 44%、次点で持家から賃貸住宅への転居が 31%であった。

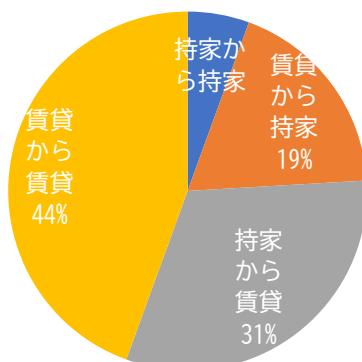


図2－5 住居状況

2-5-1 住居状況・年齢構成

住居状況について年齢構成をみると、「10~19 歳」、「50~59 歳」では持家から賃貸住宅への転居がもっと多く、「20~29 歳」、「30~39 歳」、「40~49 歳」では賃貸住宅から賃貸住宅への転居が最も多かった。なお、「60 歳以上」では持家から持家への転居が最も多くなっている。

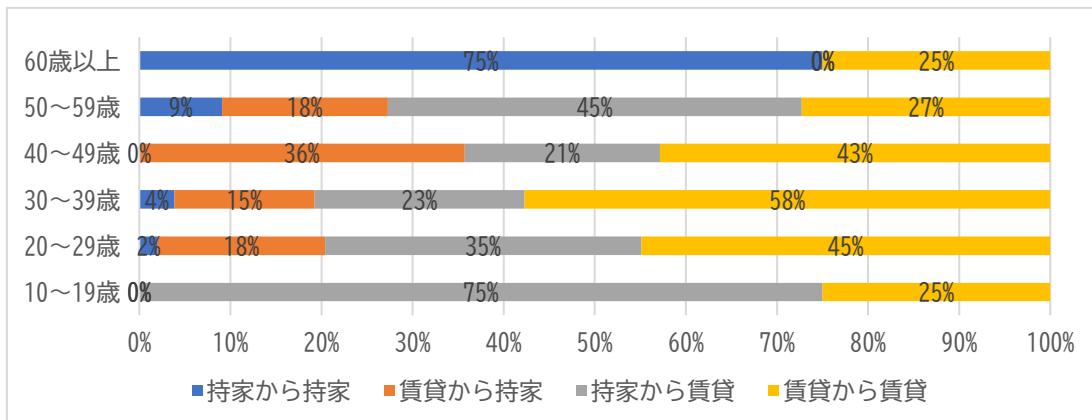


図2-5-ア 住居状況・年齢構成

世帯構成別にみると、単身では賃貸住宅から賃貸住宅への転居が最も多く 52% で、次点では持家から賃貸住宅への転居が 34% であった。

世帯では賃貸住宅から賃貸住宅への転居が最も多く 37% となっており、次点は持家から賃貸住宅への転居が 29% となっている。また、賃貸住宅から持家への転居は 26% であった。

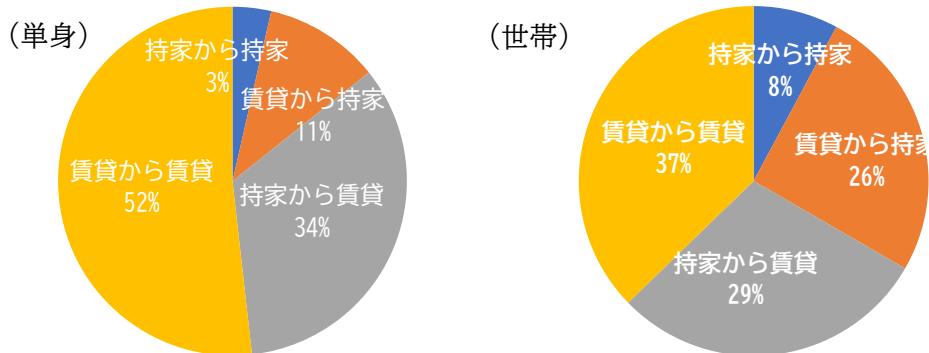


図2-5-イ 住居状況・世帯構成

また、世帯において、夫婦のみでの転入の場合は持家から賃貸住宅への転居が最も多く 40%、次いで賃貸住宅から賃貸住宅への転居が多く 33% であった。子どもを帶同して転入する場合、賃貸住宅から賃貸住宅への転居が最も多く 43% となっており、次点は賃貸住宅から持家への転居で 29% であった。

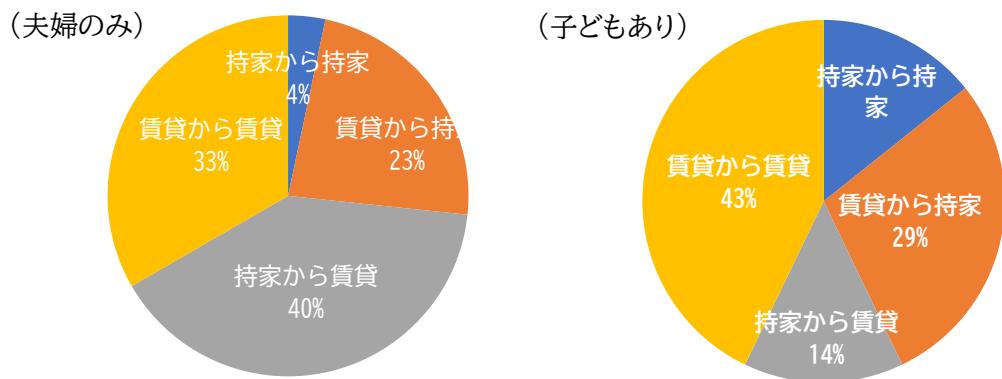


図2-5-ウ 住居状況・世帯構成（世帯詳細）

2-5-2 住居状況・世帯構成・年齢構成

単身と回答したものの住居状況と年齢別の構成をみると、「10～19歳」ではそのすべてが持家から賃貸住宅への住み替えであり、「20～29歳」、「30～39歳」、「40～49歳」、「50～59歳」は半数以上が賃貸住宅への転居している。また、60歳以上はすべてが持ち家から持家への住み替えであった。

また、世帯と回答したものの住居状況と年齢別の構成をみると、「10～19歳」ではそのすべてが賃貸住宅への居住であった。「20～29歳」、「30～39歳」では半数以上が賃貸住宅へ居住しており、40代では賃貸住宅から持家へ住み替えたものと、賃貸住宅から賃貸住宅へ住み替えたものが38%で同数となっている。「50～59歳」では持家から賃貸住宅への住み替えが最も多く、「60歳以上」では殆どが持家に居住している。

（単身）



（世帯）

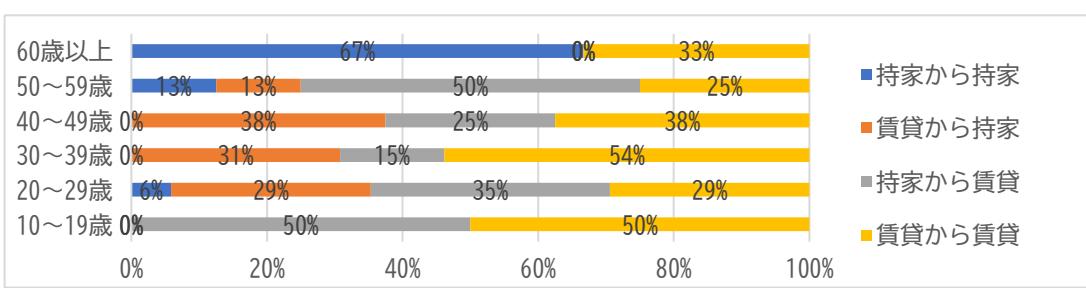
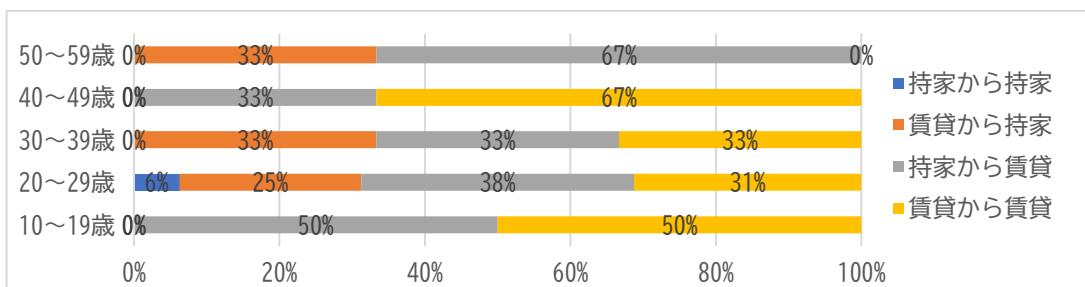


図2-5-エ 住居状況・世帯構成・年齢構成①

また、世帯の詳細をみると、夫婦のみでの転入における年齢構成では「10～19歳」及び「40～49歳」ではそのすべてが転入後に賃貸住宅へ居住しており、「20～29歳」、「30～39歳」、「50～59歳」でも賃貸住宅への居住が半数以上であった。

子どもを帯同し転入する場合の年齢構成をみると、「20～29歳」はそのすべてが持家へ居住しており、「40～49歳」及び「60歳以上」で持家への居住が半数以上であり、「30～39歳」及び「50～59歳」では賃貸住宅への居住が半数以上であった。

(夫婦のみ)



(子どもあり)

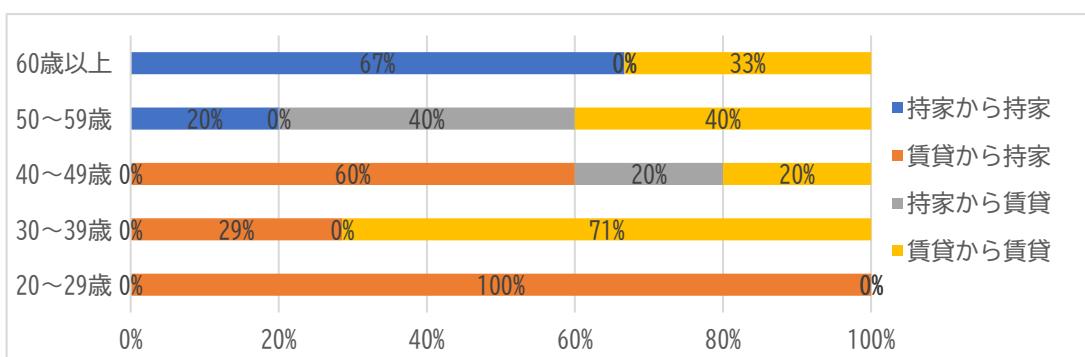


図2－5－オ 住居状況・世帯構成・年齢構成②

2-5-3 住居状況・転入元

転入元として割合が高い福岡県、佐賀県、熊本県について住宅状況を見てみると、3県とも賃貸住宅への居住が最も多くなっているものの、福岡県では持家への居住が一定数見られた。

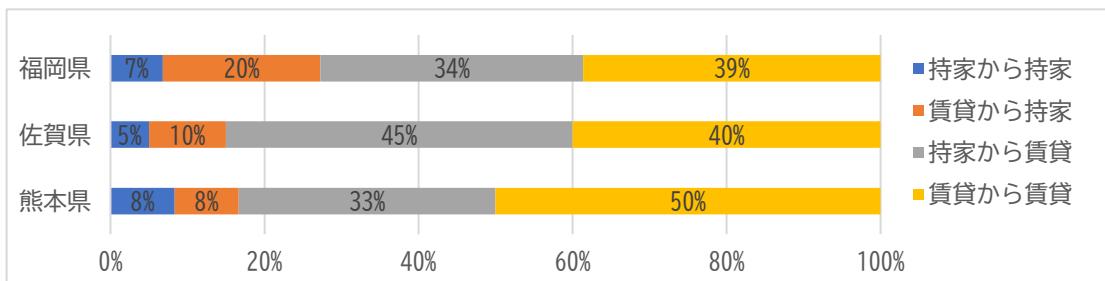
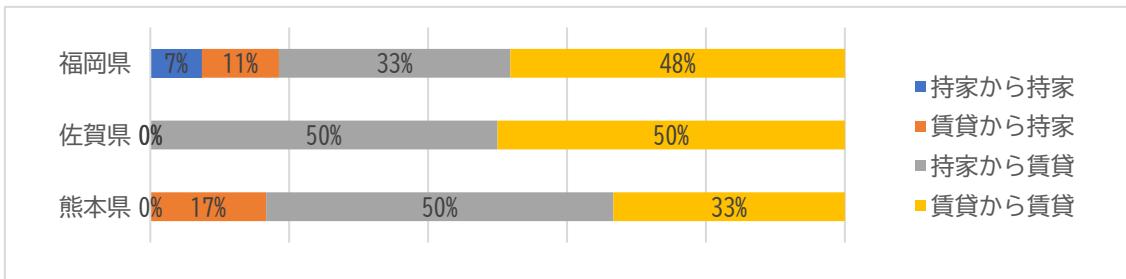


図2－5－カ 住居状況・転入元

世帯構成別でみると、単身者・世帯の双方について殆どが賃貸住宅に居住しているが、福岡県から転入した世帯においては36%が持家へ居住している。

(単身)



(世帯)

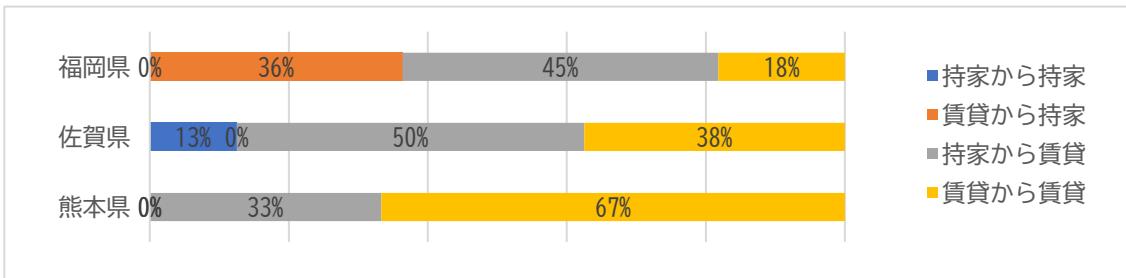


図2－5－キ 住居状況・転入元・世帯構成

2-6 通勤・通学先

転入者における通勤・通学先をみると、市内が最も多く全体の48%を占めていた。次点は福岡市が13%、佐賀市が8%であった。

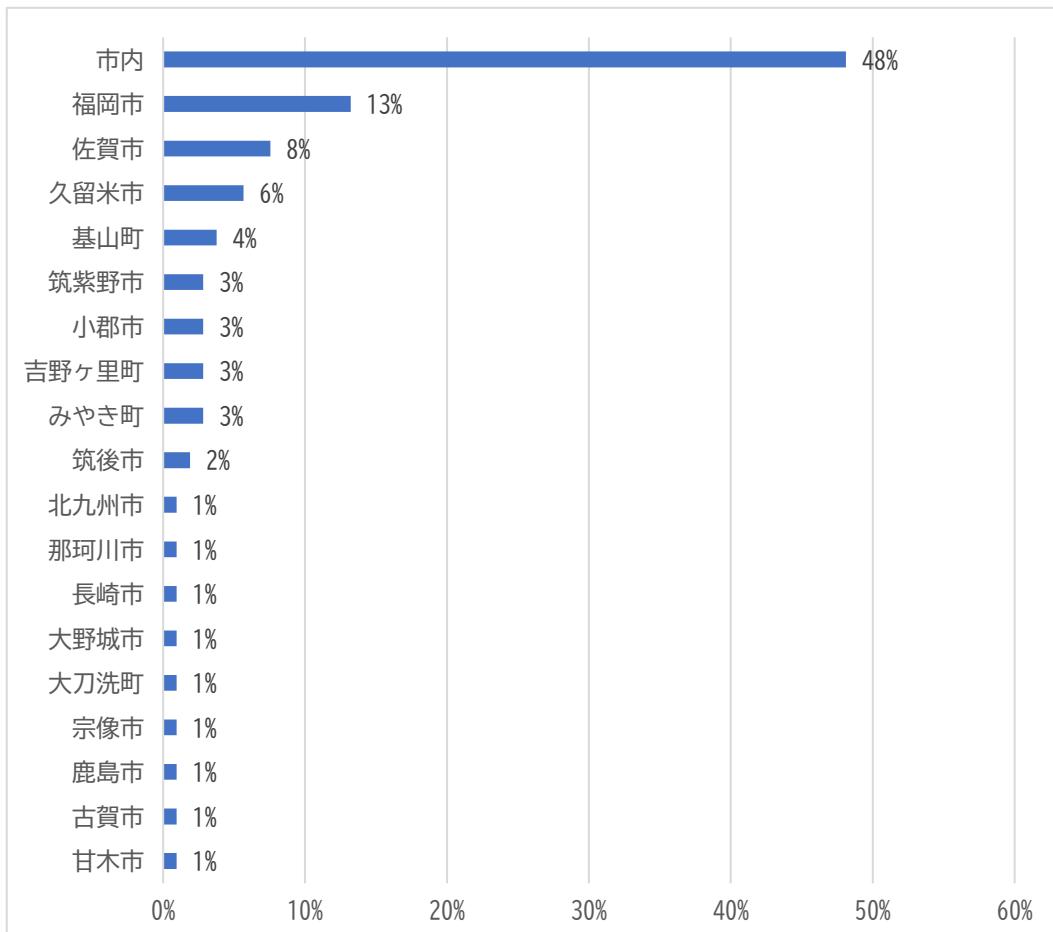


図2-6 通勤・通学先

2-6-1 通勤・通学先・年齢構成

通勤・通学先として割合が高い市内、福岡市、佐賀市について年齢別の構成を見てみると、いずれの市も「20~29歳」が最も多くなっている。

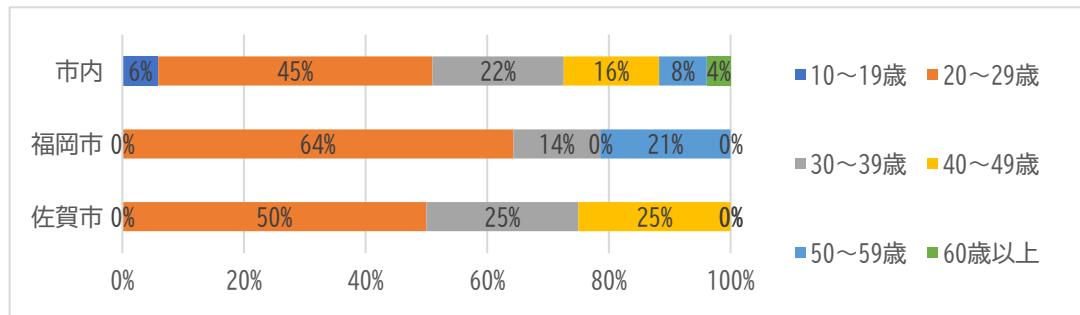


図2-6-ア 通勤・通学先・年齢構成

世帯構成をみると、市内及び佐賀市においては単身者が最も多く、福岡市に就労しているものは単身者と夫婦のみ世帯が36%ずつであった。

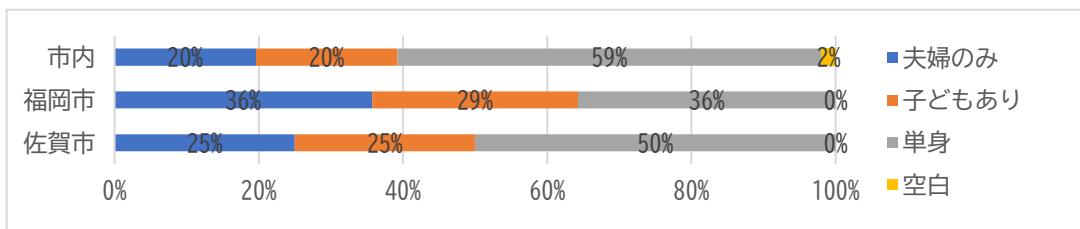


図2－6－イ 通勤・通学先・年齢構成

2-6-2 通勤・通学先・転入元

通勤・通学先ごとに転入元をみると、福岡県から転入し、通勤・通学先が市内であるものが最も多く23%であった。次いで福岡県から転入し、福岡市へ通勤・通学するものが11%、熊本県・佐賀県内から転入し、市内へ通勤・通学するものが8%であった。

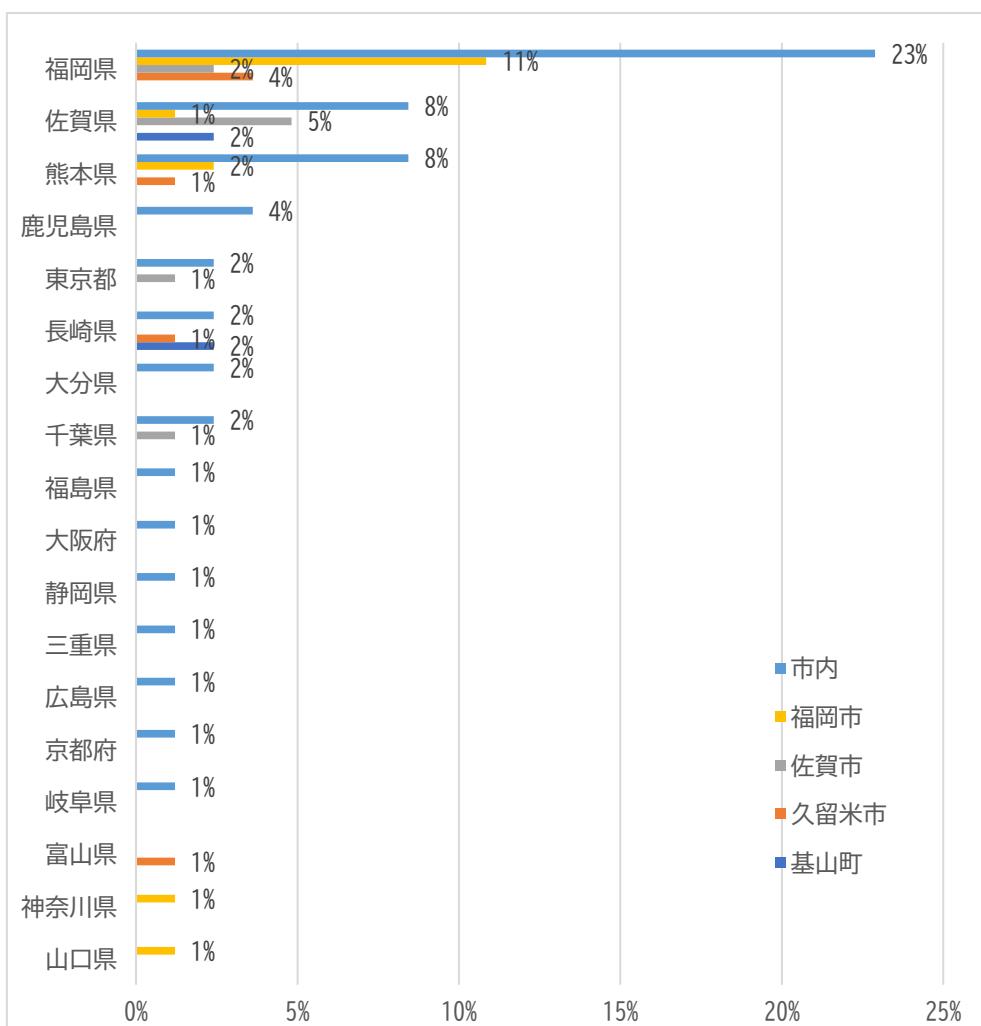


図2－6－ウ 通勤・通学先・転入元

2-6-3 通勤・通学先・住宅状況

通勤・通学先として割合が高い市内、福岡市、佐賀市について住宅状況を見てみると、いずれも賃貸住宅への居住が最も多くなっている。一方で、市内へ通勤・通学するものより、福岡市、佐賀市へ通勤・通学するものの方が持家へ居住する割合が多くなっている。

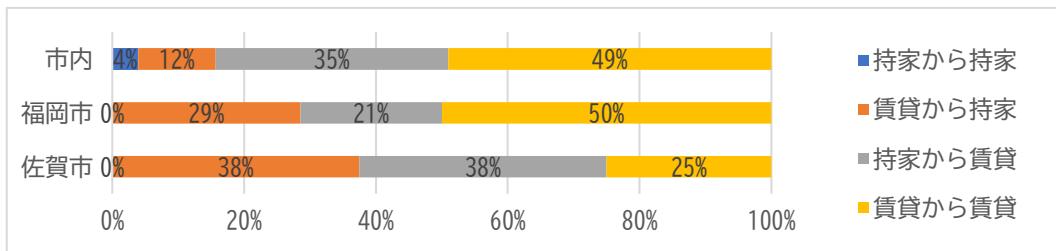


図2-6-工 通勤・通学先・住宅状況

2-7 転入理由

鳥栖市への転入理由としては仕事の都合が 72%と殆どを占めており、次点で家庭の都合が 18%となっている。

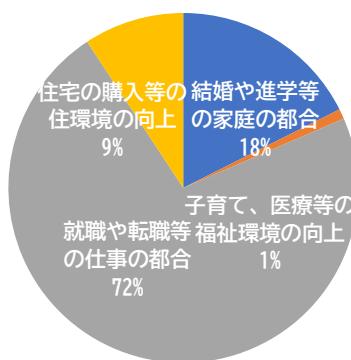


図2-7 転入理由

2-7-1 転入理由・年齢構成

年齢構成別でみると、すべての年代において仕事の都合による転入が最も多くなっている。次点は年代で異なっており、「10～19 歳」、「50～59 歳」、「60 歳以上」は住環境の向上を目的として、「20～29 歳」、「40～49 歳」では家庭の都合による転入が多くなっている。

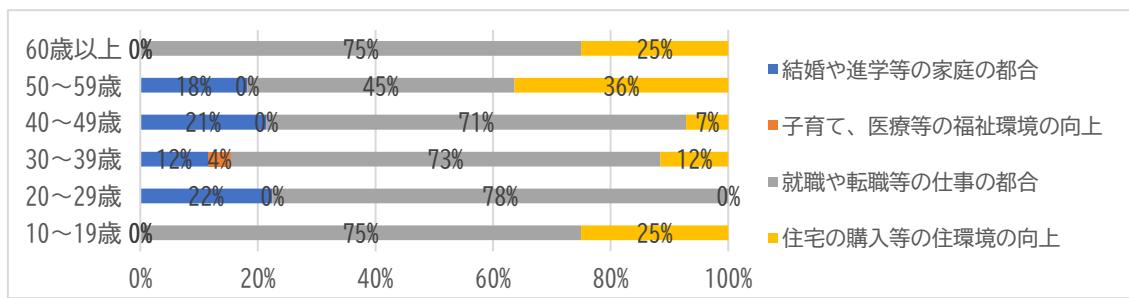


図2-7-ア 転入理由・年齢構成

世帯構成別でみると、単身・世帯ともに仕事の都合による転入が大半を占めており、次点で家庭の都合による転入が多くなっている。また、単身に比べ、世帯については住環境の向上や家庭の都合による転入の割合が多くなっている。

さらに、世帯についての詳細をみると、夫婦のみでの転入、子どもを帯同しての転入ともに仕事の都合による転入が最も多くなっているが、次点は、夫婦のみの世帯では家庭の都合によるもの、子どもを帯同する世帯では住環境の向上を目的としたものであった。

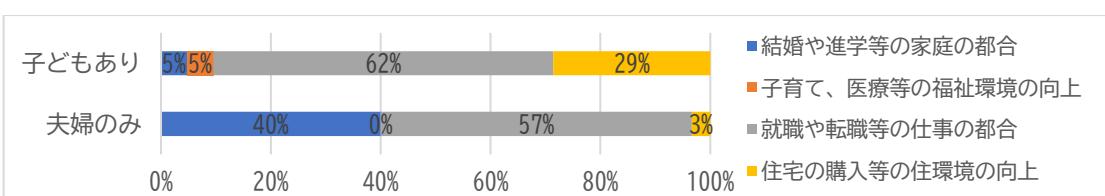
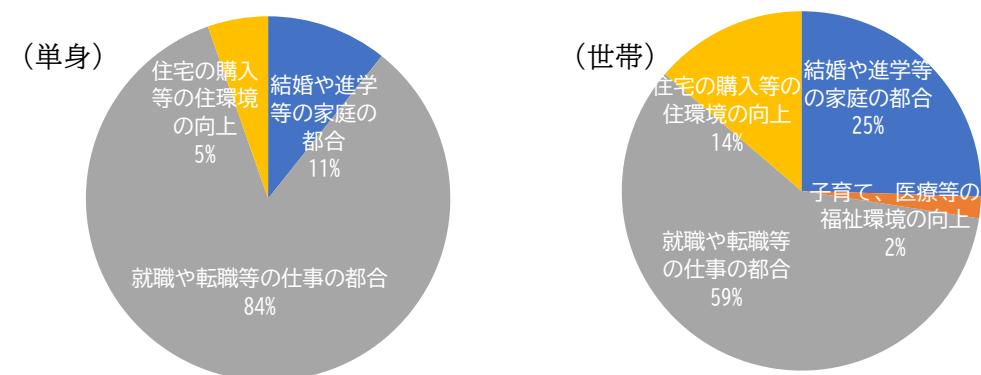


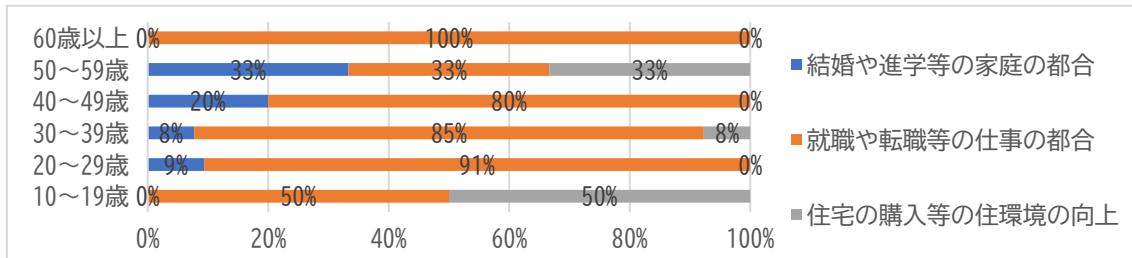
図2-7-イ 転入理由・世帯構成②

2-7-2 転入理由・世帯構成・年齢構成

世帯構成別・年齢構成別に見ると、単身者では「20~29歳」、「30~39歳」、「40~49歳」、「60歳以上」で仕事の都合による転入が最も多くなっているが、「10~19歳」では仕事の都合による転入及び住環境の向上を目的とした転入が同率であり、「50~59歳」では家庭の都合、仕事の都合、住環境の向上を目的とした転入が同率であった。

また、世帯ではすべての年代で仕事の都合による転入が最も多くなっている。次点の転入理由として、「20~29歳」、「40~49歳」は家庭の都合による転入が多くなっており、「50~59歳」、「60歳以上」は住環境の向上を目的とした転入が多くなっている。「30~39歳」においては、家庭の都合による転入及び住環境の向上を目的とした転入が同率であった。

(単身)



(世帯)

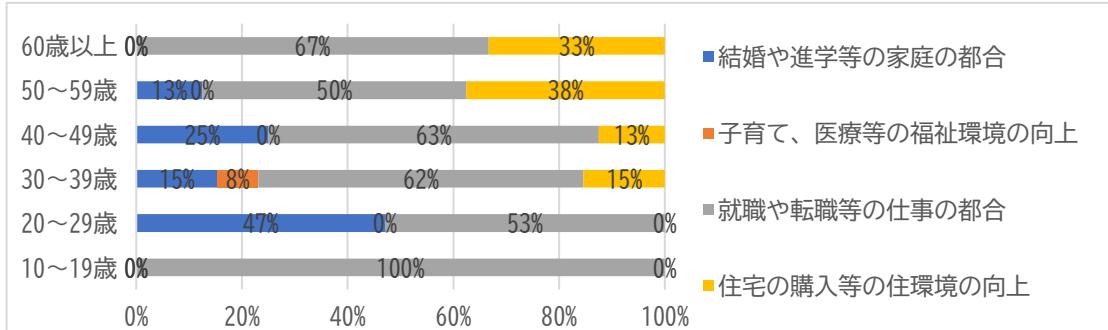


図2－7－ウ 転入理由・世帯構成・年齢構成③

2-7-3 転入理由・転入元

転入者の多い福岡県、佐賀県、熊本県について本市への転入理由をみると、福岡県、熊本県においては仕事の都合による転入が最も多くなっており、佐賀県では家庭の都合による転入と仕事の都合による転入が同率であった。

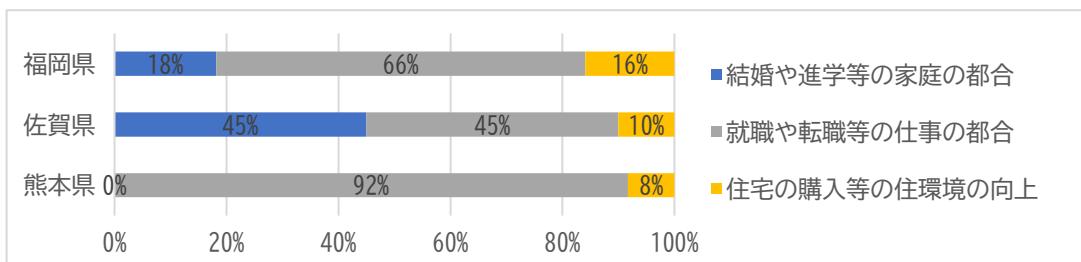
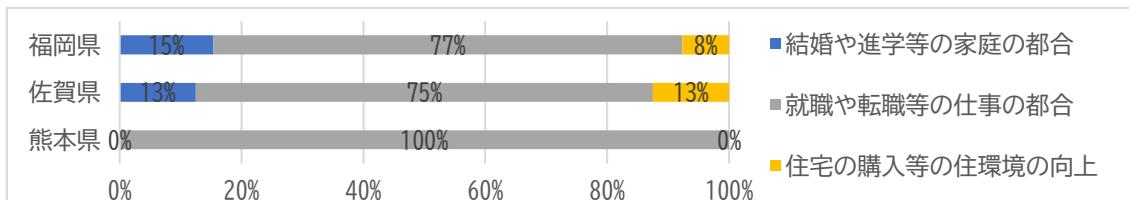


図2－7－エ 転入理由・転入元

2-7-4 転入理由・転入元・世帯構成

転入元として割合が高い福岡県、佐賀県、熊本県について、転入理由と世帯構成をみると、福岡県、熊本県では単身、世帯ともに仕事の都合による転入が最も多くなっている。佐賀県においても、単身では仕事の都合による転入が最も多くなっているが、世帯については家庭の都合による転入が最も多くなっていた。

(単身)



(世帯)

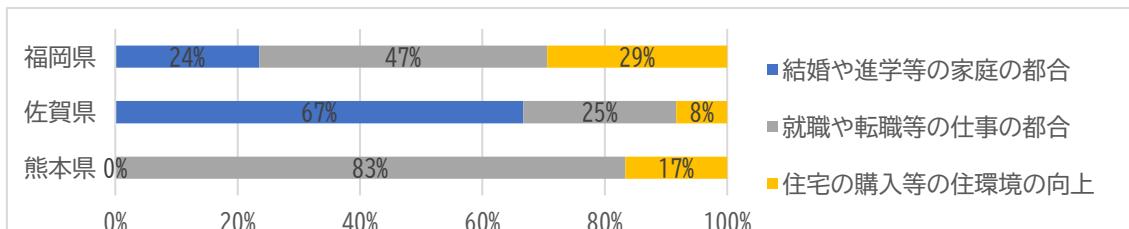
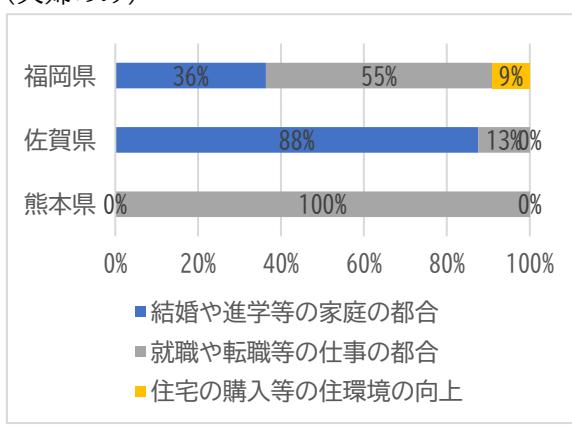


図2-7-オ 転入理由・転入元・世帯構成①

また、世帯について詳細をみると、夫婦のみで佐賀県内から鳥栖市へ転入したものについては家庭の都合によるものが最も多く、子どもを帯同して福岡県から転入したものについては住環境の向上を目的としたものが最も多くなっている。

(夫婦のみ)



(子どもあり)

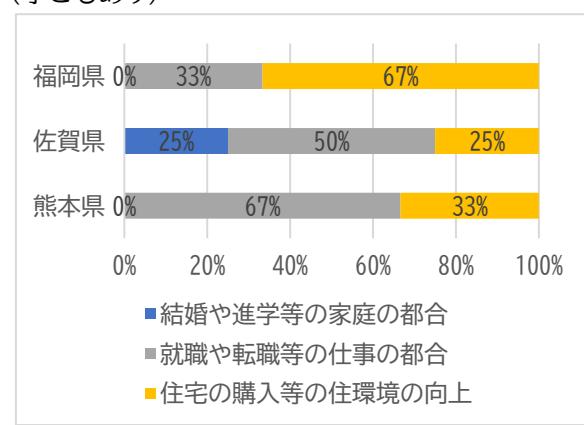


図2-7-カ 転入理由・転入元・世帯構成②

2-7-5 転入理由・住居状況

住居状況別に転入理由をみると、住環境の向上及び福祉環境の向上を目的とした転入では持家が多くなっているが、仕事や家庭の都合による転入では賃貸住宅への居住が多くなっている。

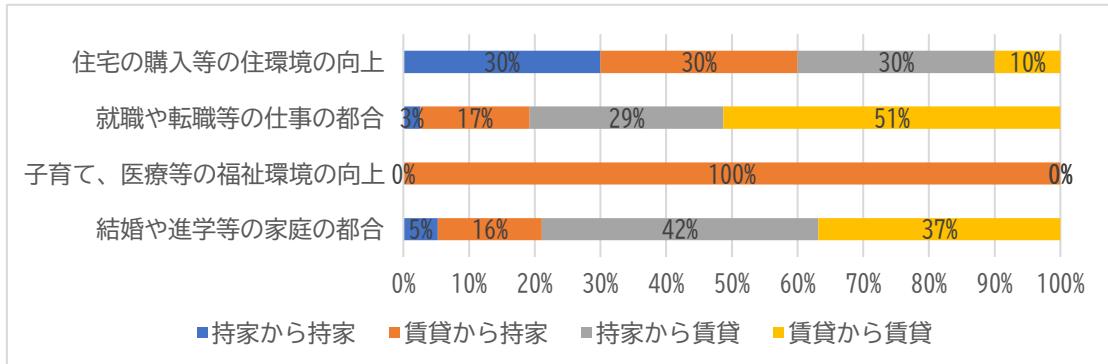
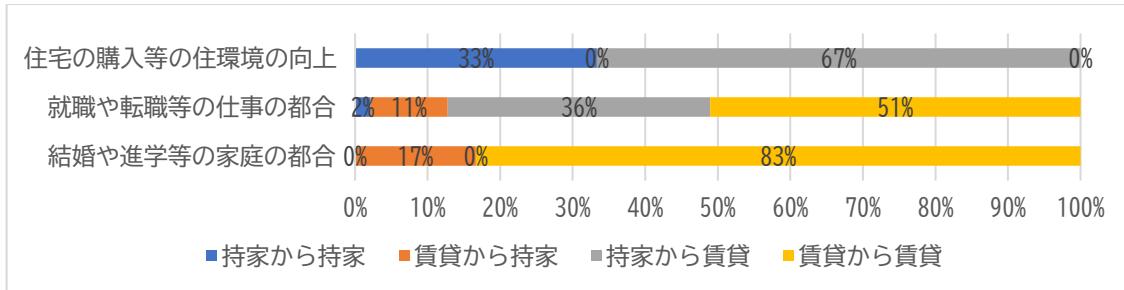


図2-7-キ 転入理由・住宅状況

なお、世帯構成別でみると、単身では住環境の向上を目的とする場合持家から賃貸住宅へ転居したものが多く、仕事の都合及び家庭の都合を理由に転入したものについては賃貸住宅から賃貸住宅への転居が多くなっている。

また、世帯では、住環境の向上と福祉環境の向上を目的とした転入において持家への居住が多く、仕事の都合及び家庭の都合による転入の場合は賃貸住宅に居住する者が多くなっていた。

(単身)



(世帯)

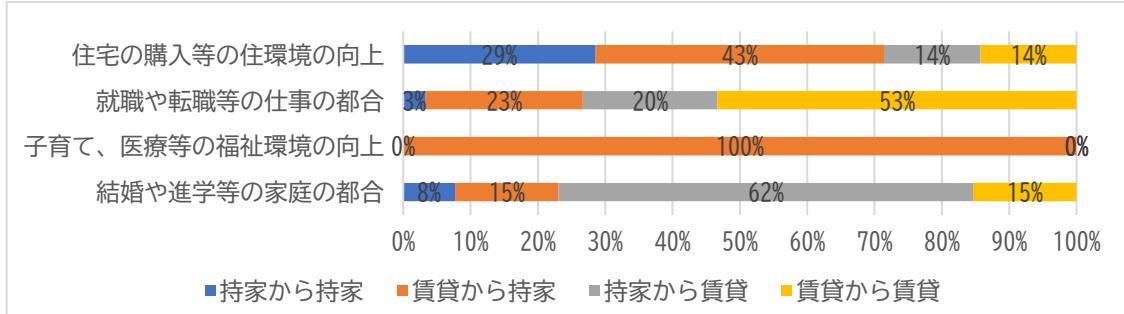


図2-7-ク 転入理由・住宅状況・世帯構成①

世帯について詳細をみると、仕事の都合による転入の場合は子どもの有無に関わらず賃貸住宅に居住するものが多くなっている。

なお、夫婦のみの世帯では、次点で家庭の都合により転入し、賃貸住宅に居住するものが多く、子どもを帶同する世帯では、次点で住環境の向上を目的として持家に居住する者が多かった。

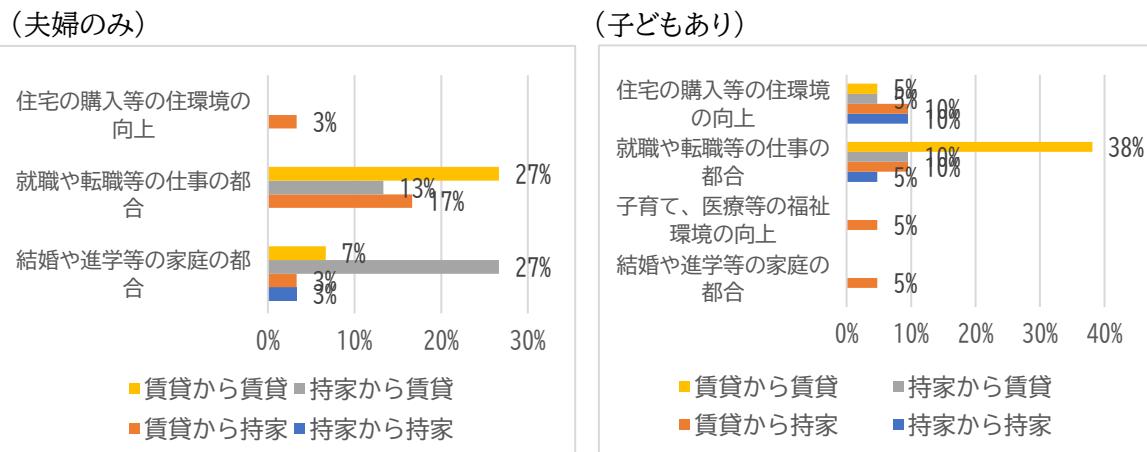


図2-7-ケ 転入理由・住宅状況・世帯構成②

2-7-6 転入理由

転入者の通勤・通学先としてとして割合が高い市内、福岡市、佐賀市について転入理由をみると、通勤・通学先が市内及び福岡市の場合は、仕事の都合での転入が多くなっていた。また、通勤・通学先が佐賀市の場合は家庭の都合による転入が多くなっていた。

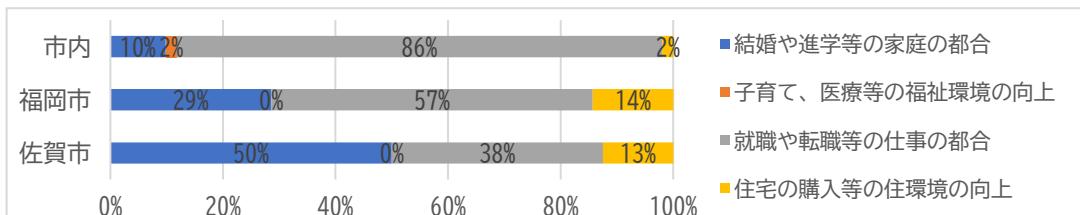
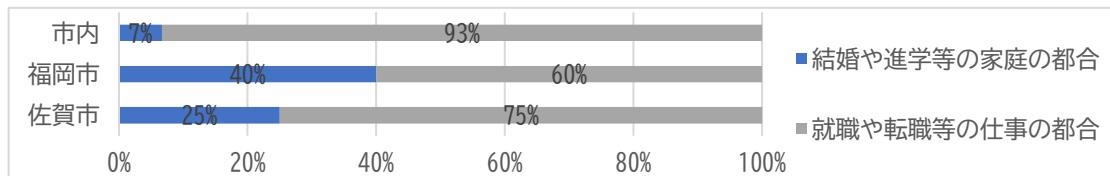


図2-7-コ 転入理由・通勤・通学先

世帯構成別でみると、通勤・通学先に関わらず、単身者の場合は仕事の都合による転入が半分以上を占めていた。

また、世帯の場合は、通勤・通学先が市内のもの及び福岡市のものについては仕事の都合による転入が多く、通勤・通学先が佐賀市のものについては家庭の都合による転入が多くなっていた。

(単身)



(世帯)

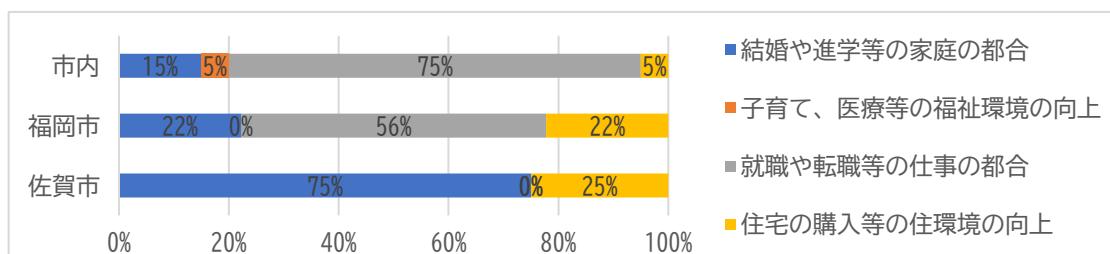


図2-7-サ 転入理由・通勤・通学先・世帯構成

2-8 鳥栖市の選定理由

転入先として鳥栖市を選んだ理由として、影響の大きかったものを最大3つまで回答をしてもいい、得点をつけたところ、「通勤・通学の便がよい」が最も多い 44ptであった。次点で「配偶者や親族が住んでいる」が 32pt、「働く場がある」が 25ptであった。

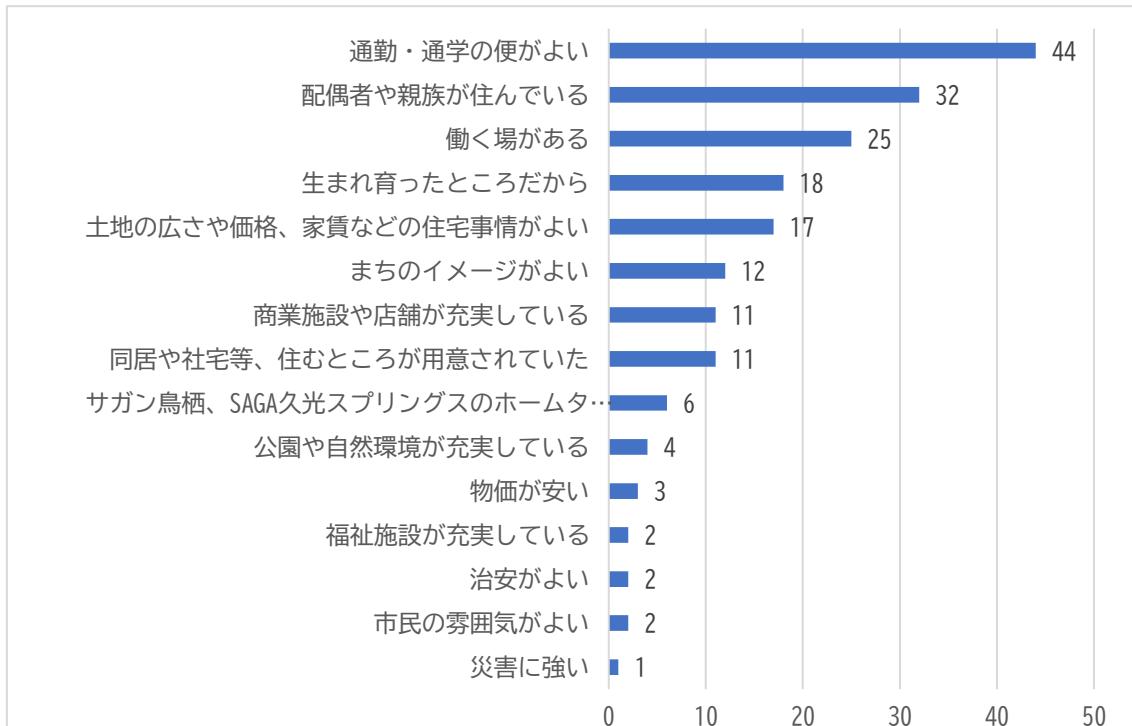
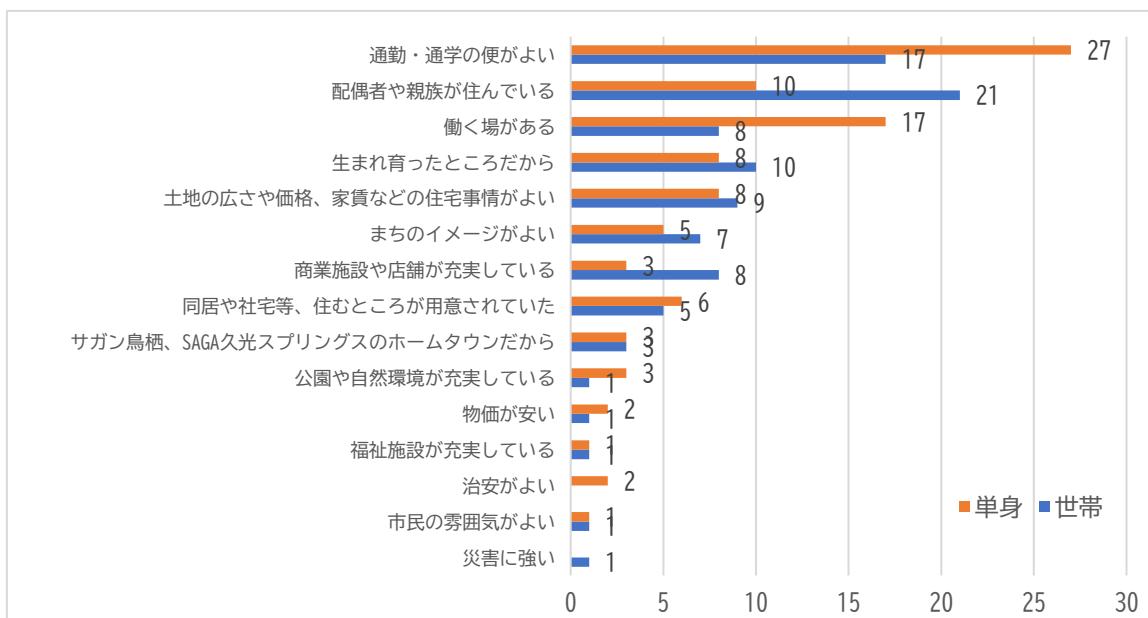


図2-8 鳥栖市の選定理由

なお、鳥栖市を選んだ理由について世帯構成別でみると、単身では「通勤・通学の便がよい」「働く場がある」「配偶者や親族が住んでいる」の順となっており、世帯では「配偶者や親族が住んでいる」「通勤・通学の便がよい」「生まれ育ったところだから」の順であった。

また、夫婦のみ又は子どもありの場合で鳥栖市を選んだ理由をみると、夫婦のみ、子どももあり共に「配偶者や親族が住んでいる」が最も多く、次点が「通勤・通学の便がよい」であった。

(単身)



(世帯)

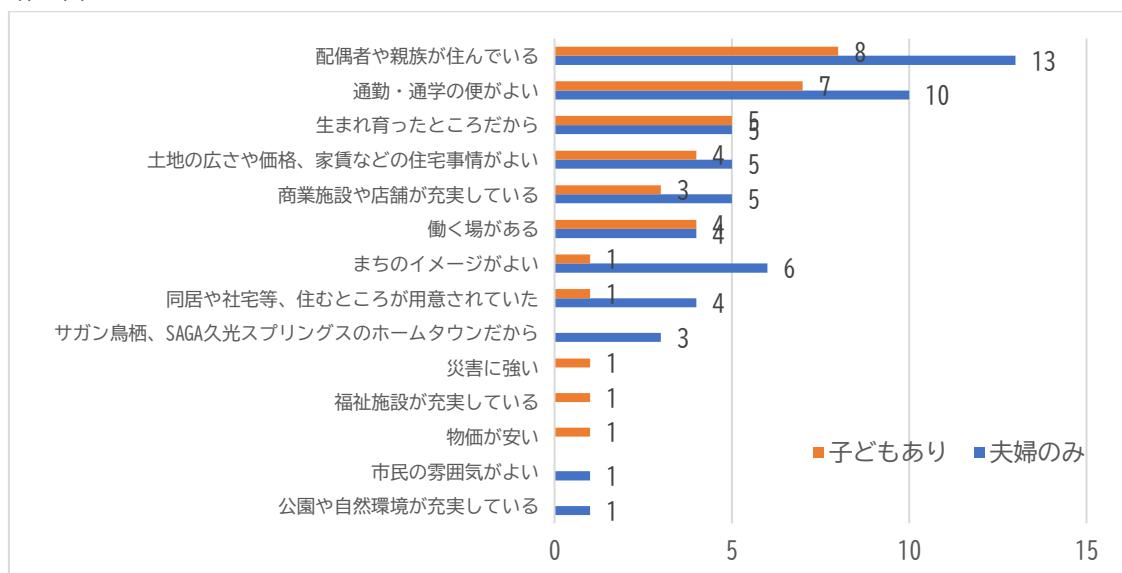


図2-8-ア 鳥栖市の選定理由・世帯構成

2-8-1 鳥栖市の選定理由・世帯構成・年齢構成

転入先として鳥栖市を選んだ理由について、年齢構成・世帯構成別で上位3つをみると、単身者では「10～19歳」から「40～49歳」にかけては「通勤・通学の便がよい」、「働く場がある」が多く、「50～59歳」、「60歳以上」は「配偶者や親族が住んでいる」が多かった。

また、世帯では、すべての年代を通して「通勤・通学の便がよい」や「配偶者や親族が住んでいること」が多くなっていた。

(単身)

単身者における選定理由（年代別・上位3つ）			
	1位	2位	3位
10～19歳	・通勤・通学の便がよい ・公園や自然環境が充実している	・同居や社宅等、住むところが用意されていた ・福祉施設が充実している	(25%)
20～29歳	通勤・通学の便がよい (24%)	働く場がある (22%)	配偶者や親族が住んでいる (12%)
30～39歳	通勤・通学の便がよい (45%)	土地の広さや価格、 家賃などの住宅事情がよい (14%)	・同居や社宅等、住むところが用意されていた ・サガン鳥栖、SAGA久光スプリングスのホームタウンだから (9%)
40～49歳	働く場がある (60%)	・通勤・通学の便がよい ・同居や社宅等、住むところが用意されていた (20%)	
50～59歳	配偶者や親族が住んでいる (40%)	・通勤・通学の便がよい ・商業施設や店舗が充実している (20%)	・生まれ育ったところだから
60歳以上	・配偶者や親族が住んでいる	・生まれ育ったところだから	(50%)

(世帯)

世帯における選定理由（年代別・上位3つ）			
	1位	2位	3位
10～19歳	働く場がある (50%)	通勤・通学の便がよい (25%)	市民の雰囲気がよい (25%)
20～29歳	配偶者や親族が住んでいる (28%)	生まれ育ったところだから (14%)	同居や社宅等、住むところが用意されていた (11%)
30～39歳	通勤・通学の便がよい (29%)	配偶者や親族が住んでいる 生まれ育ったところだから (14%)	
40～49歳	通勤・通学の便がよい 配偶者や親族が住んでいる (29%)		まちのイメージがよい (14%)
50～59歳	土地の広さや価格、家賃など の住宅事情がよい (25%)	・通勤・通学の便がよい ・配偶者や親族が住んでいる (17%)	
60歳以上	・配偶者や親族が住んでいる (33%)	通勤・通学の便がよい 土地の広さや価格、家賃などの住宅事情がよい 商業施設や店舗が充実している 災害に強い (17%)	

表2-1 鳥栖市の選定理由・世帯構成

2-8-2 鳥栖市の選定理由・転入元

転入元として割合が高い福岡県、佐賀県、熊本県について鳥栖市を選んだ理由をみると、福岡県においては「通勤・通学の便がよい」が最も多く、次点で「配偶者や親族がいる」、「土地の広さや価格、家賃などの住宅事情がよい」の順であった。佐賀県でも「通勤・通学の便がよい」が最も多くなっているが、次点では「配偶者や親族がいる」の順であり、熊本県でも「通学・通学の便がよい」が最も多いが、次点は「働く場がある」であった。

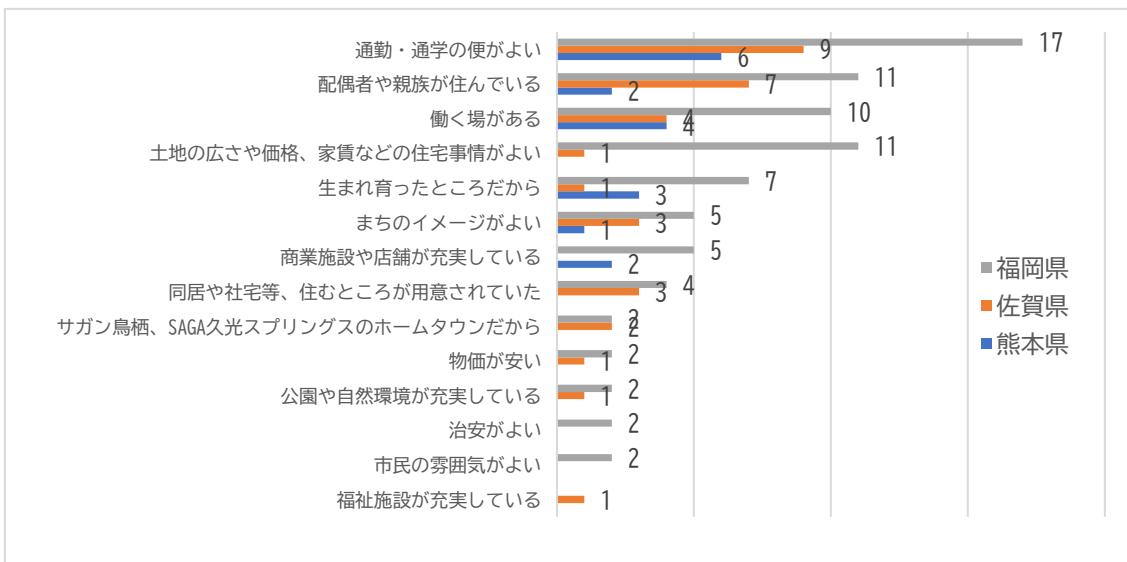


図2-8-イ 鳥栖市の選定理由・転入元①

なお、もっとも転入者が多かった福岡県について世帯構成別で鳥栖市を選んだ理由をみると、単身では「通勤・通学の便がよい」、「働く場がある」の順に多く、世帯では「配偶者や親族が住んでいる」の順に多くなっていた。

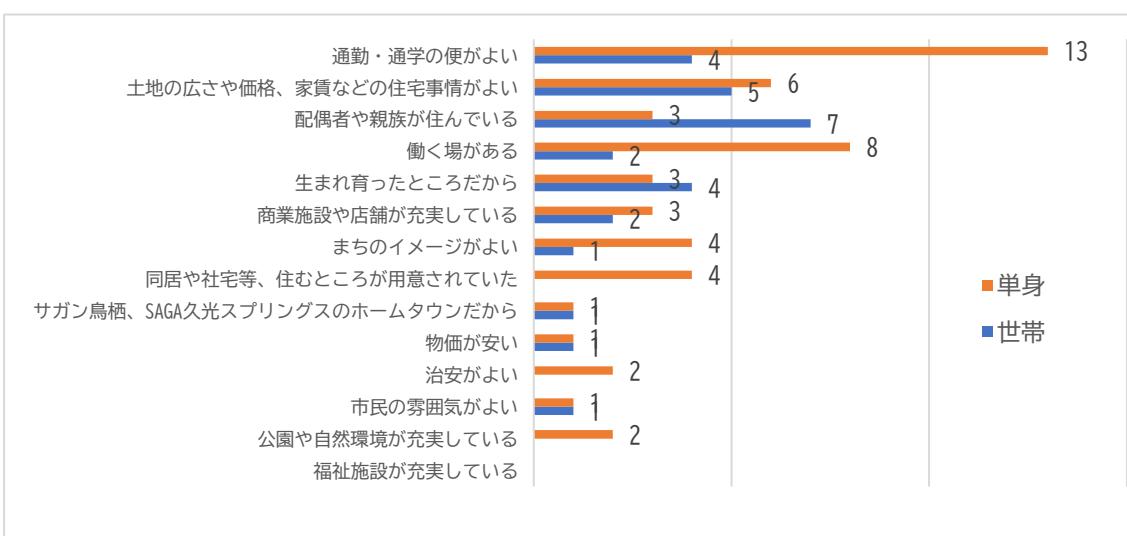


図2-8-ウ 鳥栖市の選定理由・転入元②

2-8-3 鳥栖市の選定理由・住居状況

転入前後の住宅状況毎に鳥栖市を選んだ理由を見ると、賃貸住宅へ居住するものは「働く場がある」や「通勤・通学の便がよい」が多く、持家へ居住するものについては「配偶者や親族が住んでいる」や「生まれ育ったところだから」が多かった。

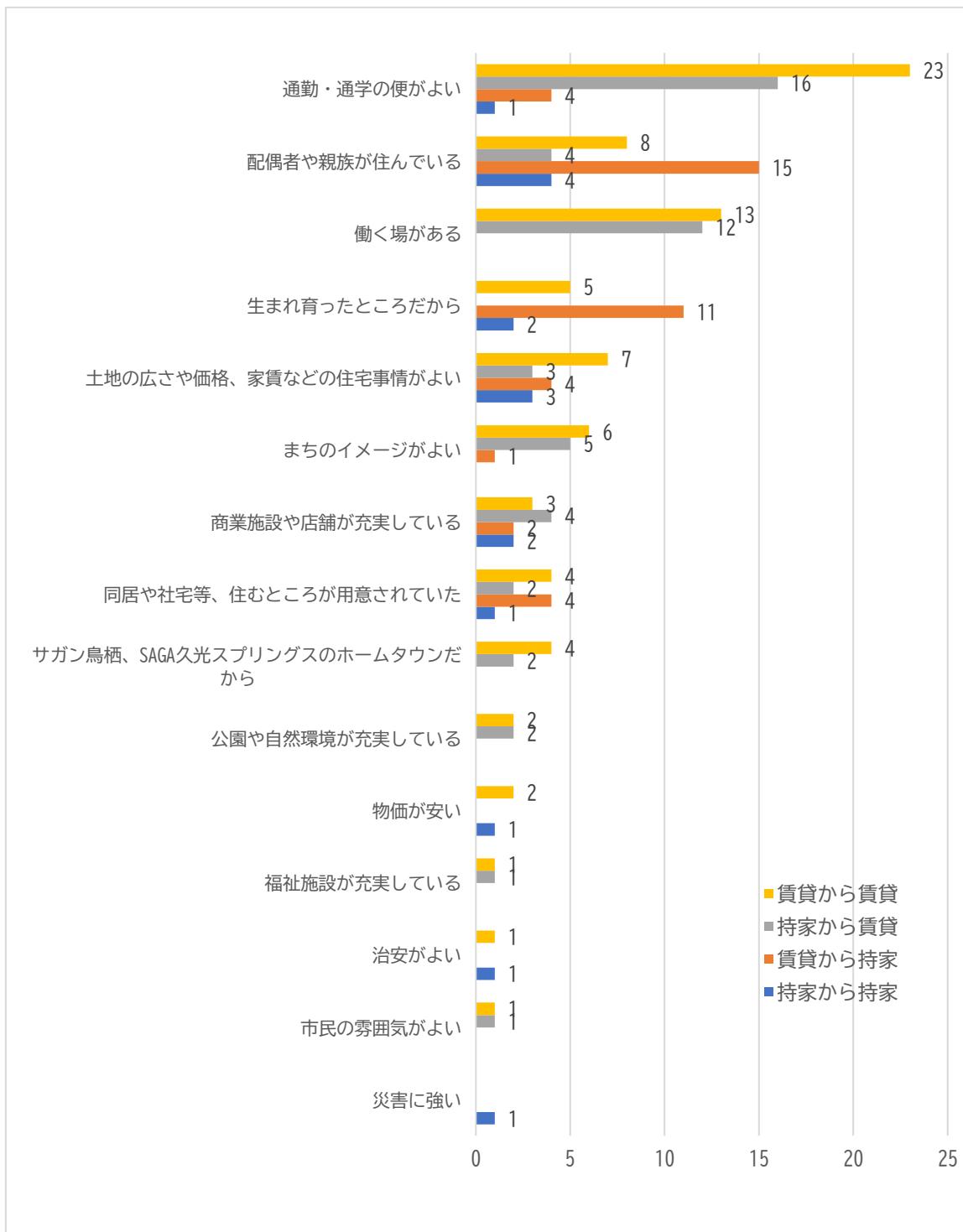
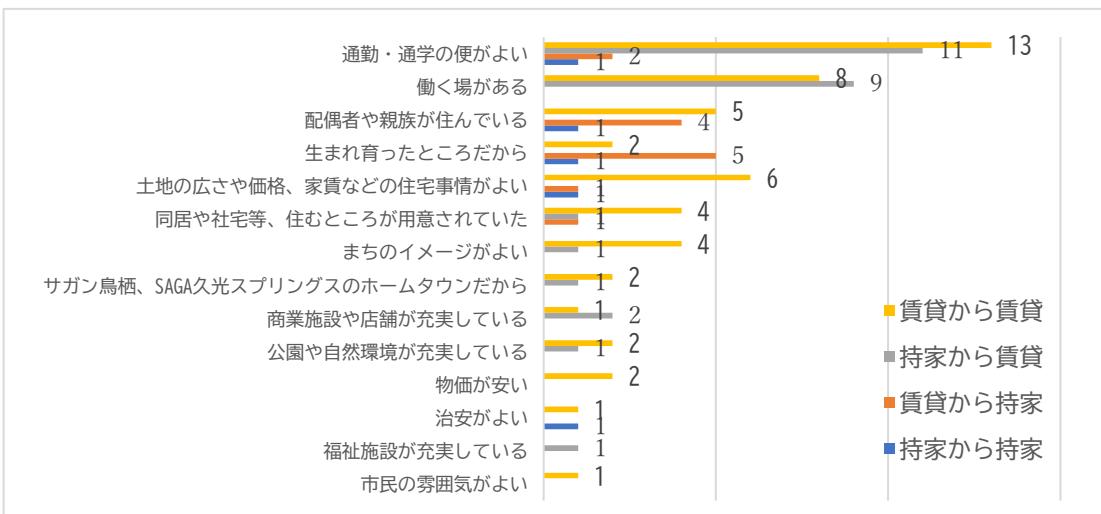


図2-8-工 鳥栖市の選定理由・住宅状況

世帯構成毎にみると、単身では賃貸住宅へ居住し「通勤・通学の便が良い」、「働く場がある」を選ぶものが多かった。

また、世帯では、賃貸住宅に居住するものは「通勤・通学の便が良い」、「働く場がある」を選ぶものが多く、持家へ居住するものは「配偶者や親族が住んでいる」、「生まれ育ったところだから」を選ぶものが多かった。

(単身)



(世帯)

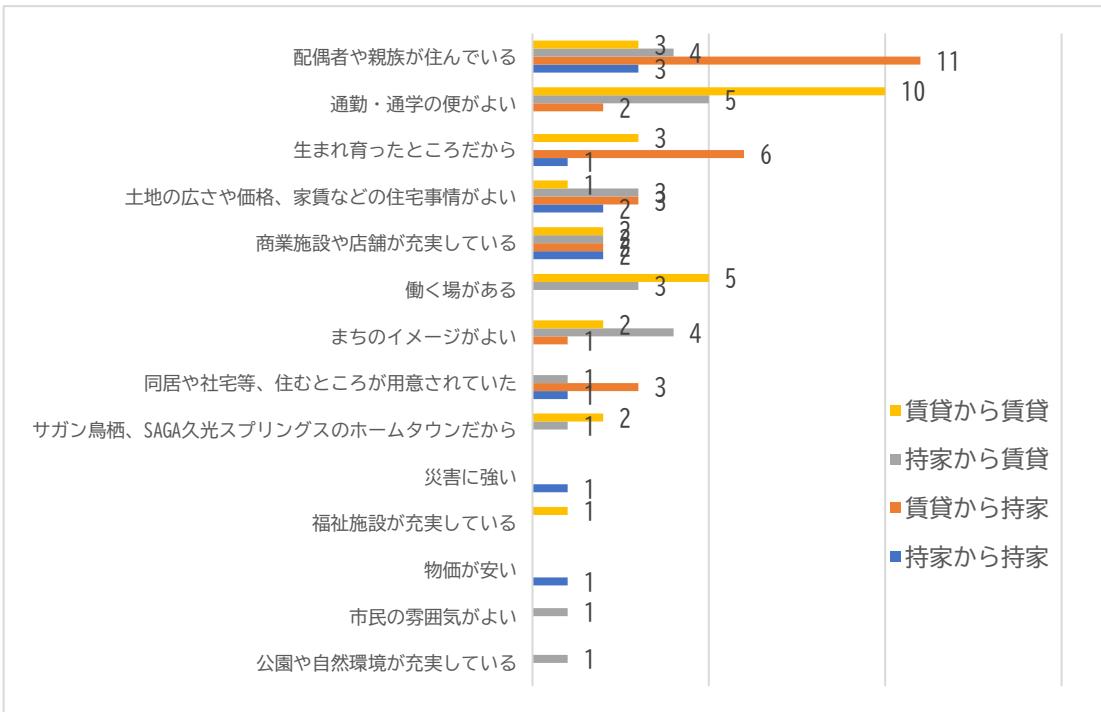


図2－8－オ 烏栖市の選定理由・住宅状況・世帯構成

2-8-4 鳥栖市の選定理由・通勤・通学先

通勤・通学先として割合が高い市内、福岡市、佐賀市について鳥栖市を選んだ理由をみると、市内に通勤・通学するものは「働く場がある」が最も多く、福岡市・佐賀市に通勤・通学するものには「配偶者や親族が住んでいる」が最も多くなっていた。

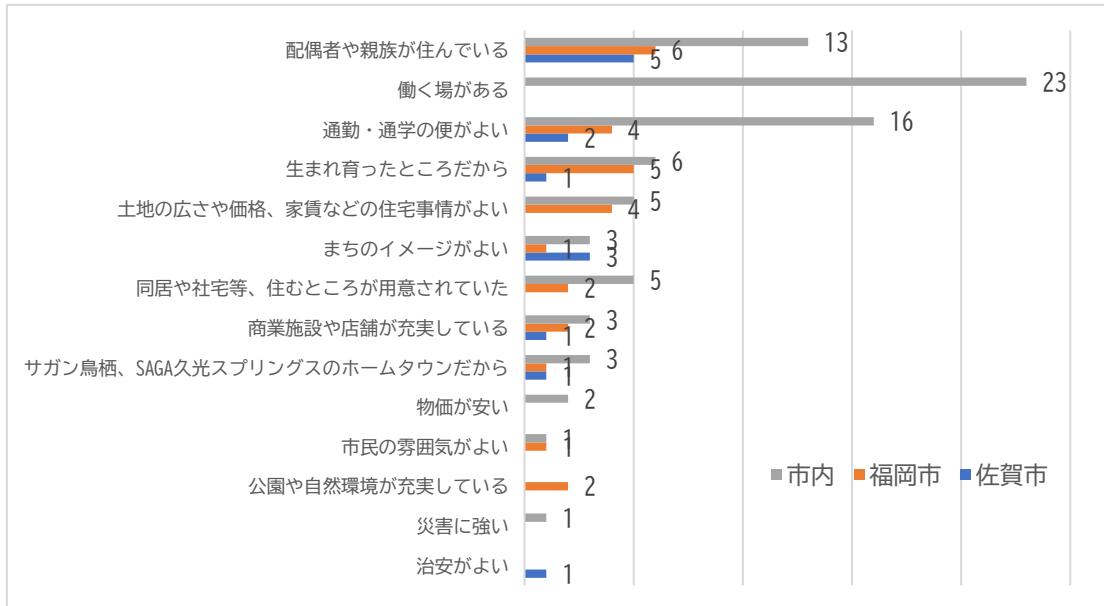


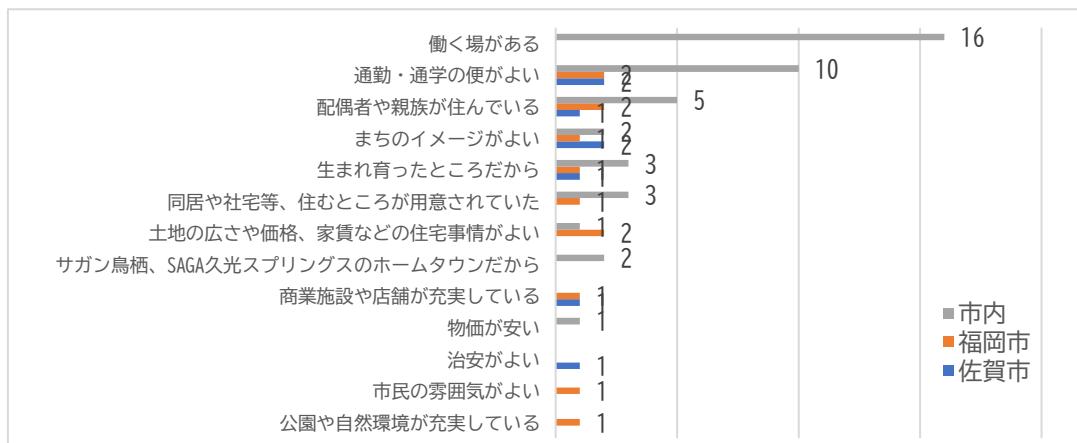
図2-8-4 鳥栖市の選定理由・通勤・通学先

2-8-5 鳥栖市の選定理由・通勤・通学先・世帯構成

世帯構成をみると、市内に通勤・通学する単身者については、「働く場がある」が最も多く、次点が「通勤・通学の便がよい」であった。

世帯についても、市内に通勤・通学するものは「働く場がある」が最も多く、次点が「通勤・通学の便がよい」であった。また、福岡市に通勤・通学するものは「生まれ育ったところだから」が最も多くなっていた。

(単身)



(世帯)

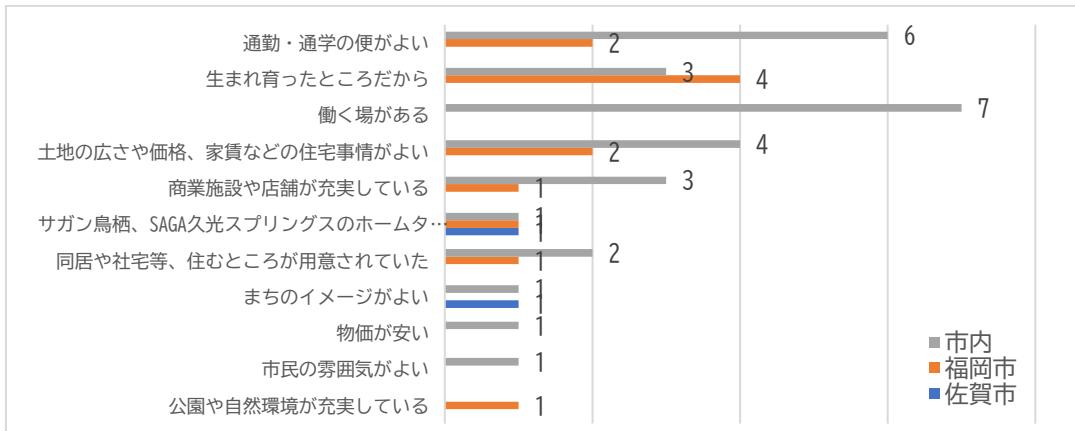


図2-8-キ 鳥栖市の選定理由・通勤・通学先・世帯構成

2-8-6 鳥栖市の選定理由・転入理由

鳥栖市を選んだ理由を、転入のきっかけ毎にみると、仕事の都合による転入では、「通勤・通学の便がよい」が最も多く、次点が「働く場がある」、「配偶者や親族が住んでいる」であった。また、家庭の都合による転入では「配偶者や親族が住んでいる」が最も多く、住環境の向上を目的とした転入では「土地の広さや価格、家賃などの住宅事情がよい」が最も多くなっていた。

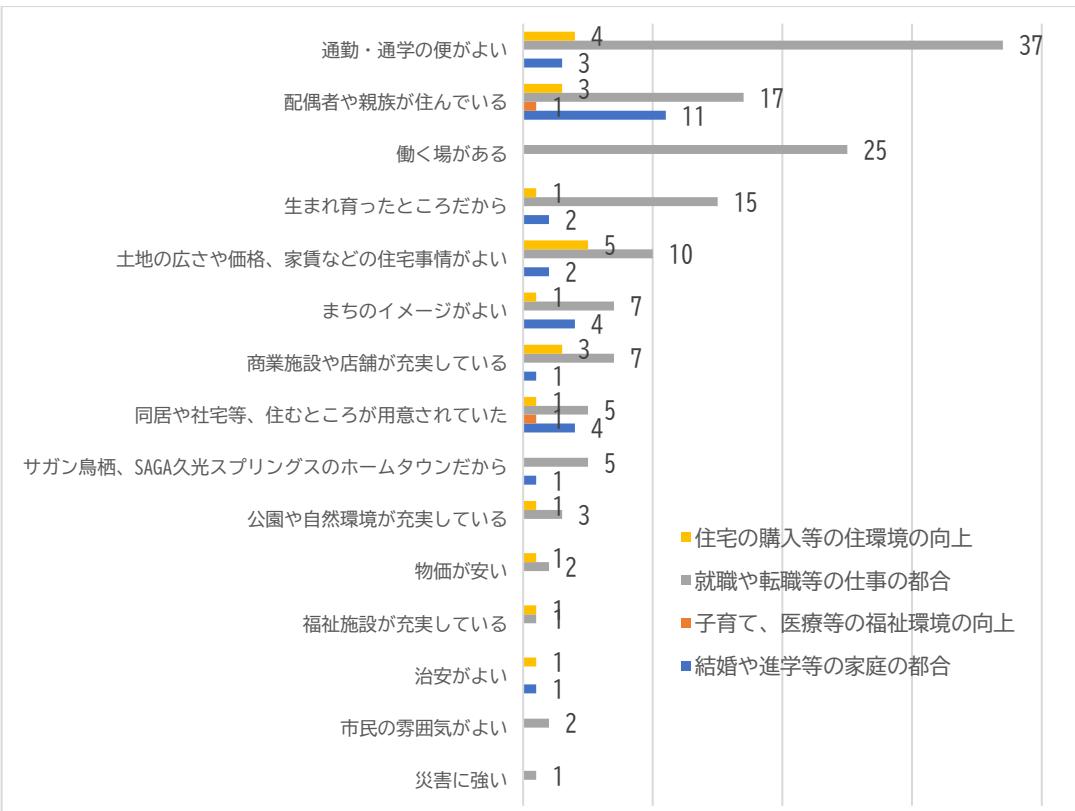
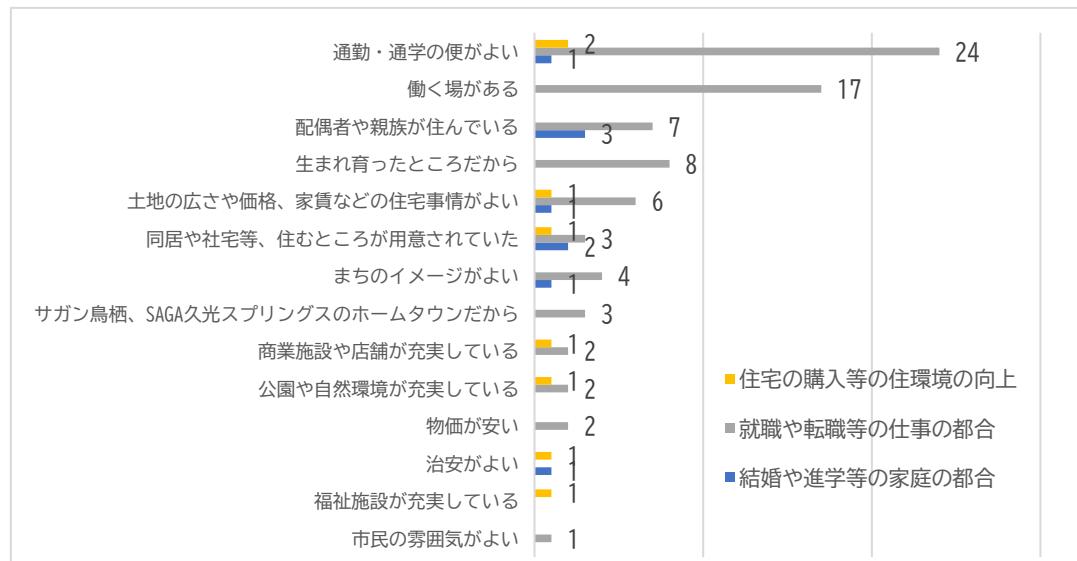


図2-8-ク 鳥栖市の選定理由・転入理由

世帯構成別にみると、単身で仕事の都合による転入の場合は「通勤・通学の便がよい」や「働く場がある」が多くなっていた。世帯では、「仕事の都合による転入においては「通勤・通学の便がよい」や「配偶者や親族が住んでいる」が多く、家庭の都合では「配偶者や親族が住んでいる」、住環境の向上では「住宅事情がよい」が多くなっていた。

(単身)



(世帯)

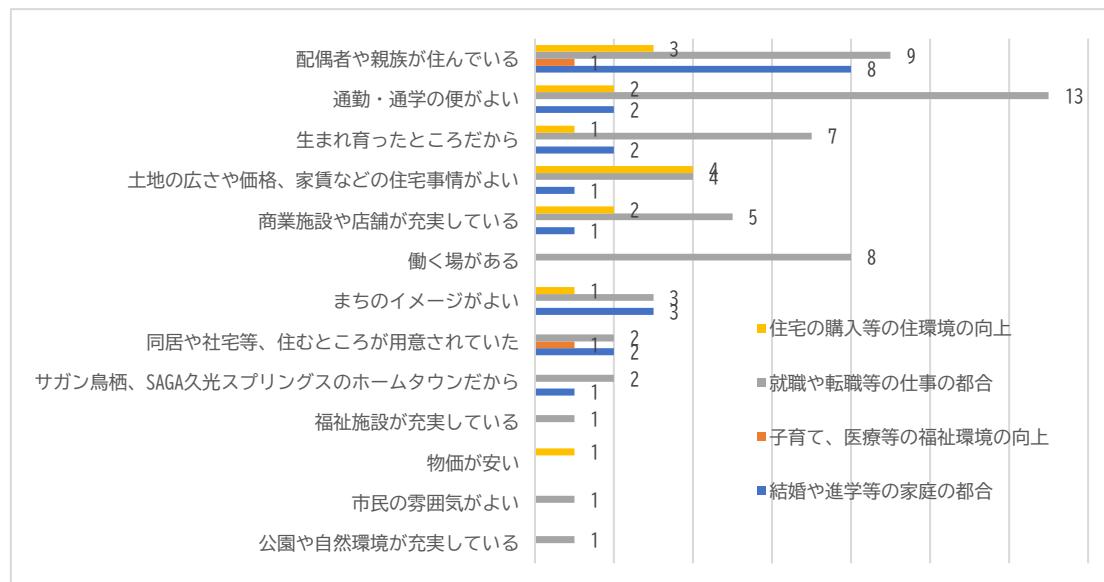
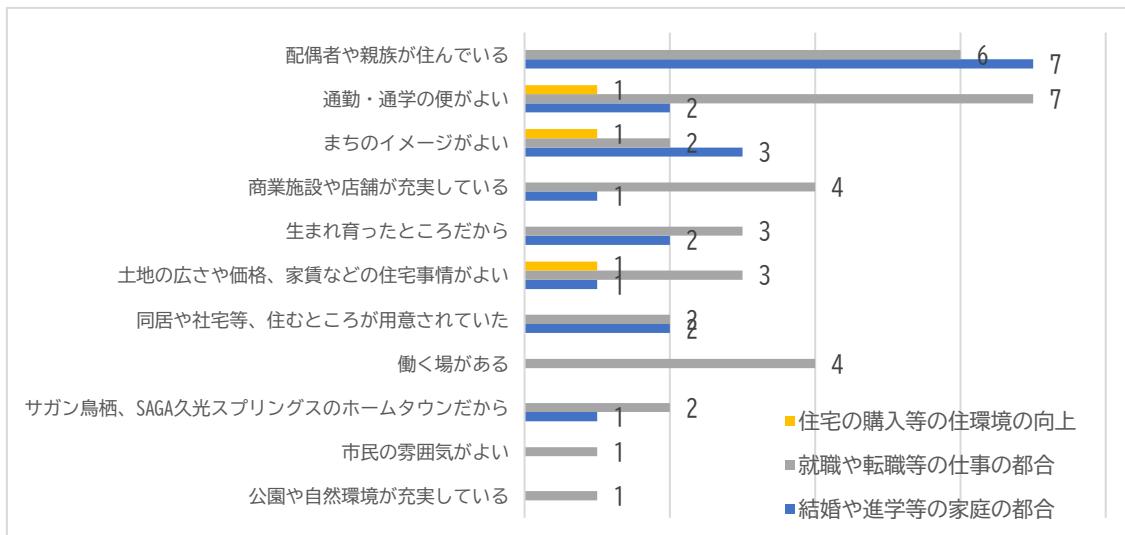


図2－8－ケ 鳥栖市の選定理由・転入理由・世帯構成①

世帯について詳細をみると、夫婦のみで仕事の都合による転入の場合は「通勤・通学の便がよい」、「配偶者や親族が住んでいる」が多く、家庭の都合では「配偶者や親族が住んでいる」が多くなっていた。また、子どもを帯同する世帯の転入においては、仕事の都合では「通勤・通学の便がよい」、住環境の向上では「配偶者や親族が住んでいる」、「住宅事情がよい」が多くなっていた。

(夫婦のみ)



(子どもあり)

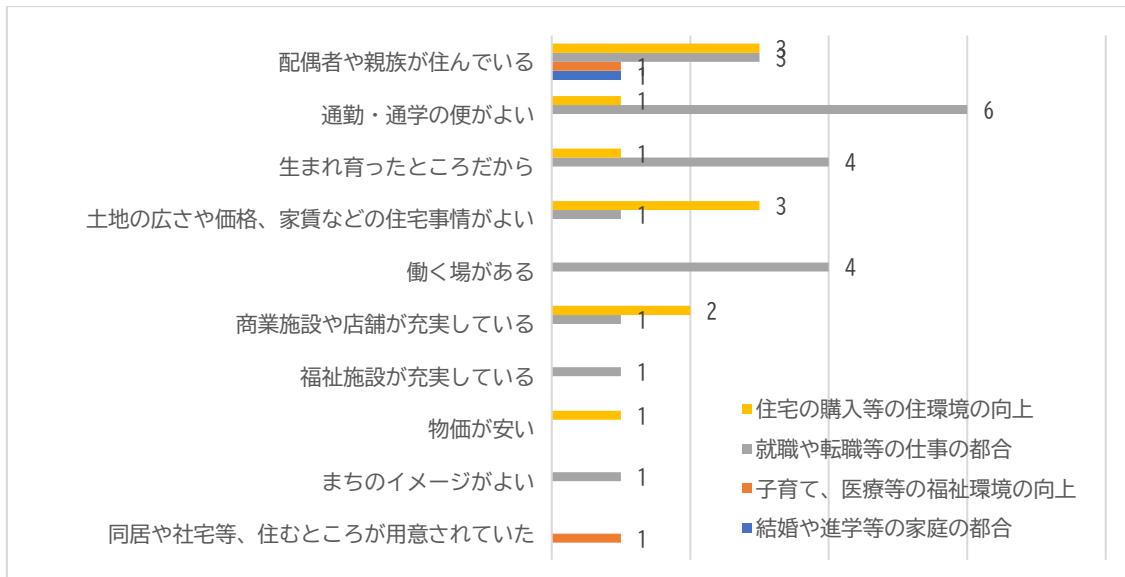


図2－8－コ 鳥栖市の選定理由・転入理由・世帯構成②

3. 転出

次に、転出と回答した146件について集計を行った。

3-1 年齢構成

転出者の年齢構成については「20～29歳」が最も多く44%、次いで「30～39歳」が18%、「50～59歳」が15%であった。

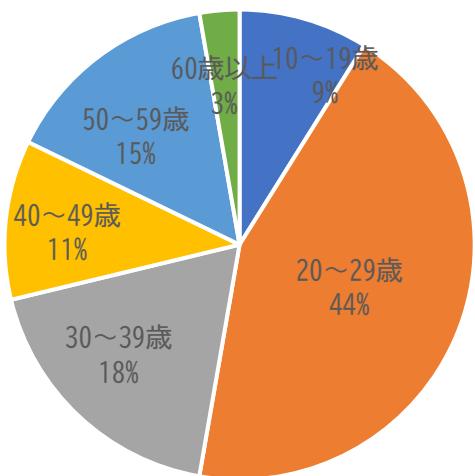


図3-1 年齢構成（転出）

3-2 世帯構成

転出時点の世帯構成としては、世帯が47%、単身が53%であった。

世帯のうち、夫婦のみの転出は54%、就学済みの子どもを帯同する転出は22%、未就学の子どもを帯同する転出は24%であった。

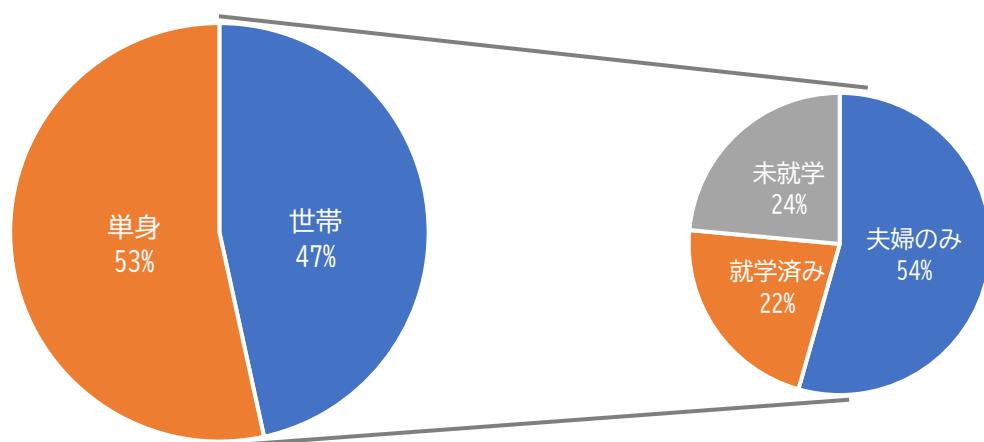


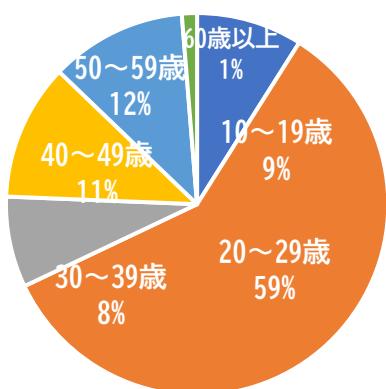
図3-2 世帯構成（転出）

3-2-1 世帯構成・年齢構成

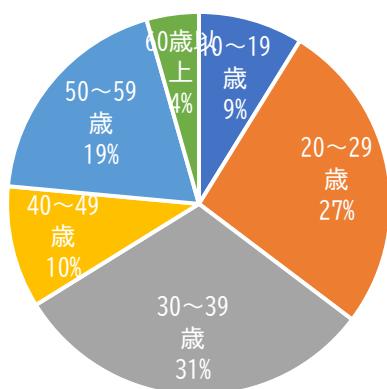
単身と回答したものの年齢構成としては「20～29歳」が最も多く59%、次いで「50～59歳」が12%、「40～49歳」が11%であった。また、世帯と回答したものの年齢構成としては「30～39歳」が最も多く31%、次いで「20～29歳」が27%、「50～59歳」が19%であった。

さらに、世帯の詳細をみると、夫婦のみの転出は「20～29歳」が最も多く24%、次いで「30～39歳」が13%、「10～19歳」が9%であるのに対し、子どもを帯同する転出は「30～39歳」が最も多く18%、次いで「50～59歳」が15%、「40～49歳」が8%であった。

(単身)



(世帯)



(世帯詳細)

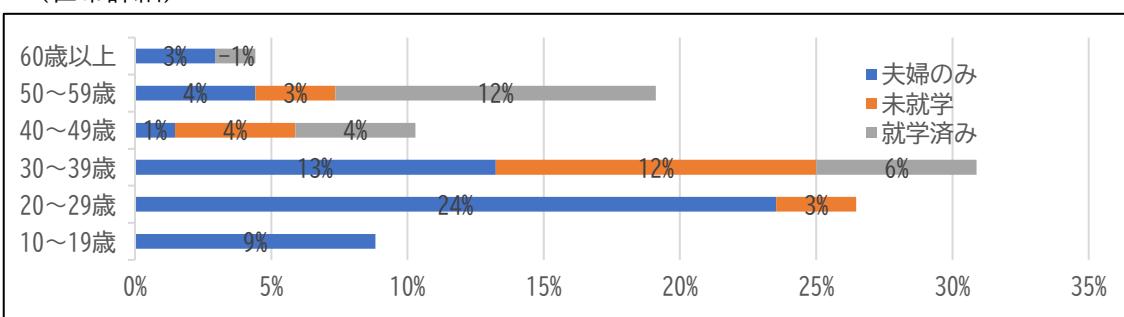


図3-2-1 年齢構成・世帯構成

3-3 転出先

転出先としては佐賀県内が最も多く30%、次点で福岡県が25%、東京都が8%であった。

また、年齢構成をみると、佐賀県内へ転出した「20～29歳」が全体の14%と最も多く、次点で福岡県へ転出した「20～29歳」が10%であった。

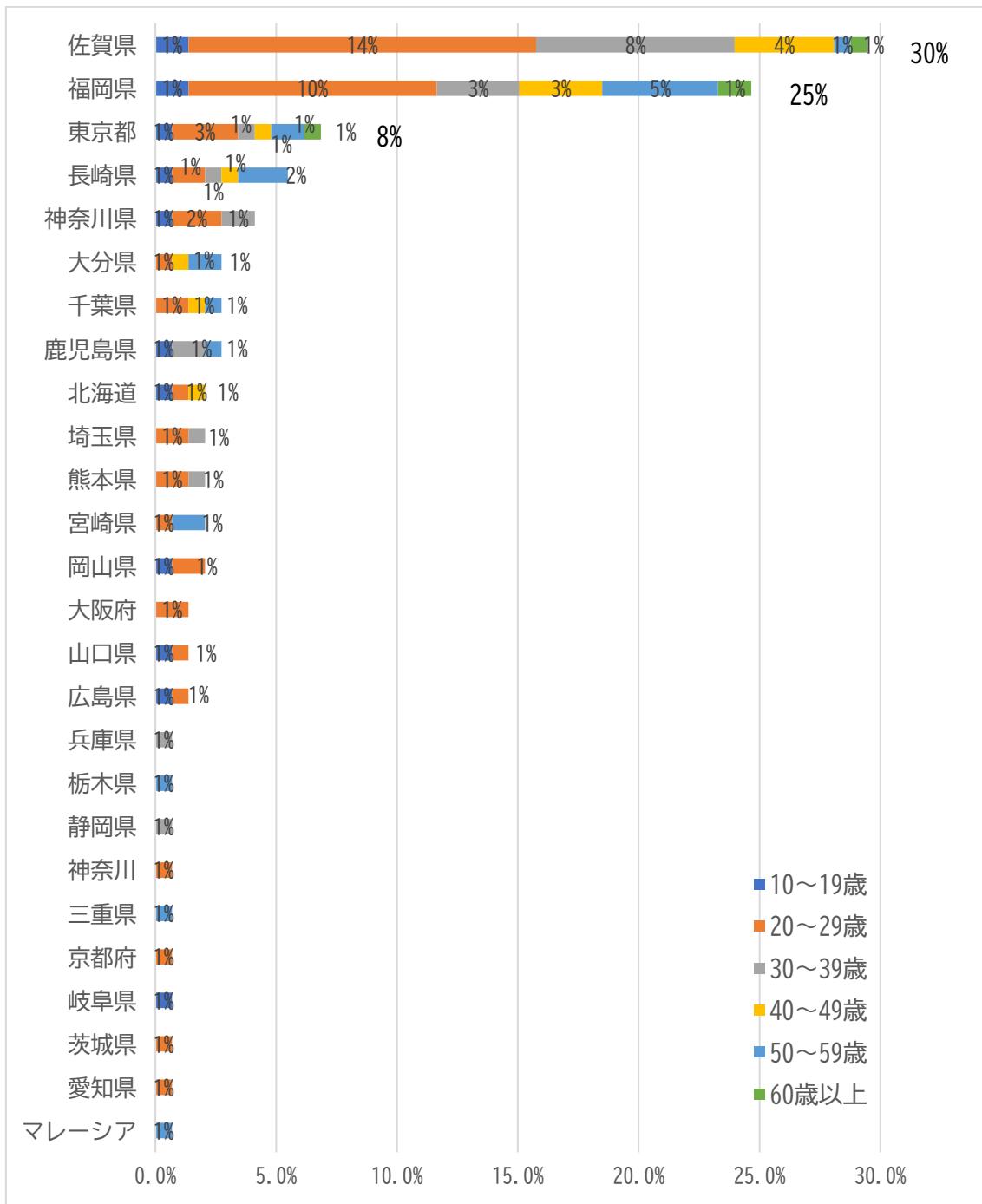


図3-3 転出先・年齢構成

世帯構成をみると、単身と回答したものの転出先としては佐賀県が最も多く31%、次いで福岡県が24%、東京都が8%であった。年代別にみると、佐賀県へ転出した「20～29歳」が最も多く21%を占めており、次いで福岡県に転出した「20～29歳」が12%、東京都に転出した「20～29歳」と佐賀県及び福岡県に転出した「40～49歳」が5%となっている。

(単身)

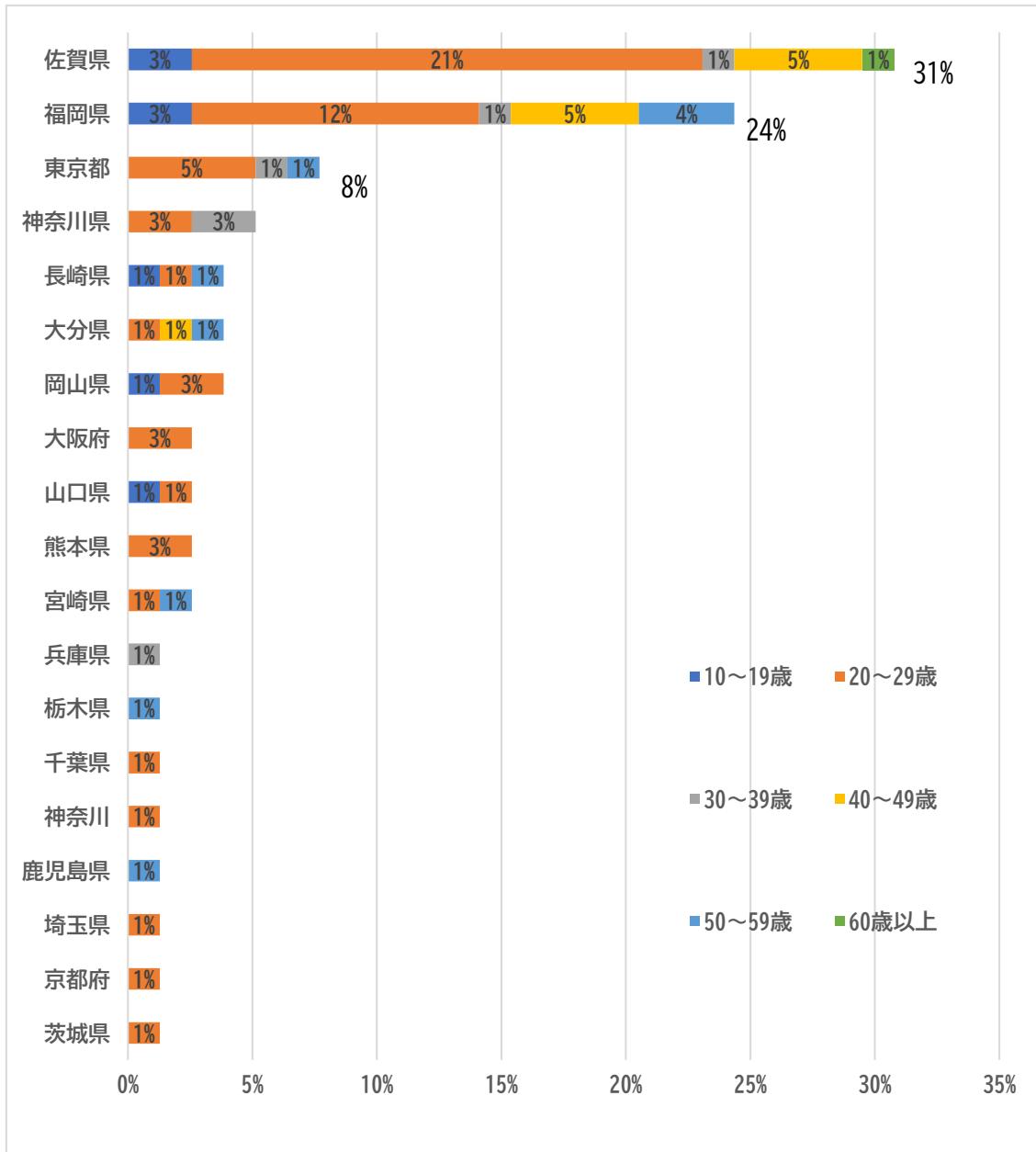
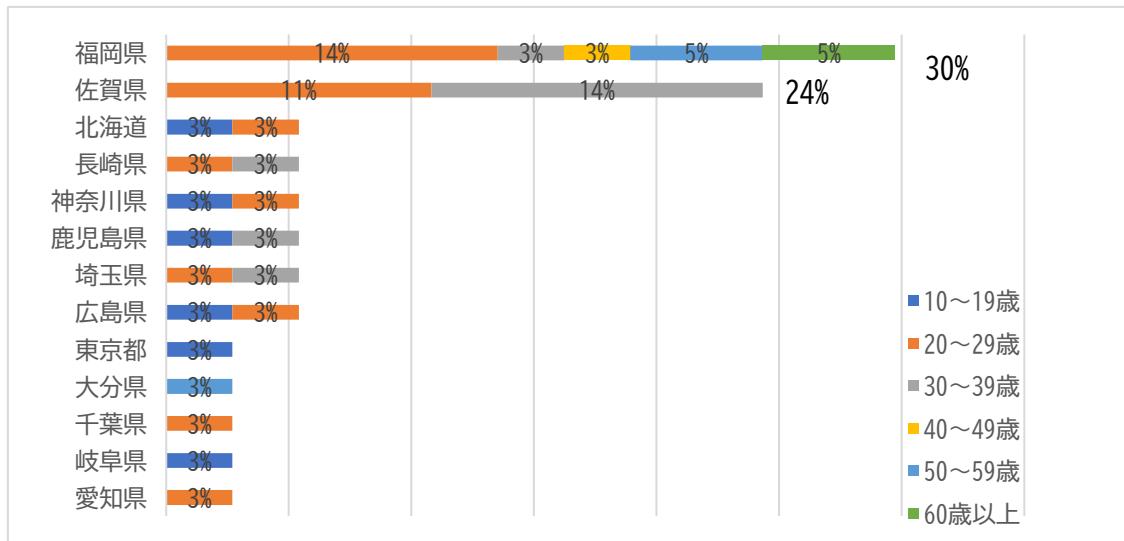


図3－3－ア 転出先・年齢構成・世帯構成①

また、世帯について詳細をみると、夫婦のみの世帯の転出先としては、福岡県が最も多く30%、次いで佐賀県が24%であった。年代別にみると、福岡県へ転出した「20～29歳」がもっとも多く14%を占めており、次いで佐賀県内に転出した「30～39歳」が14%、佐賀県内へ転出した「20～29歳」が11%であった。

さらに、子どもを帶同する世帯の転出先としては、佐賀県内が最も多く32%、次点で福岡県が19%であった。年代別にみると、佐賀県へ転出する「30～39歳」が最も多く19%となっており、次点で福岡県へ転出する「30～39歳」が10%であった。

(夫婦のみ)



(子どもあり)

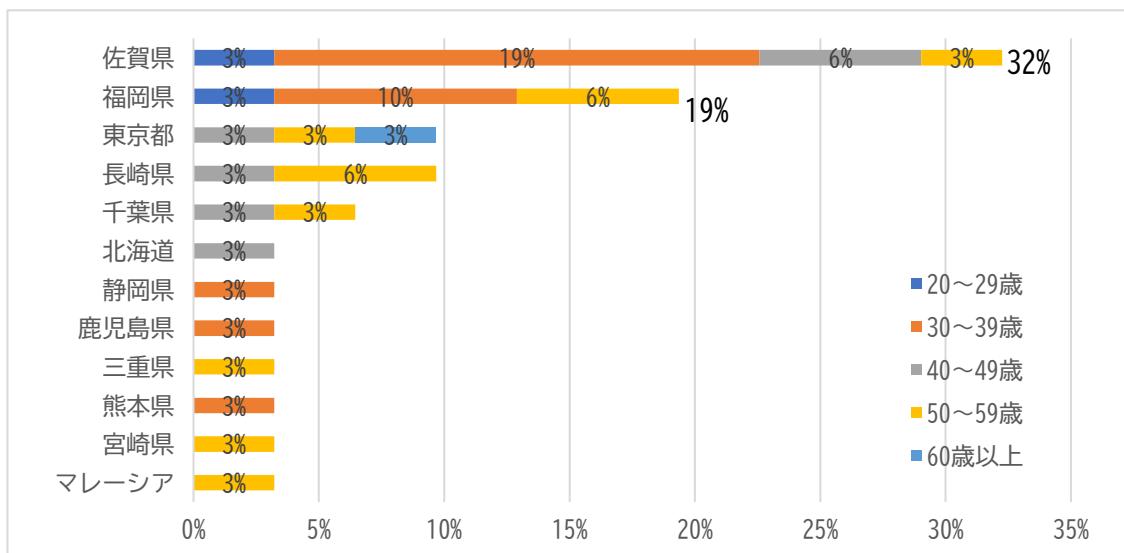


図3-3-イ 転出先・年齢構成・世帯構成②

3-4 転出先(市町村)

転出先(市町村・上位 5 位)としては佐賀市が最も多く全体の14%を占めており、次点ではみやき町で10%、長崎市・小郡市・久留米市・杵島郡が同率で7%であった。

また、年代別ではみやき町へ転出した「20~29歳」が最も多く、10%であった。

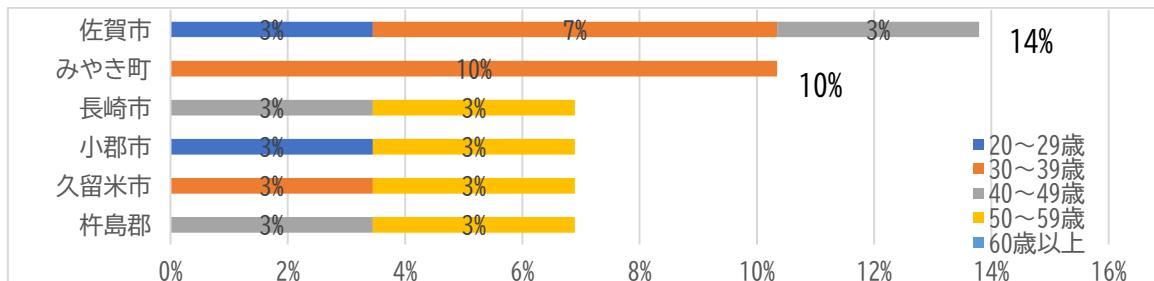


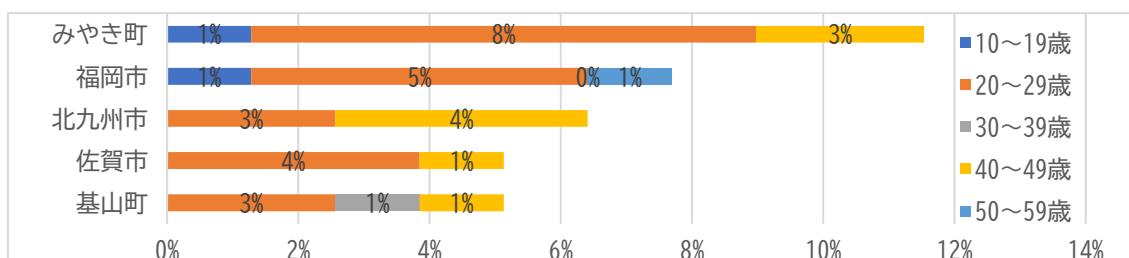
図3-4 転出先(市町村)・年齢構成

世帯構成をみると、単身と回答したものの転出先としてはみやき町が12%と最も多く、次いで福岡市8%、北九州市が7%であった。

年代別にみると、みやき町へ転出した「20~29歳」が8%と最も多く、次いで福岡市へ転出した「20~29歳」が5%であった。

また、世帯では、佐賀市への転出が11%と最も多く、次いで久留米市6%、長崎市・筑紫野市・小城市・みやき町が5%であった。

(単身)



(世帯)

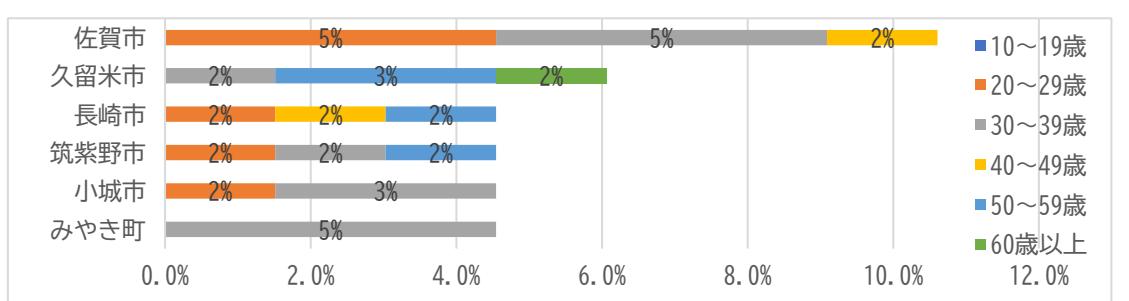


図3-4-ア 転出先(市町村)・年齢構成・世帯構成①

世帯について詳細をみると、夫婦のみの世帯の転出は佐賀市、筑紫野市が5%と最も多く、子どもを帶同する世帯の転出は佐賀市が最も多く6%であった。

(世帯詳細)

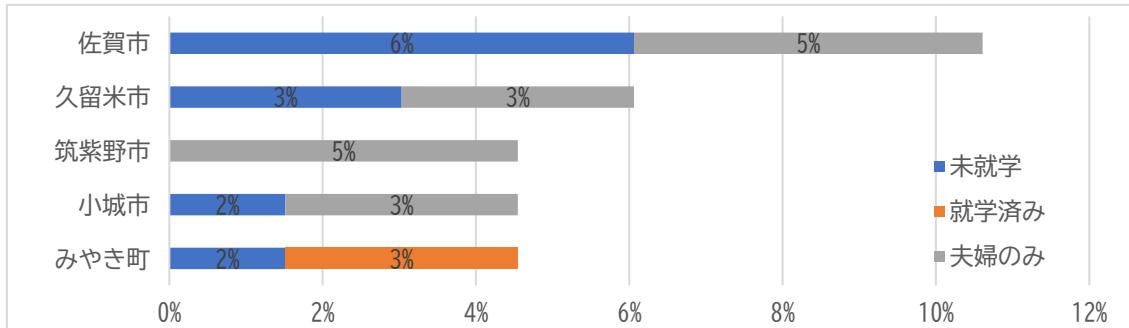


図3-4-イ 転出先（市町村）・年齢構成・世帯構成②

3-5 住居状況

転出前及び転出後の住居状況としては、賃貸住宅から賃貸住宅への住み替えが最も多く43%、次点で持家から賃貸住宅への住み替えが32%だった。

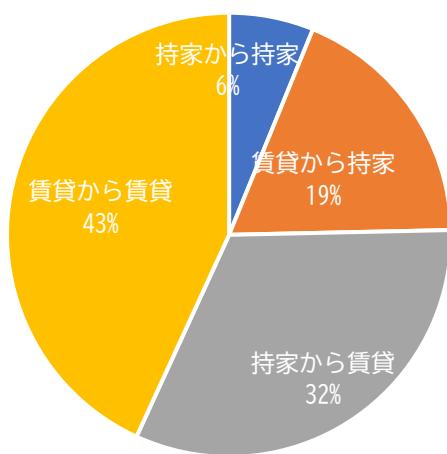


図3-5 住居状況

3-5-1 住居状況・年齢構成

住居状況について年齢構成をみると、「10～19 歳」、「20～29 歳」では持家から賃貸住宅への住み替えが最も多く、「30～39 歳」、「50～59 歳」では賃貸住宅から賃貸住宅への住み替えが最も多かった。「40～49 歳」では賃貸住宅から持家への住み替えと、持家から賃貸住宅、賃貸住宅から賃貸住宅への住み替えが同率となっており、「60 歳以上」では持家から持家、賃貸住宅から持家への住み替えが半数ずつであった。

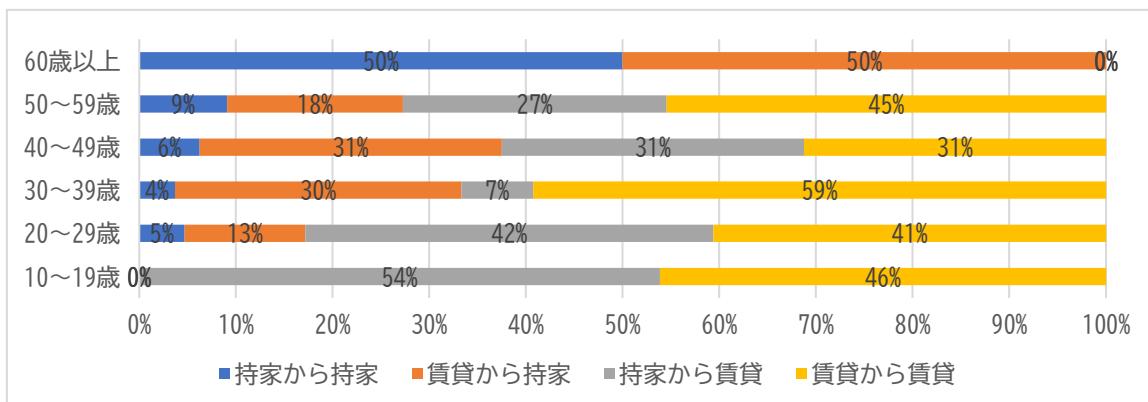


図3-5-ア 住居状況・年齢構成

3-5-2 住居状況・世帯構成

住居状況について世帯構成別にみると、単身では賃貸住宅から賃貸住宅への住み替えが最も多く 52%、次点では持家から賃貸住宅への住み替えが 27% であった。

世帯では持家から賃貸住宅への住み替えが最も多く 38% であり、次点で賃貸住宅から賃貸住宅への住み替えが 32% であった

。

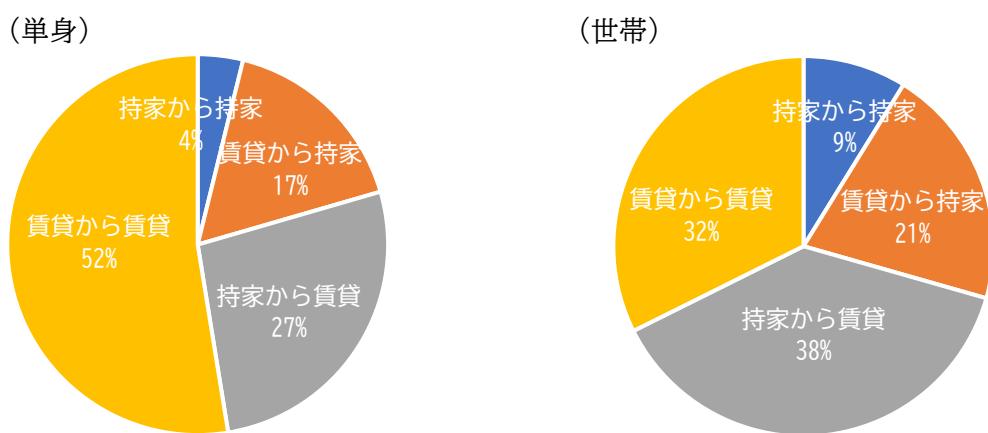
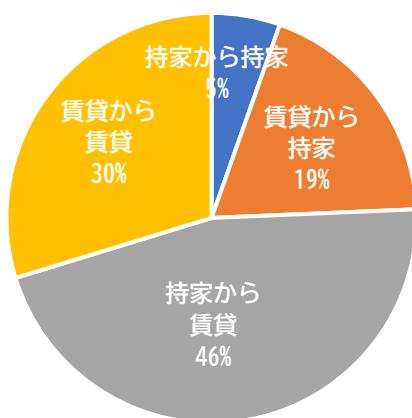


図3-5-イ 住居状況・世帯構成①

また、世帯について詳細をみると、夫婦のみの世帯の転出では持家から賃貸住宅への住み替えが最も多く46%、次いで賃貸住宅から賃貸住宅への住み替えが30%であった。子どもを帯同する世帯の転出では、賃貸住宅から賃貸住宅が最も多く35%、次いで持家から賃貸住宅への住み替えが29%となっている。

(夫婦のみ)



(子どもあり)

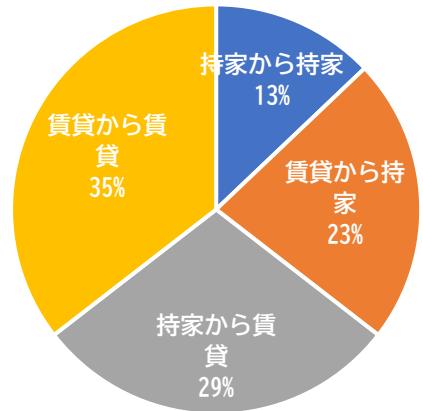


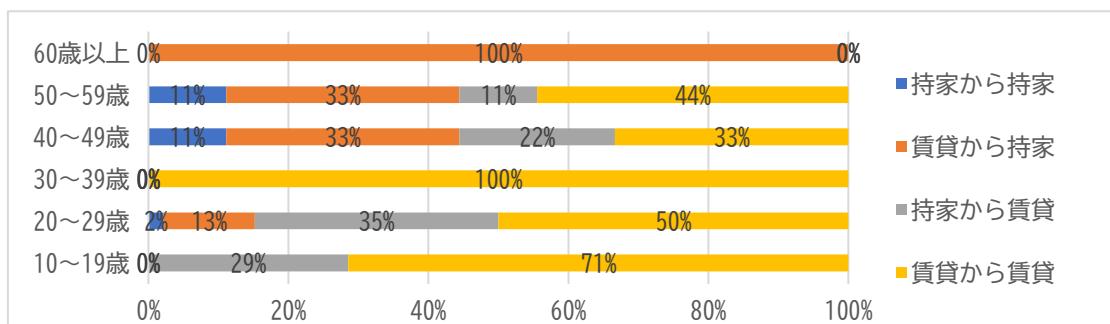
図3－5－ウ 住居状況・世帯構成②

3-5-3 住居状況・世帯構成・年齢構成

単身における年齢別の構成をみると、「10～19歳」、「20～29歳」、「30～39歳」、「50～59歳」では賃貸住宅から賃貸住宅への住み替えが最も多くなっている。「40～49歳」では賃貸住宅から持家、賃貸住宅から賃貸住宅への住み替えが同率となっており、「60歳以上」ではその全てが賃貸住宅から持家への住み替えであった。

また、世帯における年齢別の構成をみると、「10～19歳」、「20～29歳」、「40～49歳」では、持家から賃貸住宅への住み替えが最も多くなっている。「30～39歳」、「50～59歳」では賃貸住宅から賃貸住宅への住み替えが最も多く、60歳以上では持家から持家への住み替えが多かった。

(単身)



(世帯)

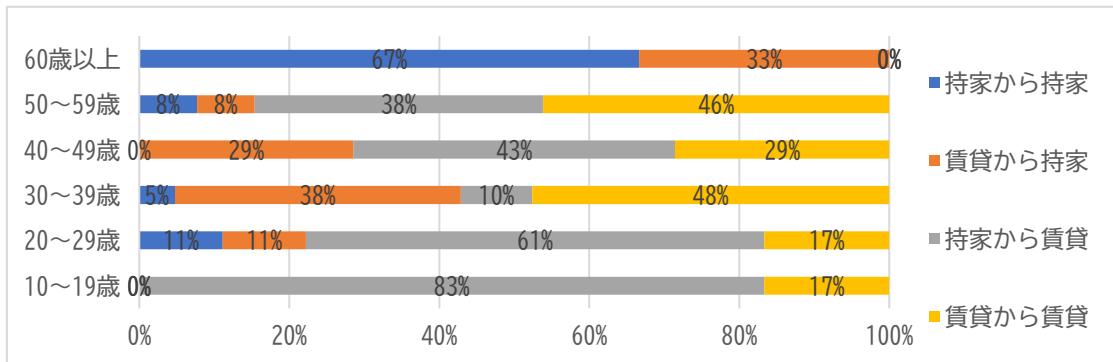
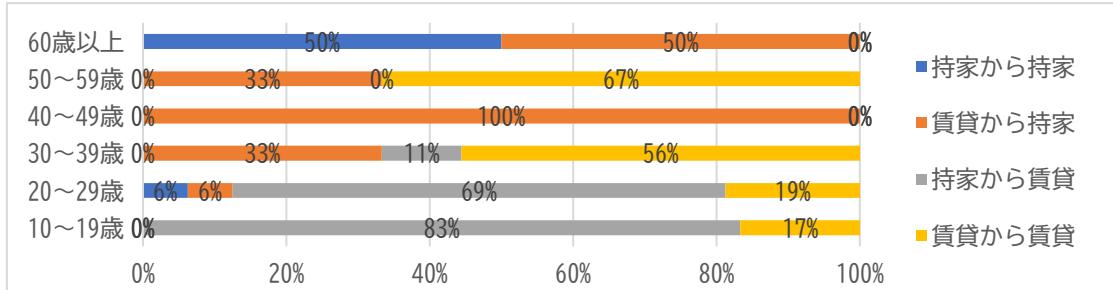


図3－5－工 住居状況・世帯構成・年齢構成①

また、世帯において、夫婦のみの世帯の転出における世帯構成をみると、「10～19歳」はすべてが転出後に賃貸住宅へ居住しており、「40～49歳」、「60歳以上」はすべてが転出後に持家へ居住していた。「20～29歳」、「30～39歳」、「50～59歳」では、転出後に賃貸住宅へ居住する者が多くなっていた。

さらに、子どもを帯同する世帯の転出について世帯構成をみると、「20～29歳」及び「60歳以上」はすべてが転出後に持家への居住であった。「30～39歳」は転出後の持家への居住、賃貸住宅への居住が半々であり、「40～49歳」及び「50～59歳」は賃貸住宅へ居住が多かった。

(夫婦のみ)



(子どもあり)

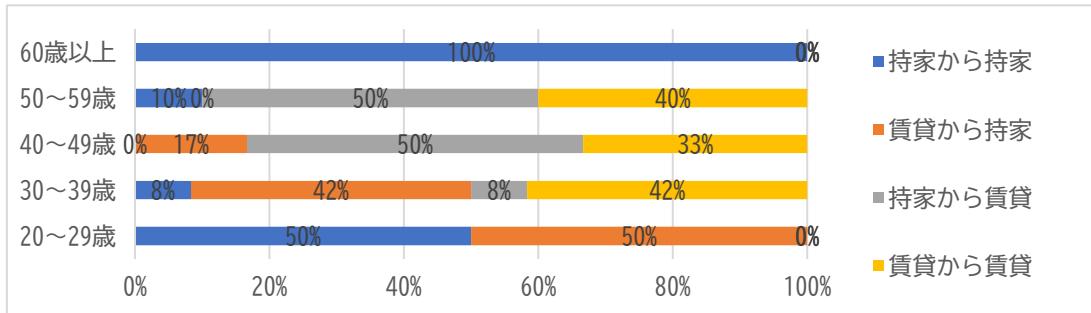


図3－5－オ 住居状況・世帯構成・年齢構成②

3-5-4 住居状況・転出先

転出先として割合が高い佐賀県、福岡県、東京都について住宅状況を見てみると、3都県とも賃貸への居住が最も多くなっているが、佐賀県へ転出したものについては一定数が持ち家への居住であった。

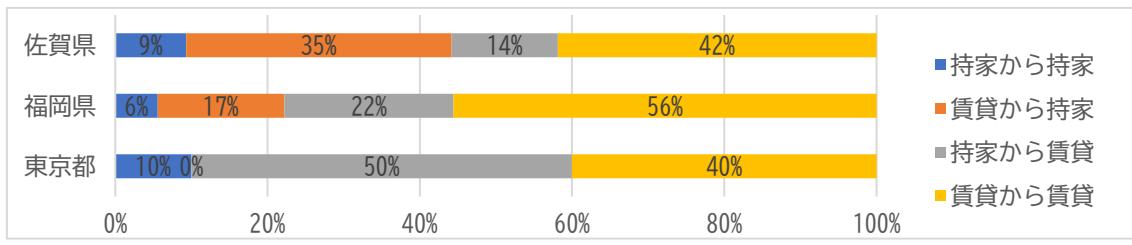
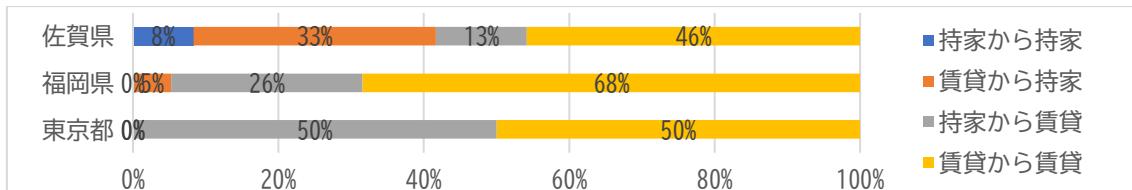


図3-5-カ 住居状況・転出先

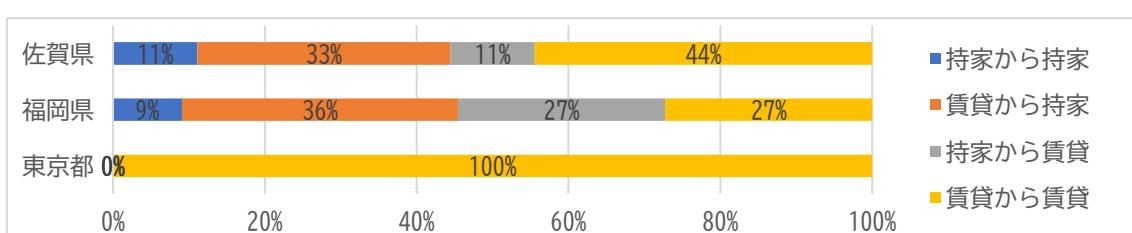
世帯構成別でみると、単身者においては殆どが賃貸住宅へ居住しているが、佐賀県への転出者については、転出後の持家への居住が一定数見られた。

世帯について、夫婦のみの世帯の転出の場合は半数以上が転出後に賃貸住宅へ居住している。また、佐賀県・福岡県では持家への居住も一定数見られた。子どもを帶同する世帯の転出の場合、福岡県・東京都では賃貸住宅への居住が多くなっているが、佐賀県内においては賃貸住宅・持家への居住が同率であった。

(単身)



(世帯・夫婦のみ)



(世帯・子どもあり)

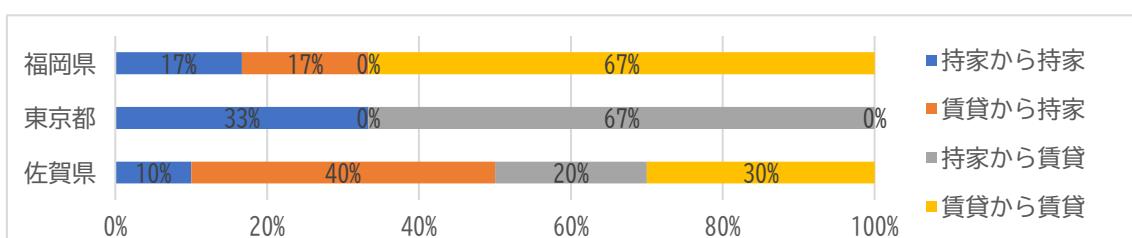


図3-5-キ 住居状況・転出先・世帯構成①

3-6 通勤・通学先

設問の不備により分析不可

3-7 転出理由

鳥栖市からの転出理由としては仕事の都合が 68%と大半を占めており、次点で家庭の都合が 19%であった。

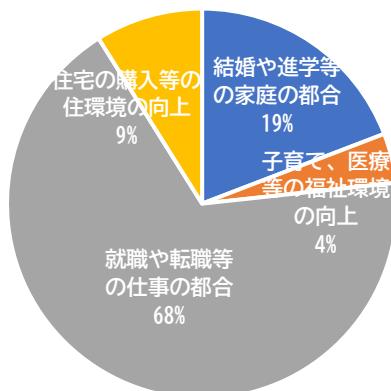


図3-7 転出理由

3-7-1 転出理由・年齢構成

転出理由について年齢構成別でみると、「60 歳以上」を除くすべての年代で、仕事の都合による転出が最も多く、「10~19 歳」では家庭の都合による転出が多くなっていた。なお、「60 歳以上」では住環境の向上を目的とした転出が最も多くなっていた。

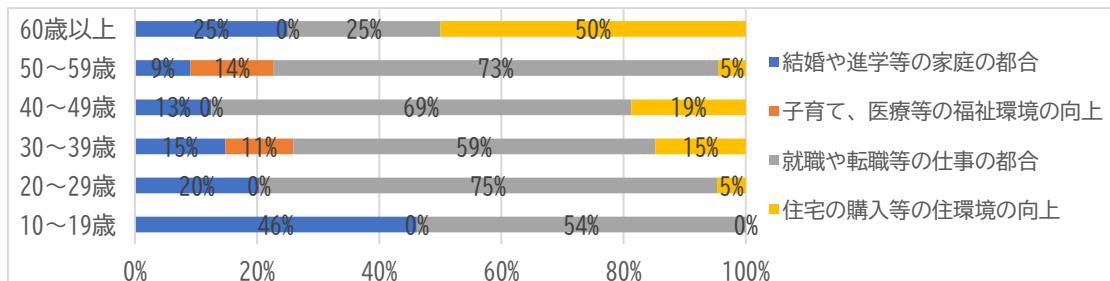


図3-7-ア 転出理由・年齢構成

3-7-2 転出理由・世帯構成

転出理由について世帯構成別でみると、単身、世帯ともに仕事の都合による転出が多く、次点で家庭の都合による転出が多くなっていた。また、単身に比べ、世帯については住環境や福祉環境の向上を目的とした転出の割合が高くなっていた。世帯についての詳細をみると、夫婦のみの世帯、子どもを帯同する世帯のどちらも仕事の都合による転出が最も多く、次点で家庭の都合による転出が多くなっていた。

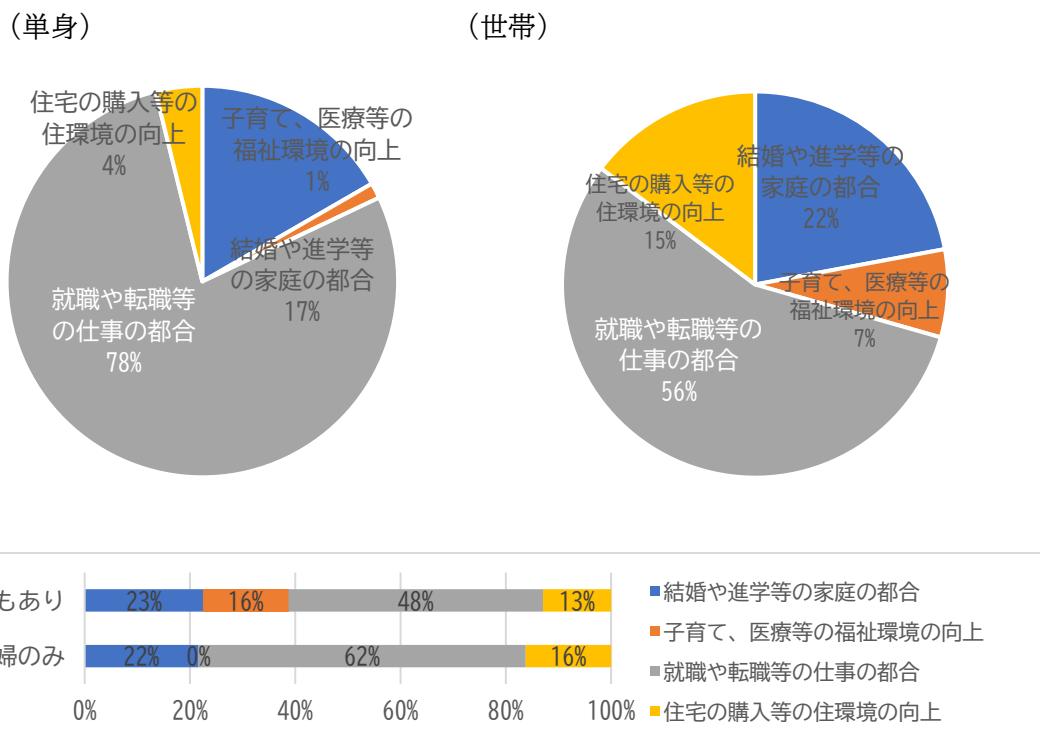


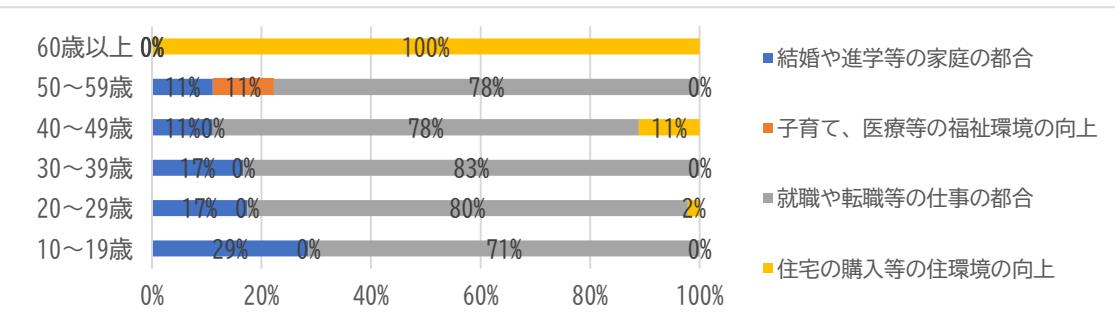
図3-7-1 転出理由・世帯構成

3-7-3 転出理由・世帯構成・年齢構成

世帯構成別・年代別でみると、単身者では「60歳以上」を除くすべての年代で仕事の都合による転出が多くなっていた。なお、「60歳以上」では、すべてが住環境の向上を目的とした転出であった。

また、世帯では、「10~19歳」及び「60歳以上」を除く世代で仕事の都合による転出が最も多く、「10~19歳」では、家庭の都合による転出が最も多くなっていた。「60歳以上」においては、家庭の都合、仕事の都合、住環境の向上を目的とした転出が同率であった。

(単身)



(世帯)

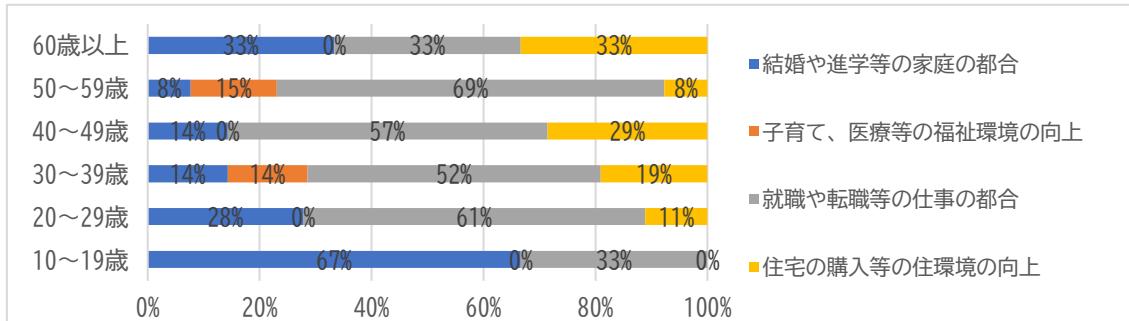


図3－7－ウ 転出理由・世帯構成・年齢構成

3-7-4 転出理由・転出先

転出先として割合が高い福岡県、佐賀県、熊本県について転出理由をみると、すべての都県において仕事の都合による転出が多くなっていた。

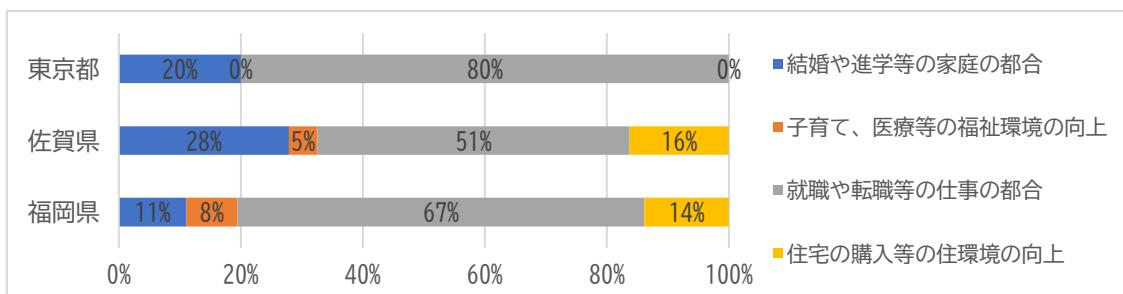
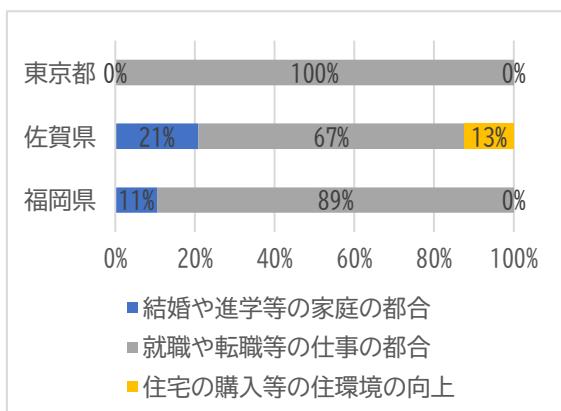


図3－7－エ 転出理由・転出先

また、世帯構成別にみると、単身ではどの都県も仕事の都合による転出が多くなっており、世帯では東京都、佐賀県においては家庭の都合による転出が多くなっていた。

(単身)



(世帯)

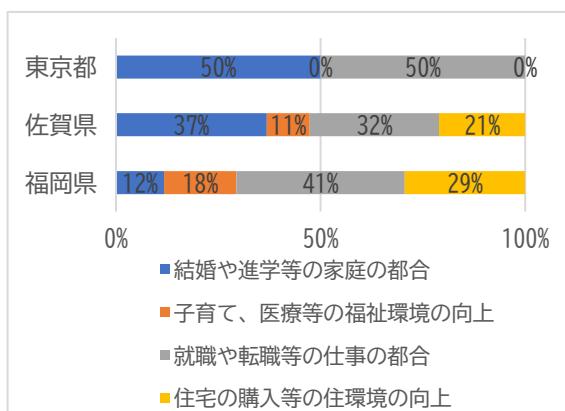
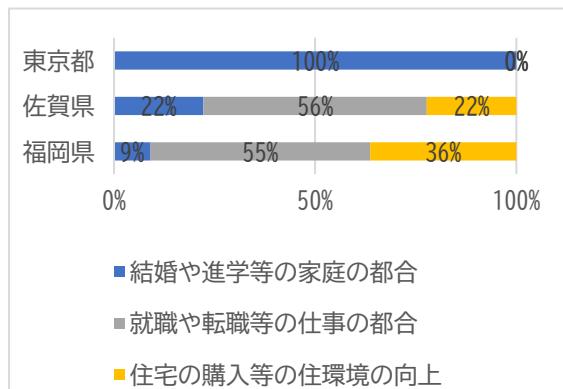


図3－7－エ 転出理由・転出先・世帯構成①

なお、世帯について詳細をみると、特に福岡県において、夫婦のみの世帯の転出では仕事の都合によるものが大半を占めているが、子どもを帶同する世帯の転出は子育て環境の向上を目的とした転出が大半を占めている

(世帯のみ)



(子どもあり)

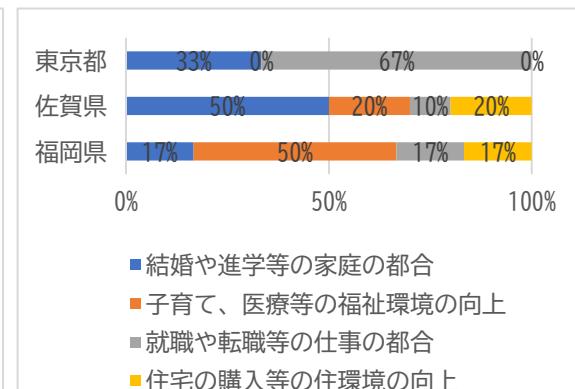


図3－7－7 転出理由・転出先・世帯構成②

3-7-5 転出理由・住居状況

転出理由について住居状況別にみると、住環境の向上及び福祉環境の向上を目的とした転出については持家への居住が多くなっているが、仕事の都合及び家庭の都合による転出では賃貸住宅への居住が多くなっていた。

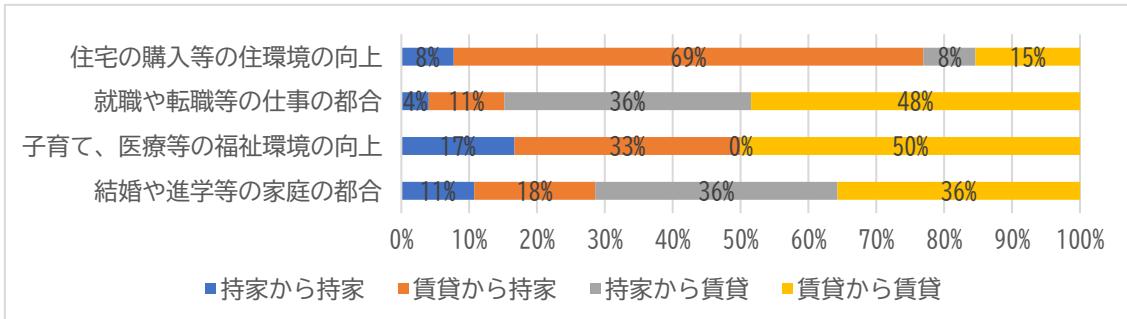
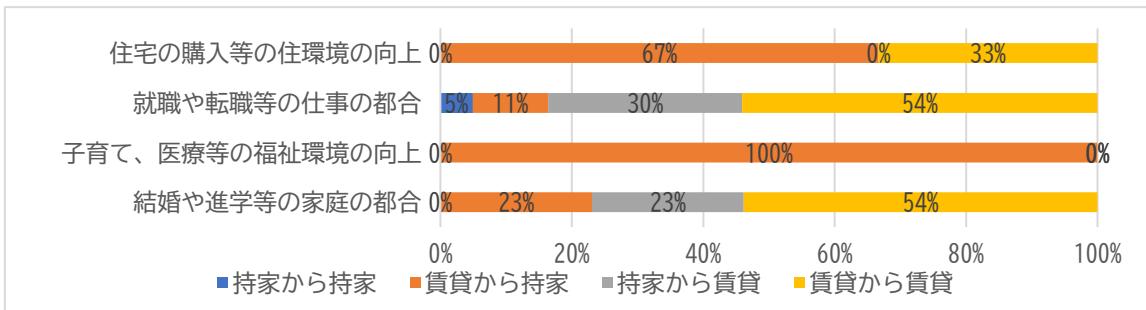


図3-7-8 転出理由・住居状況

なお、世帯構成別でみると、単身・世帯ともに住環境の向上を目的とした転出では持家が多くなっており、仕事や家庭の都合による転出では賃貸が多くなっていた。福祉環境の向上にあたっては、単身ではすべてが持家への居住となっており、世帯では賃貸住宅への居住が多くなっていた。

(単身)



(世帯)

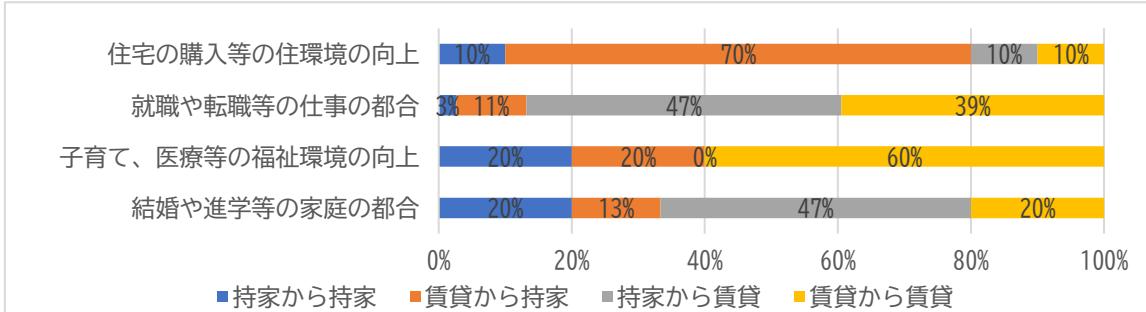


図3-7-9 転出理由・住居状況・世帯構成①

また、世帯について詳細をみると、住環境の向上を目的に転出する場合は子どもの有無に関わらず持家への居住が多く、仕事の都合による転出では賃貸住宅への居住が多くなっていた。
(夫婦のみ)

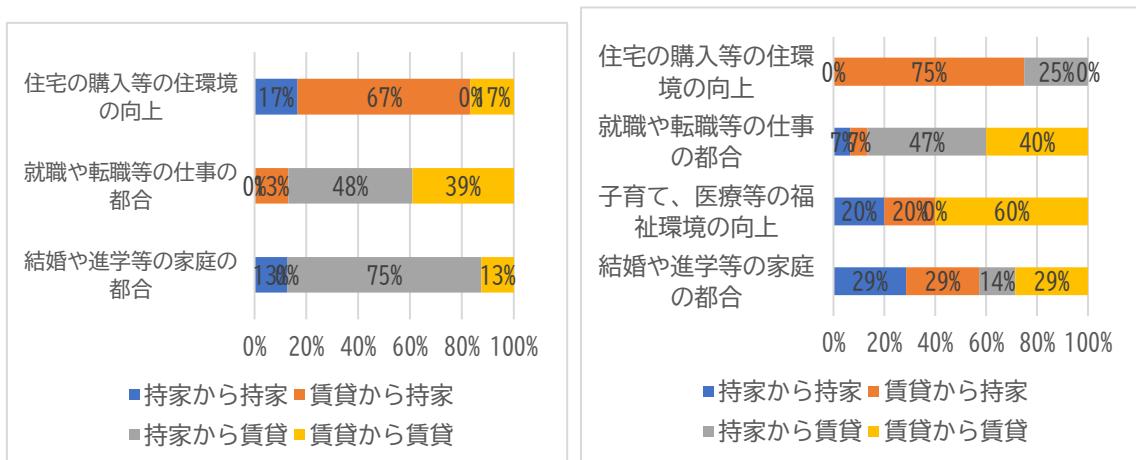


図3-7-10 転出理由・住居状況・世帯構成②

3-8 転出先の選定理由

転出先の市町を選んだ理由として、影響の大きかったものを最大3つまで回答をしてもらい、得点をつけたところ、「通勤・通学の便がよい」が最も多く 60pt であった。次いで「働く場がある」が 43pt、「配偶者や親族が住んでいる」が 36pt であった。

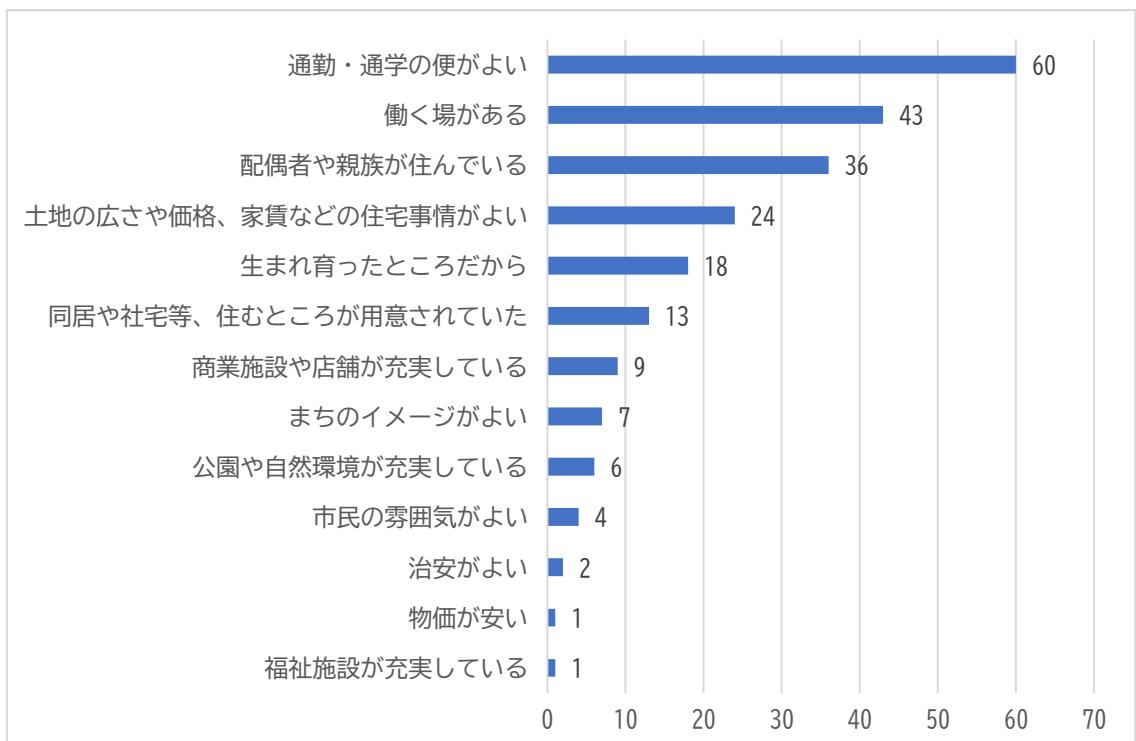
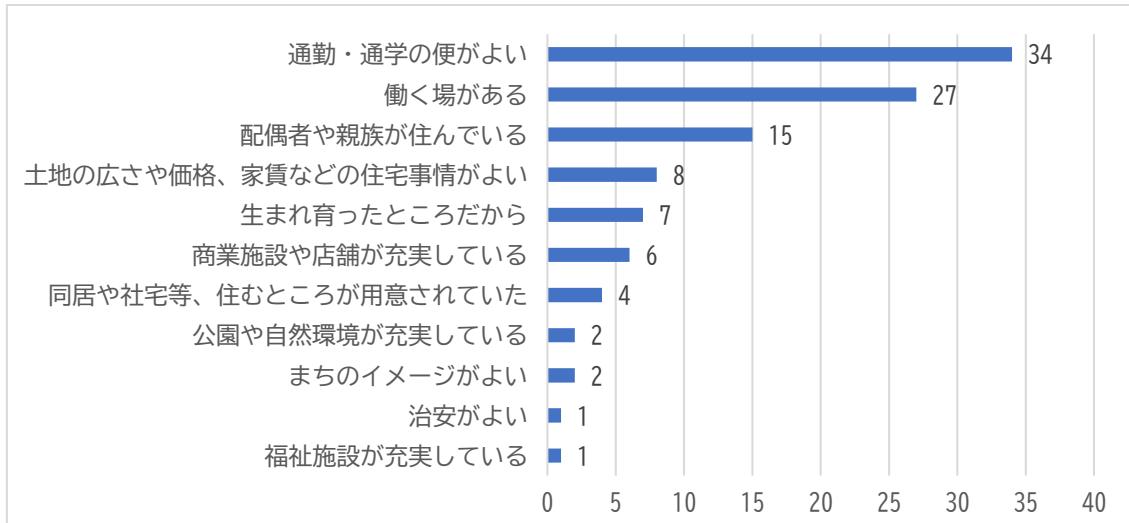


図3-8 転出先の選定理由

なお、転出先を選んだ理由について世帯構成別でみると、単身では「通勤・通学の便がよい」「働く場がある」「配偶者や親族が住んでいる」の順であった。世帯でも、「通勤・通学の便がよい」が最も多く、次点は「配偶者や親族が住んでいる」、「土地の広さや価格、家賃などの住宅事情がよい」、「働く場がある」の順であった。

(単身)



(世帯)

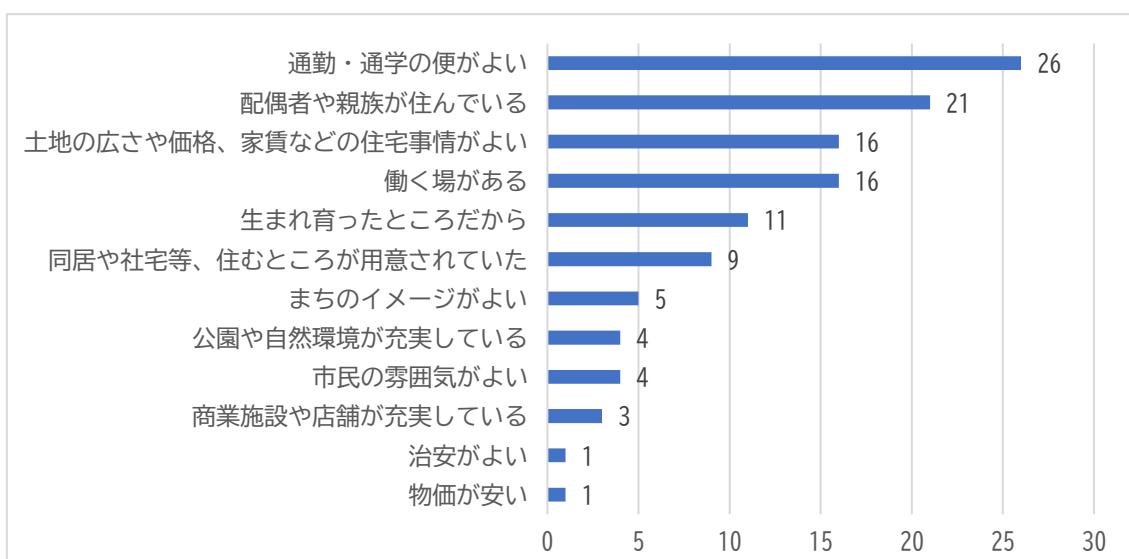


図3－8－1 転出先の選定理由・世帯構成①

また、世帯について詳細をみると、夫婦のみの場合は「通勤・通学の便がよい」が最も多く、次点が「働く場がある」であった。子どもありの場合は「配偶者や親族が住んでいる」が最も多く、次点が「通勤・通学の便がよい」、「土地の広さや価格、家賃などの住宅事情がよい」となっていた。

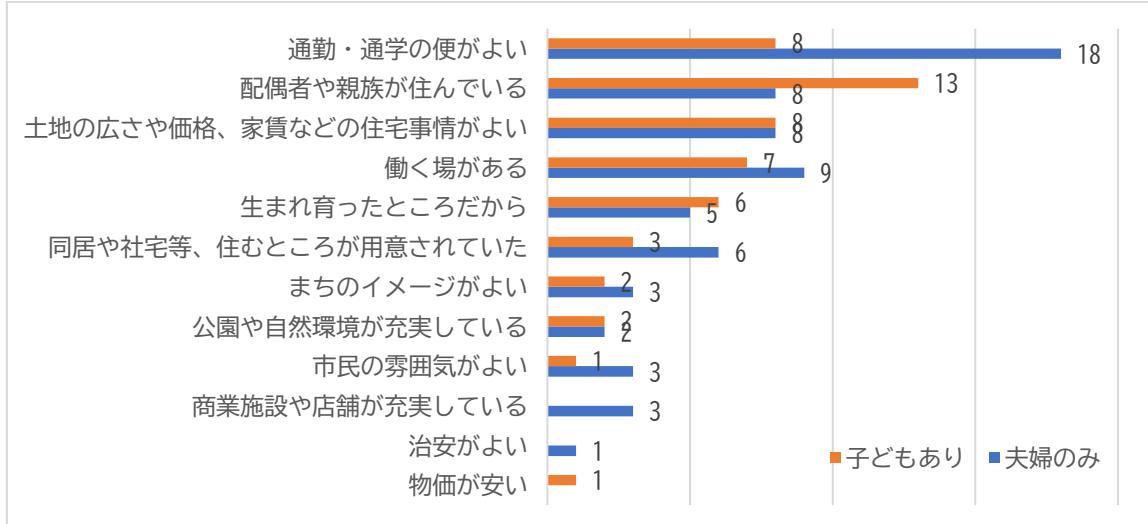


図3－8－2 転出先の選定理由・世帯構成②

3-8-1 転出先の選定理由・世帯構成・年齢構成

転出先の選定理由について、年齢構成・世帯構成別で上位3つをみると、単身者ではどの年代においても「通勤・通学の便がよい」、「働く場がある」が多い。

単身における転出先選定理由(年代別・上位3つ)			
	1位	2位	3位
10～19歳	通勤・通学の便がよい(36%)	配偶者や親族が住んでいる(18%)	土地の広さや価格、家賃などの住宅事情がよい(18%)
20～29歳	通勤・通学の便がよい(38%)	働く場がある(29%)	配偶者や親族が住んでいる(14%)
30～39歳	通勤・通学の便がよい(50%)	働く場がある(20%)	配偶者や親族が住んでいる 生まれ育ったところだから まちのイメージがよい(10%)
40～49歳	働く場がある(45%)	土地の広さや価格、 家賃などの住宅事情 がよい(18%)	配偶者や親族が住んでいる 生まれ育ったところだから 同居や社宅等、住むところが 用意されていた 公園や自然環境が充実している(9%)
50～59歳	通勤・通学の便がよい(22%)	働く場がある 配偶者や親族が住んでいる 土地の広さや価格、家賃などの住宅事情がよい(17%)	
60歳以上	生まれ育ったところだから(100%)		

表3-1 単身者における鳥栖市の選定理由(単身)

世帯では、「10～19 歳」、「20～29 歳」及び「50～59 歳」については「通勤・通学の便がよい」が最も多く、「30～39 歳」及び「40～49 歳」においては「配偶者や親族が住んでいる」が最も多くなっていた。

世帯における転出先選定理由(年代別・上位3つ)			
	1 位	2 位	3 位
10～19 歳	通勤・通学の便がよい (30%)	市民の雰囲気がよい 土地の広さや価格、家賃などの住宅事情がよい 同居や社宅等、住むところが用意されていた (20%)	
20～29 歳	通勤・通学の便がよい (23%)	働く場がある(20%)	土地の広さや価格、家賃などの住宅事情がよい(11%)
30～39 歳	配偶者や親族が住んでいる (29%)	通勤・通学の便がよい 働く場がある(20%)	
40～49 歳	配偶者や親族が住んでいる (31%)	生まれ育ったところだから 公園や自然環境が充実している(18%)	
50～59 歳	通勤・通学の便がよい (47%)	土地の広さや価格、家賃などの住宅事情がよ (27%)	同居や社宅等、住むところが用 意されていた(13%)
60 歳以上	配偶者や親族が住んでいる (67%)	生まれ育ったところだか ら(33%)	—

表3－2 単身者における鳥栖市の選定理由（世帯）

3-8-2 転出先の選定理由・転出先

転出先として割合が高い選ばれている佐賀県、福岡県、東京都についての選定理由をみると、佐賀県では「配偶者や親族が住んでいる」が最も多く、福岡県では「働く場がある」、東京都では「通勤・通学の便がよい」が最も多くなっていた。

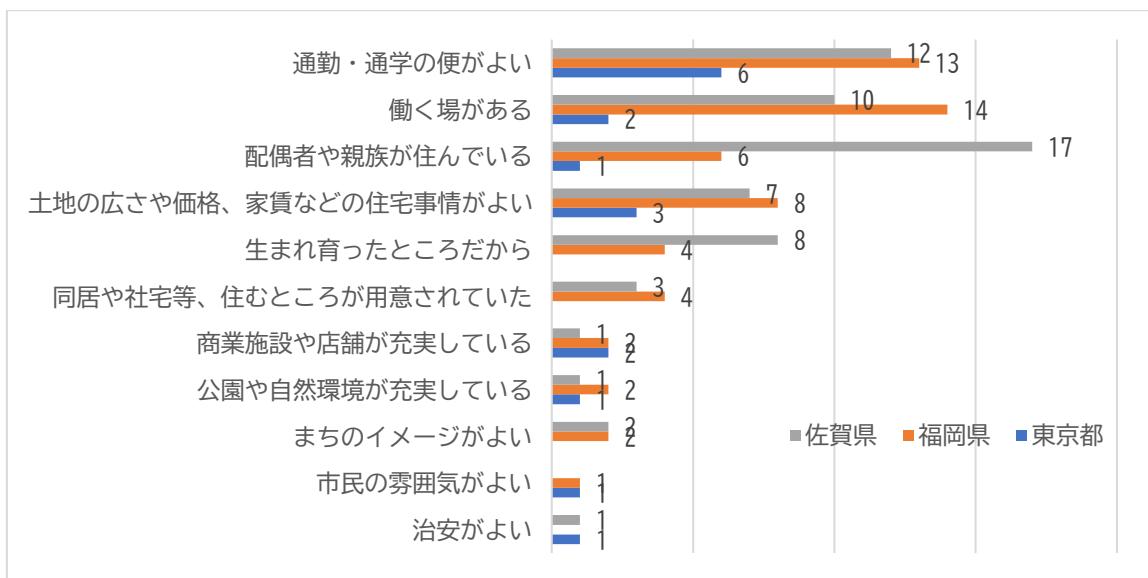


図3－8－3 転出先の選定理由・転出先

なお、転出先として最も多かった佐賀県について、世帯構成別で選定理由をみると、単身・世帯とともに「配偶者や親族が住んでいる」が最も多くなっていた。なお、単身では「働く場がある」も同率であった。

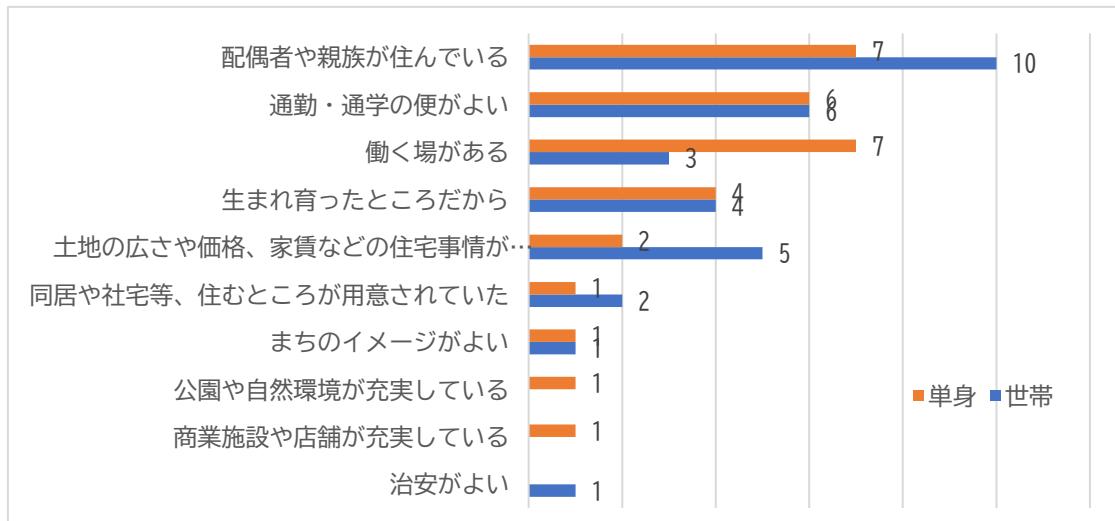


図3-8-4 転出先の選定理由・転出先・世帯構成

3-8-3 転出先の選定理由・住居状況

転出先を選んだ理由について、転出前後の住居状況毎にみると、賃貸住宅へ居住するものは「通勤・通学の便が良い」や「働く場がある」が多く、持家へ居住するものは「配偶者や親族が住んでいる」、「生まれ育ったところだから」が多かった。

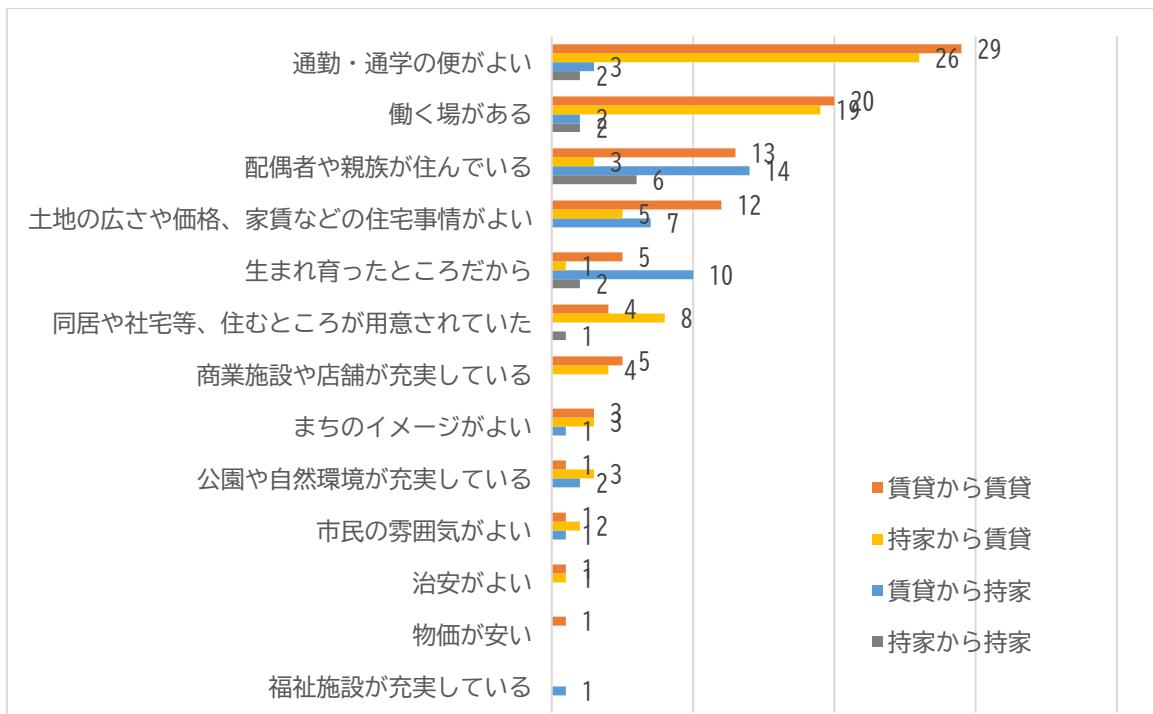
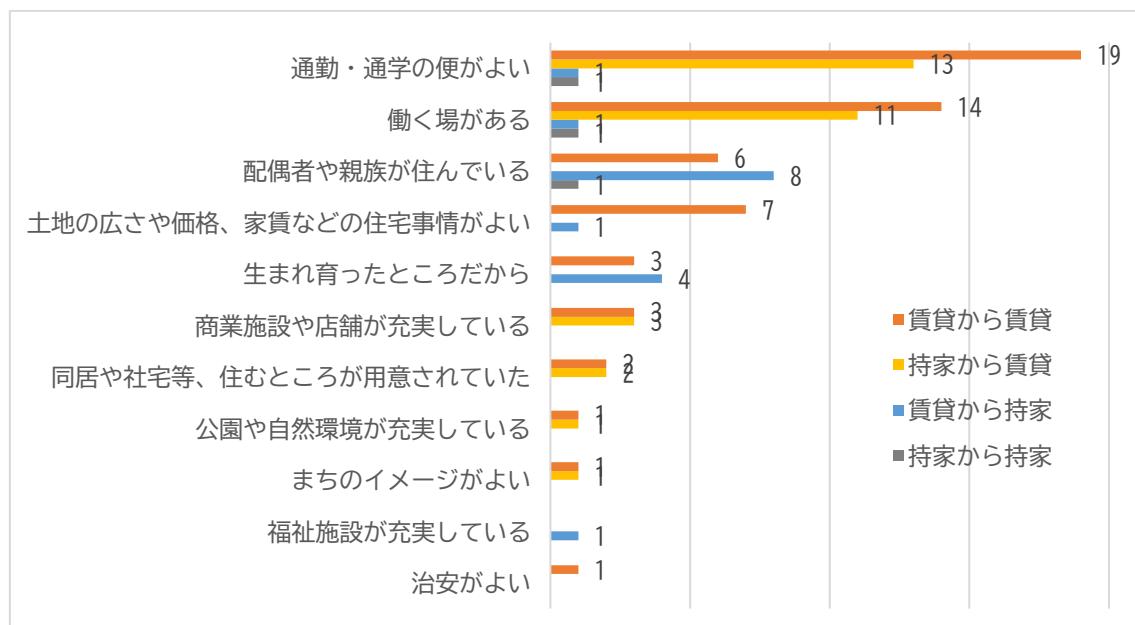


図3-8-5 転出先の選定理由・住居状況

また、世帯構成ごとにみると、単身者・世帯ともに「通勤・通学の便がよい」、「働く場がある」が多く、その殆どが賃貸住宅への居住であった。

(単身)



(世帯)

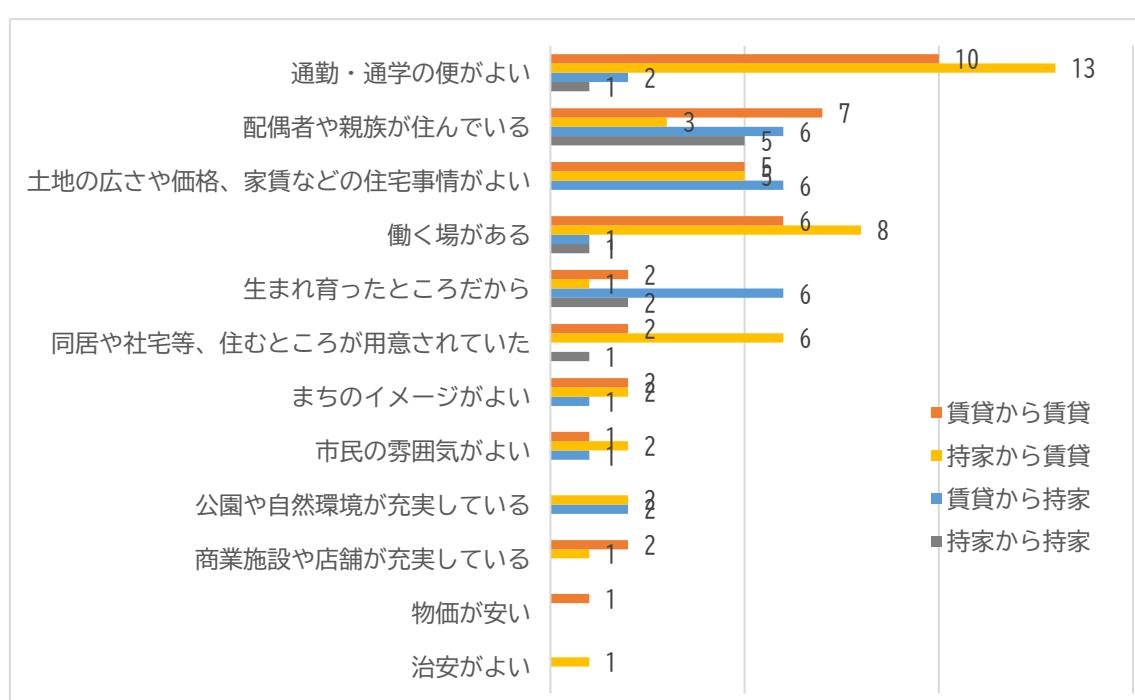


図3－8－6 転出先の選定理由・住居状況・世帯構成

3-8-4 転出先の選定理由・転出理由

転出先を選んだ理由を、転出のきっかけ毎にみると、仕事の都合による転出では「通勤・通学の便がよい」が最も多く、次点が「働く場がある」、「配偶者や親族が住んでいる」の順であった。

また、家庭の都合による転出では、「配偶者や親族が住んでいる」が多く、次点が「通勤・通学の便がよい」、「土地の広さや価格、家賃などの住宅事情がよい」の順であった。住環境の向上を目的とした転出では、「土地の広さや価格、家賃などの住宅事情がよい」が最も多く、次点で「配偶者や親族が住んでいる」、「通勤・通学の便がよい」の順であった。

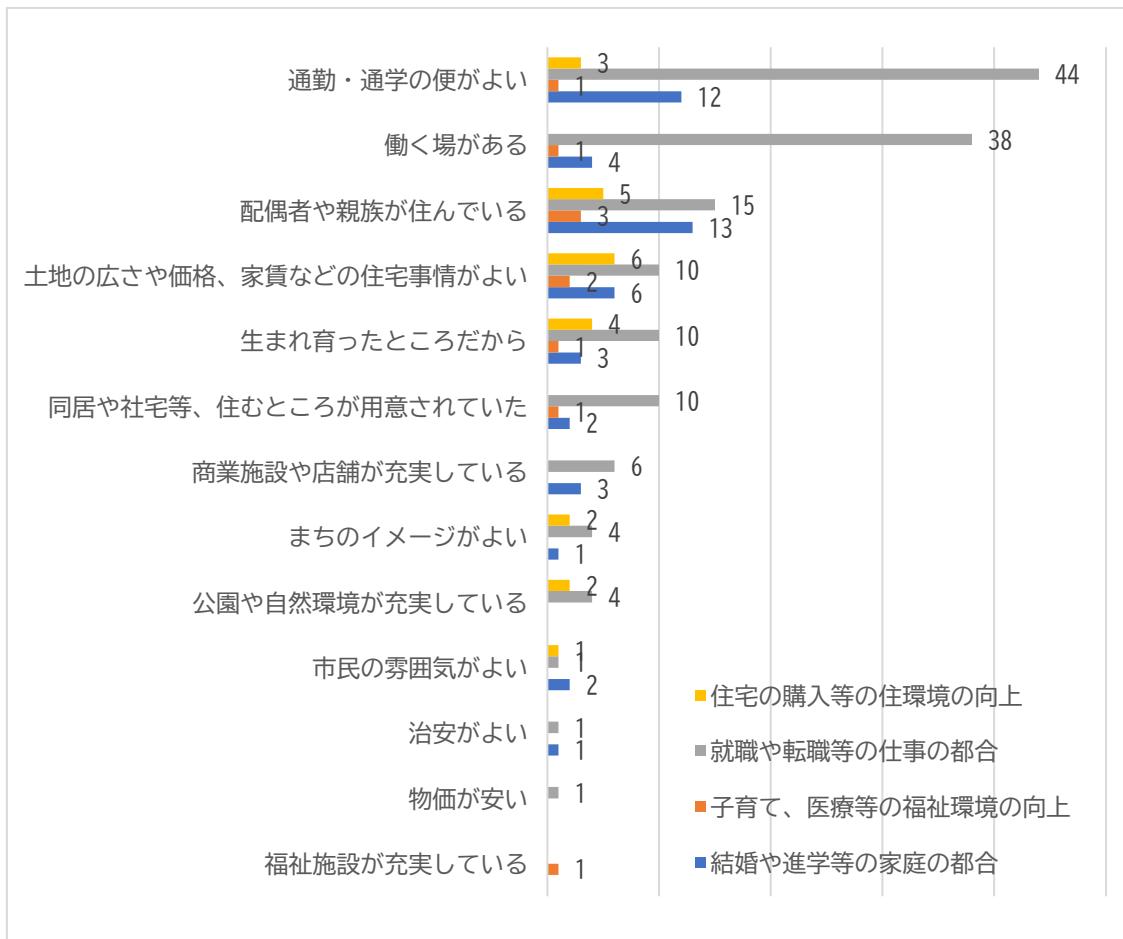
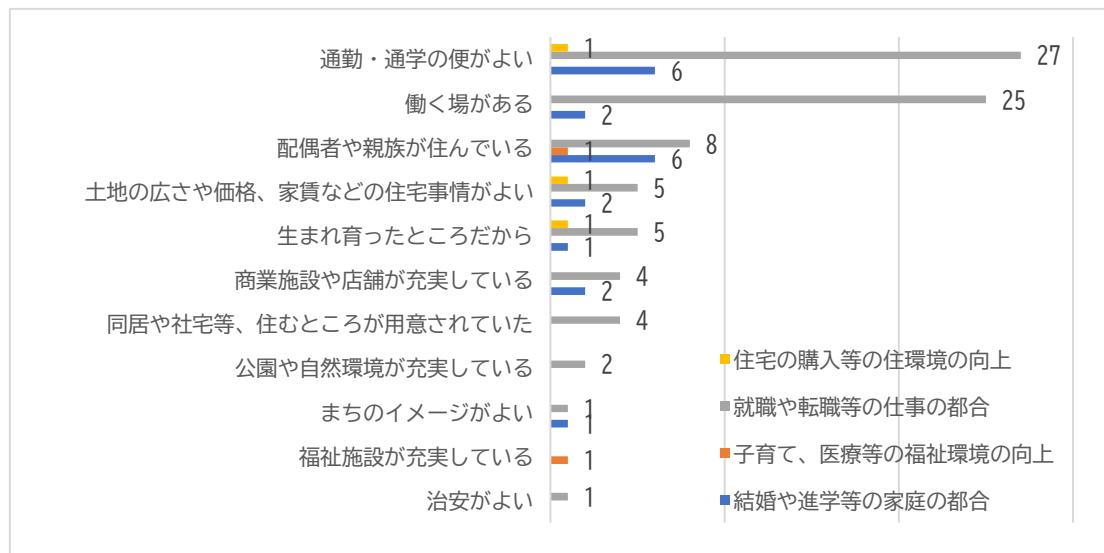


図3-8-7 転出先の選定理由・転出理由

世帯構成毎にみると、単身者においては、「通勤・通学の便がよい」、「働く場がある」が多く、その殆どが仕事の都合による転出であった。世帯についても「通勤・通学の便がよい」が最も多く、その殆どが仕事の都合による転出となっているが、次点は「配偶者や親族が住んでいる」であり、仕事の都合及び家庭の都合による転出が多くを占めている。

(単身)



(世帯)

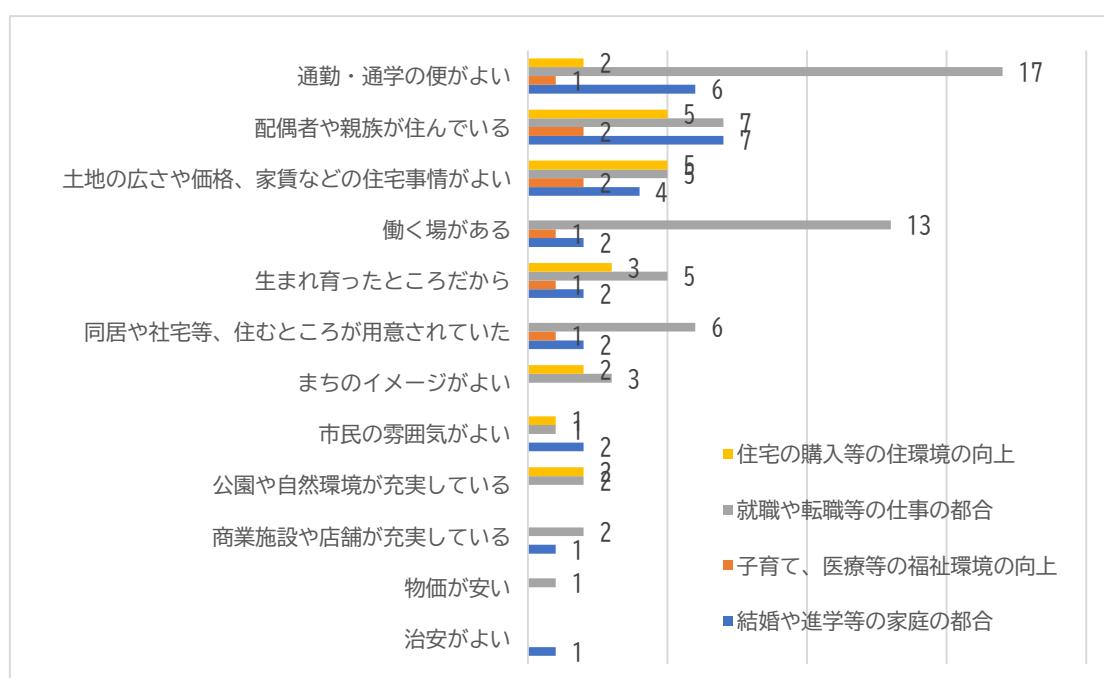
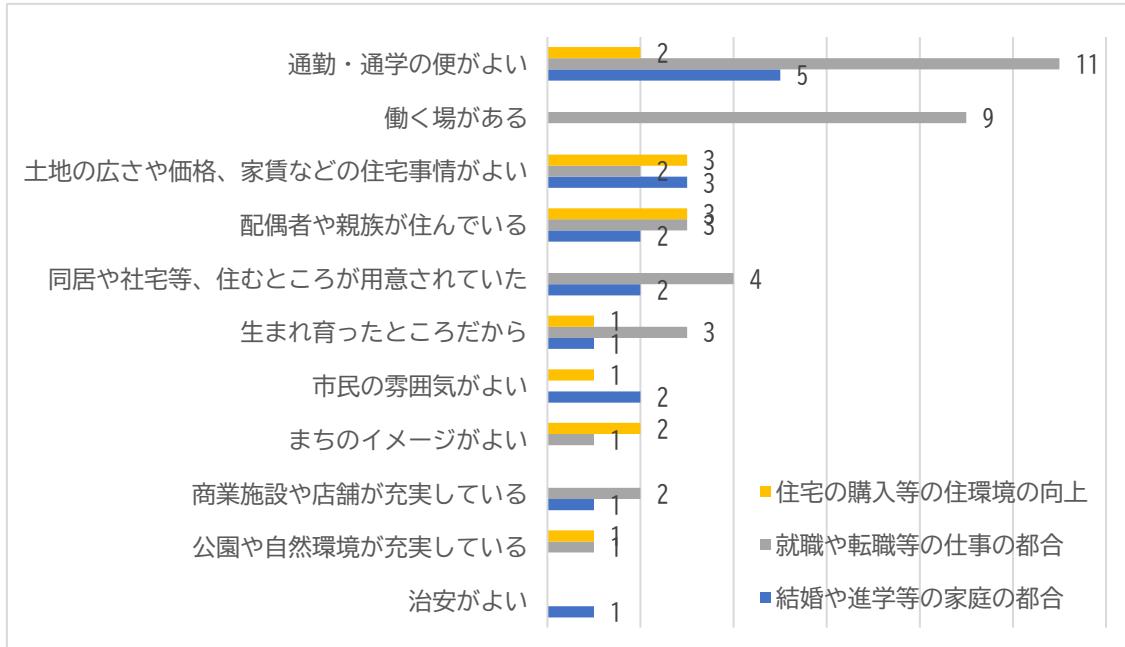


図3－8－8 転出先の選定理由・転出理由・世帯構成①

世帯について詳細をみると、夫婦のみの世帯の場合「通勤・通学の便がよい」が最も多く、その殆どが仕事の都合によるものであった。

また、子どもありの世帯の場合は「配偶者や親族が住んでいる」が最も多く、約半数が家庭の都合によるものであった。

(夫婦のみ)



(子どもあり)

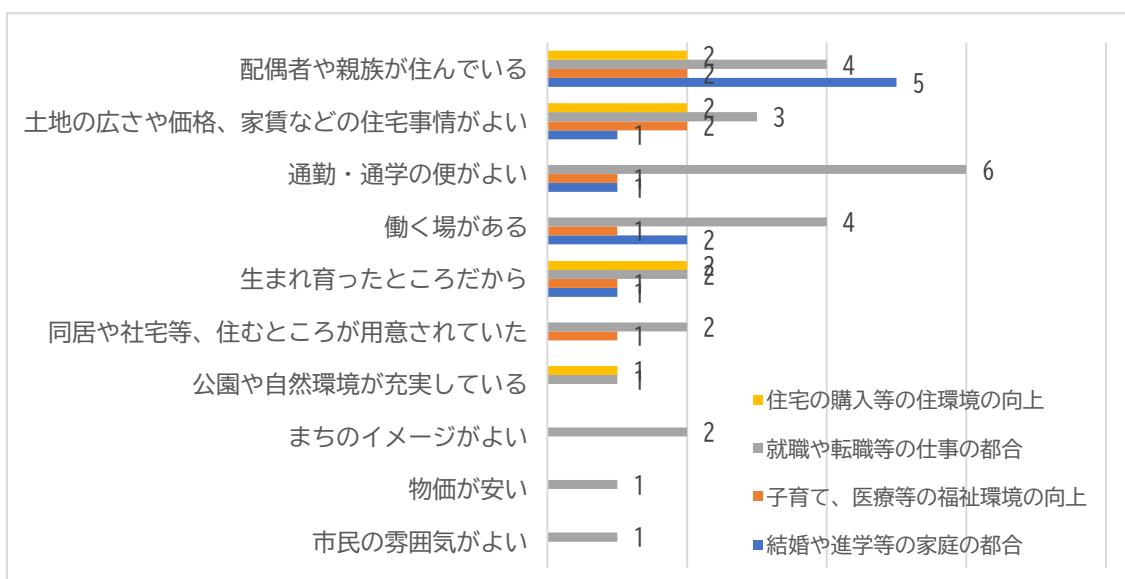


図3－8－9 転出先の選定理由・転出理由・世帯構成②

3-9 鳥栖市の改善点

転出にあたり、自身の思う鳥栖市の改善点を最大3つまで回答してもらい、得点をつけたところ、最も多いのは「商業施設の充実」の 35ptであり、次いで「子育て環境の充実」が 28pt、「イベント・娯楽の充実」が 20ptであった。

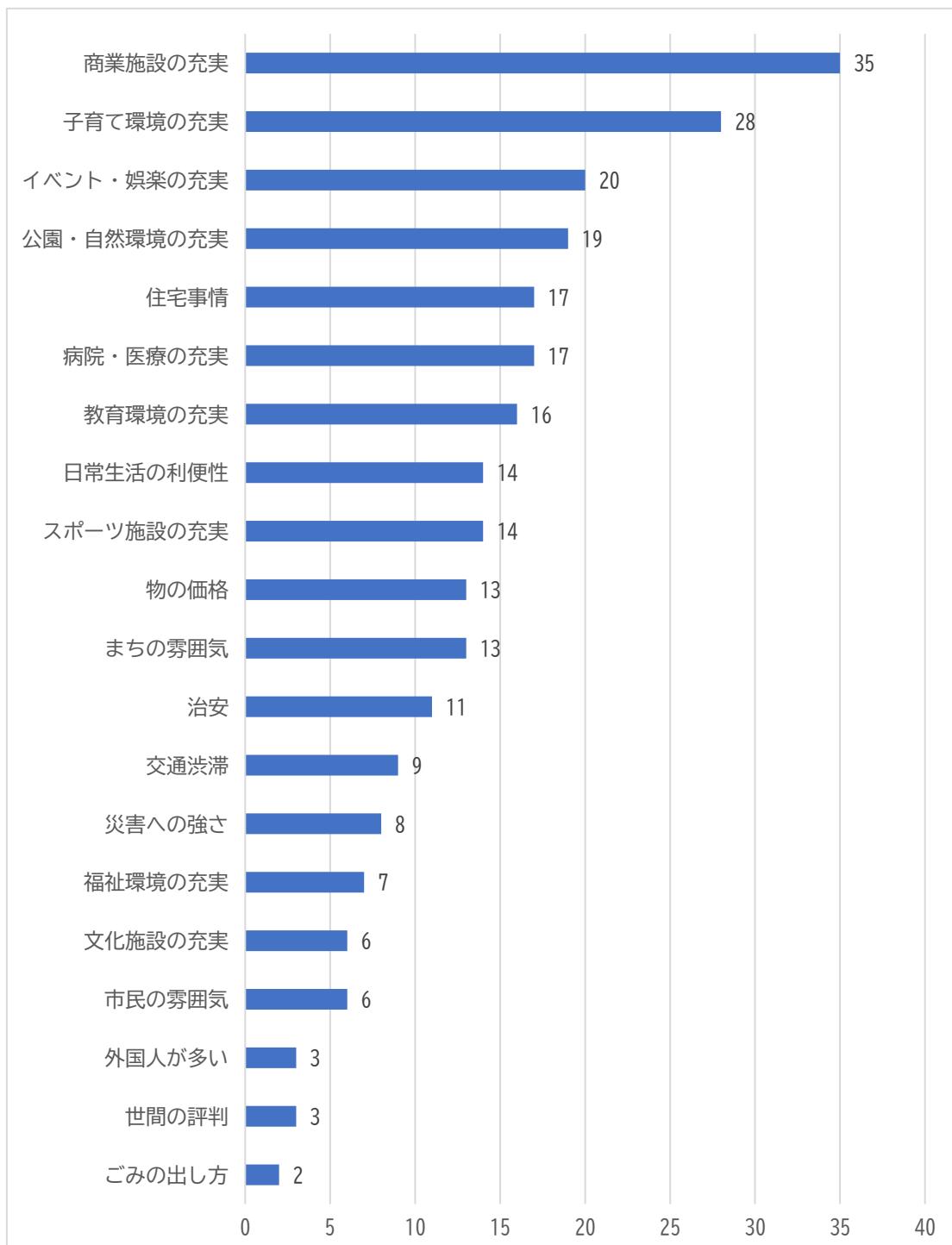


図3-9 鳥栖市の改善点

世帯構成別でみると、単身では「商業施設の充実」が最も多く、次点で「イベント・娯楽の充実」、「スポーツ施設の充実」の順であった。世帯では「子育て環境の充実」が最も多く、次点で「商業施設の充実」、「公園・自然環境の充実」の順であった。

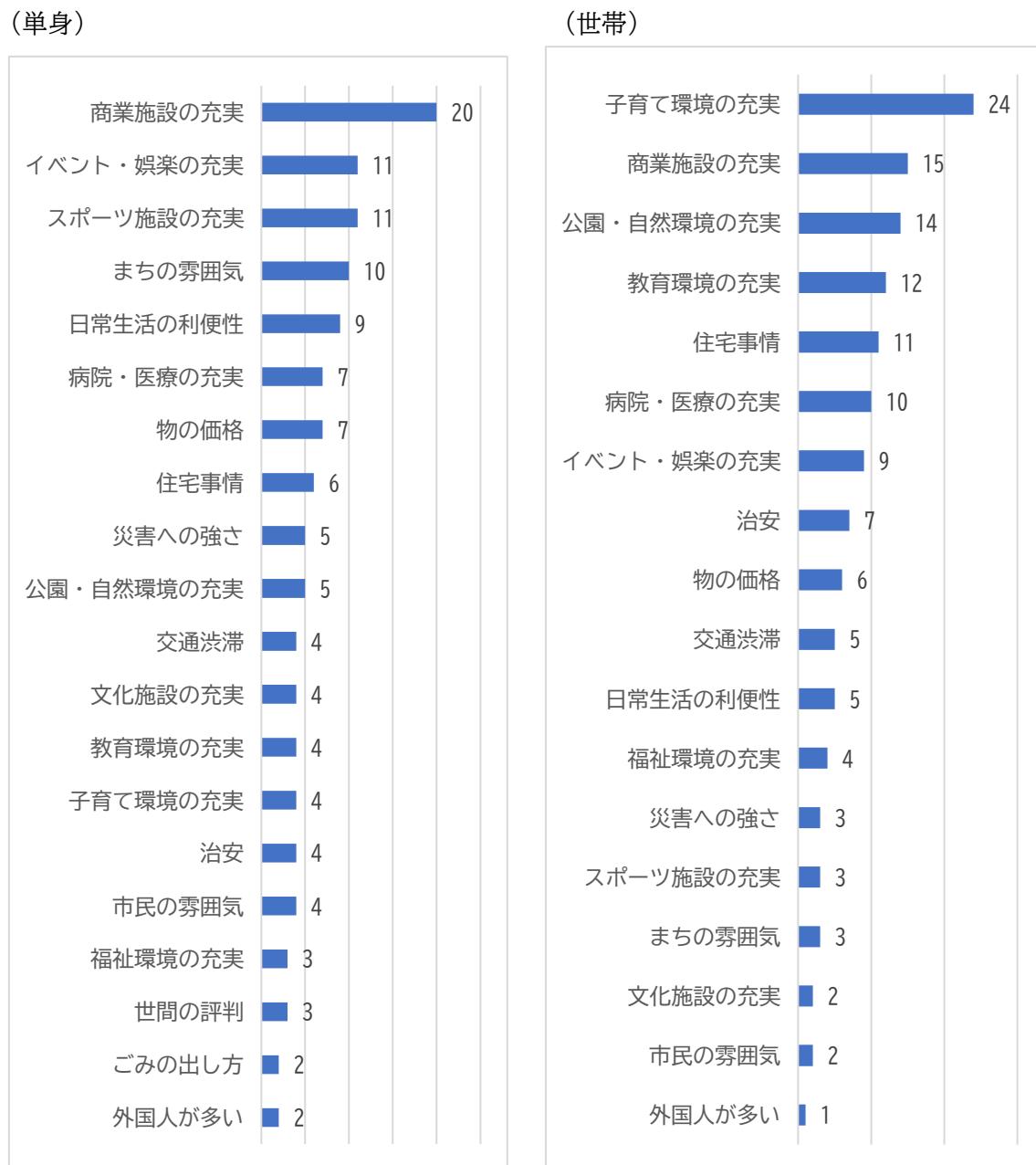


図3－9－1 鳥栖市の改善点・世帯構成

3-9-1 鳥栖市の改善点・転出理由

転出者が考える鳥栖市の改善点を転出理由毎にみると、住環境の向上を目的に転出した場合は「住宅事情」を最も多く選ばれており、仕事の都合で転出したものは「商業施設の充実」、家庭の都合で転出したものは「子育て環境の充実」が最も多く選ばれている。福祉環境の充実を目的に転出したものは、「公園・自然環境の充実」を最も多く選ばれていた。

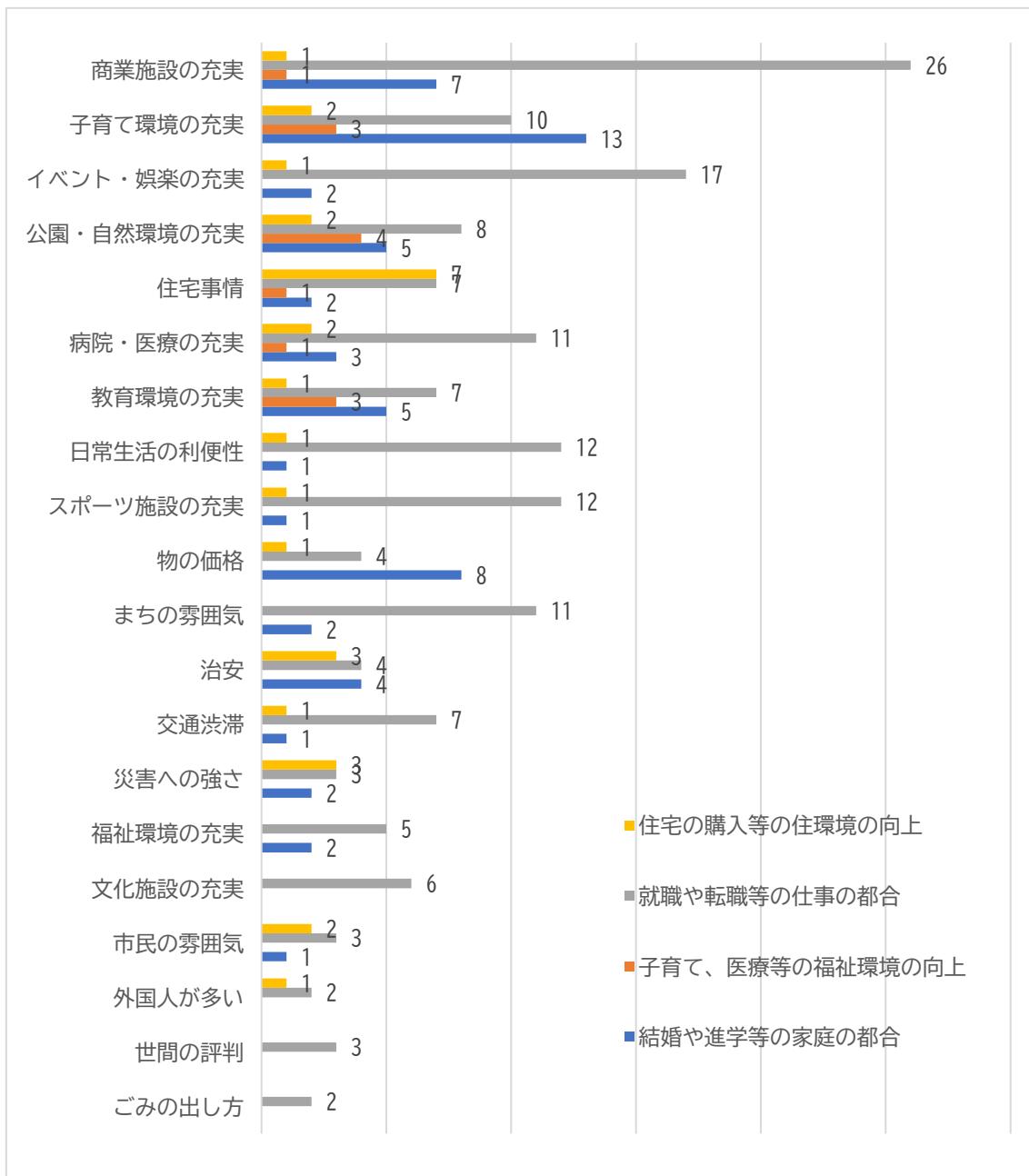
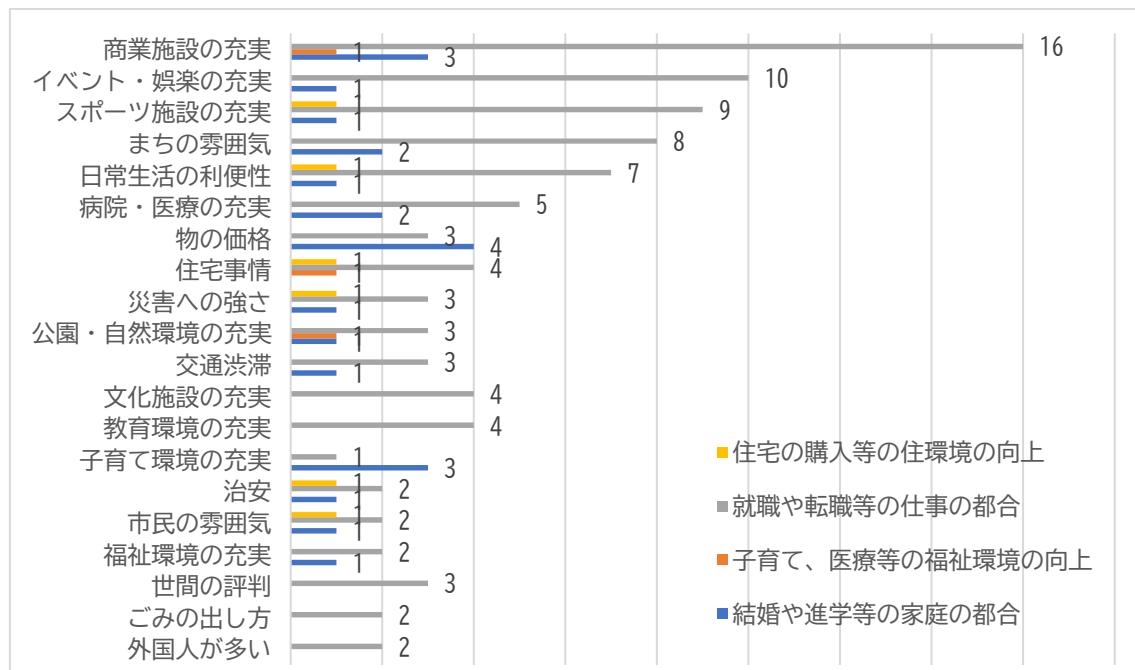


図3-9-2 鳥栖市の改善点・転出理由

また、世帯構成毎にみると、単身においては仕事の都合による転出では「商業施設の充実」が最も多く、家庭の都合による転出では「物の価格」が最も選ばれていた。

世帯においては、住環境の向上を目的に転出するものは「住宅事情」が最も多く、仕事の都合で転出するものは「商業施設の充実」が、福祉環境の充実を目的に転出するものは「子育て環境の充実」、「教育環境の充実」が、家庭の都合で転出するものは「子育て環境の充実」が最も多く選ばれていた。

(単身)



(世帯)

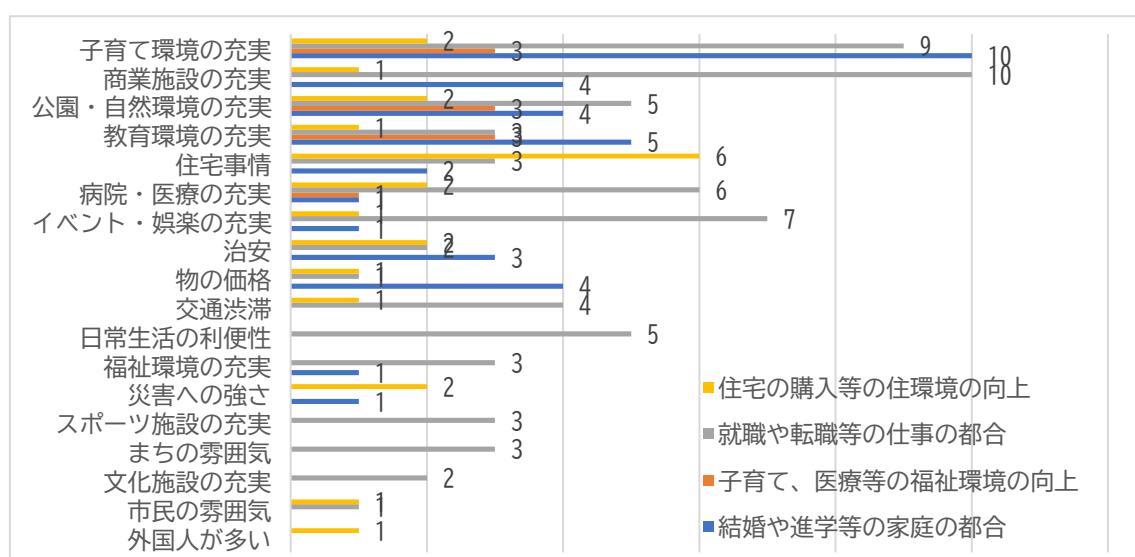
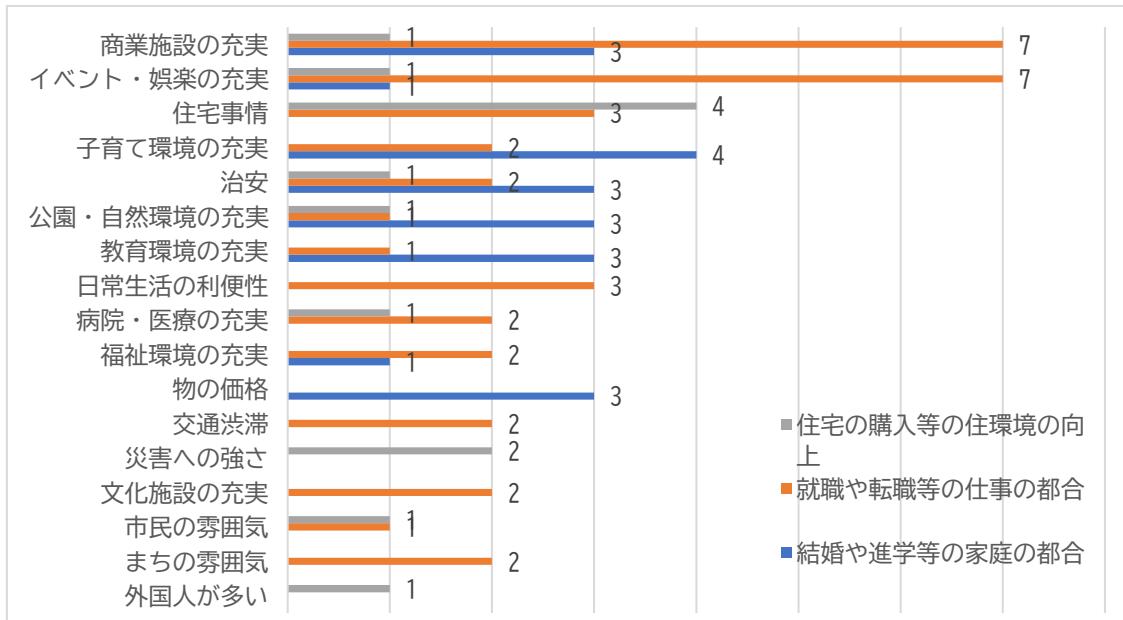


図3－9－3 鳥栖市の改善点・転出理由・世帯構成①

また、世帯について詳細をみると、夫婦のみで転出した世帯について、住環境の向上を目的とした場合は「住宅事情」が最も多く選ばれており、仕事の都合では「商業施設の充実」、「イベント・娯楽の充実」、家庭の都合では「子育て環境の充実」が最も多く選ばれていた。

子どもを帯同しての転出では、仕事の都合及び家庭の都合では「子育て環境の充実」が最も多く、福祉環境の充実、公園・自然環境の充実、教育環境の充実がもっと多く選ばれており、住環境の向上を目的とした場合では、「子育て環境の充実」、「住宅事情」が最も選ばれていた。

(夫婦のみ)



(子どもあり)

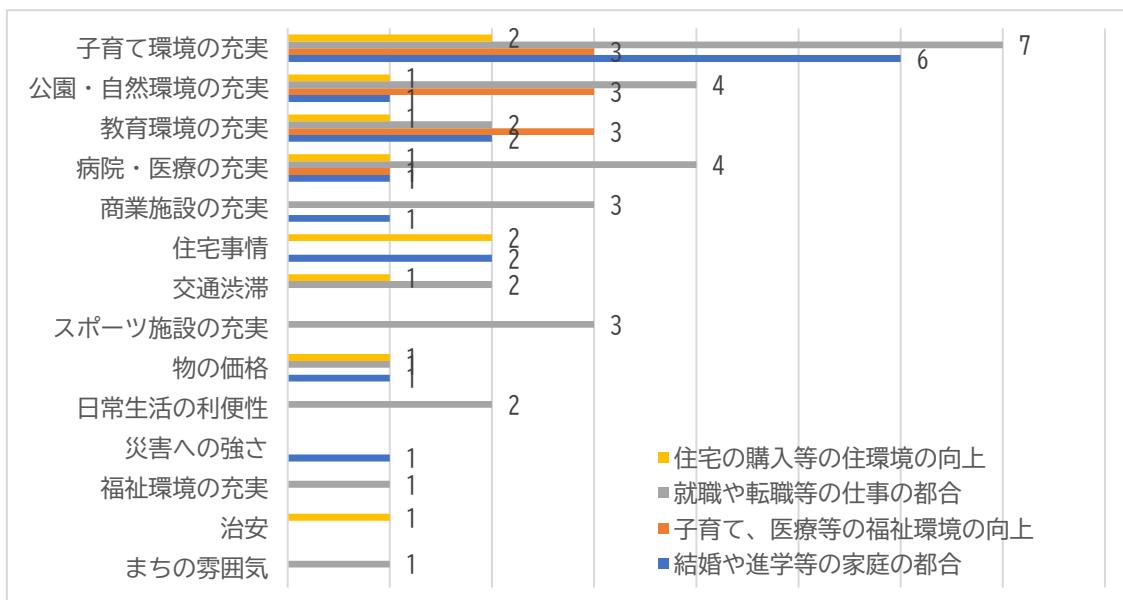


図3－9－4 鳥栖市の改善点・転出理由・世帯構成②